

柳 坂 遺 跡 I

長野県佐久市布施 柳坂遺跡 I 発掘調査報告書

2020.3

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第272集

柳 坂 遺 跡 I

長野県佐久市布施 柳坂遺跡I発掘調査報告書

2020.3

佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書は佐久市による道路建設工事に伴う柳坂遺跡Ⅰの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 佐久市（道路建設課）
- 3 調査主体者 佐久市教育委員会
- 4 遺跡名及び所在地 柳坂遺跡Ⅰ（HYSⅠ）
佐久市布庵 3692 外
- 5 調査期間及び面積 期間：平成 30 年 7 月 11 日～平成 30 年 11 月 7 日
面積：730 m²
- 6 調査担当者 久保 浩一郎
- 7 本書の編集・執筆は久保が行った。
- 8 本調査において出土した遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

- 1 遺構の略称は以下のとおりである。
D－土坑 P－ピット
- 2 遺構断面図の標高は遺構ごとに統一し、スケールバー上に値を示した。
- 3 掲載挿図について
 - ・第 1 図は、地理院タイルの色別標高図（海城部は海上保安庁海洋情報部の資料を使用して作成）及び国土数値情報（行政区域データ）を基に久保が作成した。
 - ・第 2 図及び第 4 図は、国土地理院の基盤地図情報（基本項目データ）と国土数値情報（河川データ）、地理院タイル（陰影起伏図）を基に久保が作成した。
 - ・第 3 図は 5 万分の 1 地質図幅「小諸」（産総研地質調査総合センター）を基に久保が作成した。
- 4 遺構下の斜線は地山、点は掘方を示す。遺構の計測値は上場の計測値である。
- 5 遺物の実測図番号と写真番号は対応し、特に記載のないものは縮尺 1/4、剥片石器は原寸で掲載した。
- 6 本書で示した方位は真北であり、座標値は世界測地系に準拠している。
- 7 ピット一覧表及び遺物観察表における（ ）は推定値を、〈 〉は残存値を示す。

目 次

第 I 章 発掘調査の経過	1
第 1 節 調査にいたる経緯	1
第 2 節 調査組織	2
第 3 節 調査の経過	2
第 II 章 遺跡の立地と環境	3
第 1 節 遺跡周辺の地理的環境	3
第 2 節 遺跡周辺の歴史的環境	4
第 III 章 調査の概要	6
第 1 節 発掘調査の方法	6
第 2 節 基本層序	8
第 3 節 遺構と遺物の概要	8
第 IV 章 遺構と遺物	11
第 1 節 遺構	11
第 2 節 遺物	15
第 V 章 自然科学分析	58
写真図版	
引用参考文献	

挿図目次

第 1 図 佐久市位置図	1
第 2 図 柳坂遺跡位置図	1
第 3 図 柳坂遺跡周辺の地質図	3
第 4 図 柳坂遺跡周辺の遺跡分布図	5
第 5 図 柳坂遺跡周辺地形図	6
第 6 図 グリッド設定図	7
第 7 図 調査区断面図	9
第 8 図 調査区全体図	10
第 9 図 遺構図 1	12
第 10 図 遺構図 2	13
第 11 図 遺構図 3	14
第 12 図 遺物実測図 1	16
第 13 図 遺物実測図 2	17
第 14 図 遺物実測図 3	18
第 15 図 遺物実測図 4	19
第 16 図 遺物実測図 5	20
第 17 図 遺物実測図 6	21
第 18 図 遺物実測図 7	22
第 19 図 遺物実測図 8	23
第 20 図 遺物実測図 9	24
第 21 図 遺物実測図 10	25
第 22 図 遺物実測図 11	26
第 23 図 遺物実測図 12	27
第 24 図 遺物実測図 13	28
第 25 図 遺物実測図 14	29
第 26 図 遺物実測図 15	30
第 27 図 遺物実測図 16	31
第 28 図 遺物実測図 17	32
第 29 図 遺物実測図 18	33
第 30 図 遺物実測図 19	34
第 31 図 遺物実測図 20	35
第 32 図 遺物実測図 21	36

第 33 図 遺物実測図 22	37
第 34 図 遺物実測図 23	38
第 35 図 遺物実測図 24	39
第 36 図 遺物実測図 25	40

図版目次

図版 1 調査区北側完壁	68
図版 2 調査区南側完壁	69
図版 3 調査区北側完壁・調査区南側河川跡	70
図版 4 遺構 1	71
図版 5 遺構 2	72
図版 6 遺構 3	73
図版 7 遺構出土遺物 1	74
図版 8 遺構出土遺物 2	75
図版 9 遺構 3・下層出土遺物	76
図版 10 上層土器縄文前期・中期後半 (1)	77
図版 11 上層土器縄文中期後半 (2)・後期 (1)	78
図版 12 上層土器縄文後期 (2)	79
図版 13 上層土器縄文後期 (3)	80
図版 14 上層土器縄文後期 (4)	81
図版 15 上層土器縄文後期 (5)	82
図版 16 上層土器縄文後期 (6)	83
図版 17 上層土器縄文後期 (7)	84
図版 18 上層土器縄文後期 (8)	85
図版 19 上層土器縄文後期 (9)	86
図版 20 上層土器縄文後期 (10)	87
図版 21 下層・上層石器 (1)	88
図版 22 上層石器 (2)	89
図版 23 上層石器 (3)	90
図版 24 上層石器 (4)	91
図版 25 上層石器 (5)	92

表目次

遺物観察表	41
-------	----

第 I 章 発掘調査の経過

第 1 節 調査にいたる経緯

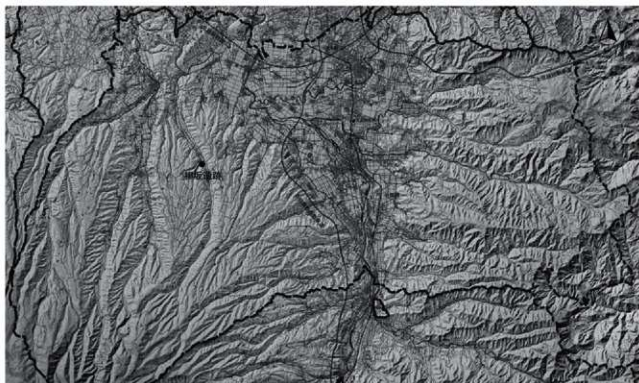
柳坂遺跡は、佐久市西部の布施地籍に所在する縄文時代及び奈良・平安時代の複合遺跡である（第 1 図）。古くより耕作に伴い縄文土器や石器が多量に出土することで知られ、縄文時代中期後半から後期前半の遺跡として認識されてきた。

今回、遺跡内で佐久市による道路建設工事が計画されたことにより、埋蔵文化財の取り扱いについて、佐久市と佐久市教育委員会との間で協議が行われた。平成 30 年 3 月 15 日、文化財保護法第 94 条第 1 項、同第 184 条第 1 項及び文化財保護法施行令第 5 条第 1 項の規定により、佐久市より「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知」が長野県教育委員会に提出された。通知を受け、佐久市教育委員会では、平成 30 年 4 月 12 日・26 日・27 日に柳坂遺跡内の道路建設予定範囲において遺構の確認調査を実施した。

その結果、対象地内の南東側は本沢川の氾濫により遺跡が破壊されていることが確認されたが、北西側では縄文時代の遺物包含層が遺存していることが確認された。そのため、遺物包含層が確認された 730 ㎡について、記録保存を目的とした発掘調査を行うこととなった。



第 1 図 佐久市位置図



第 2 図 柳坂遺跡位置図

第2節 調査組織

調査主体者

佐久市教育委員会 教育長 榑澤 晴樹

事務局

社会教育部長 青木 源

文化振興課課長 小林 義夫（平成31年3月）・東城 洋（平成31年4月～）

文化振興課企画幹 武者 新一（平成31年3月）・吉田 晃（平成31年4月～）

文化財調査係長 塩川 宏幸（平成31年3月）・山本秀典（平成31年4月～）

文化財調査係 小林 眞寿 羽毛田 卓也（平成31年4月～） 富沢 一明 上原 学

萩原 義治（平成31年3月） 久保 浩一郎（～令和元年11月）

臨時職員 森泉 かよ子（～平成31年3月）

調査担当者 久保 浩一郎

調査員 赤羽根 篤 赤羽根 充江 浅沼 勝男 甘利 隆雄 岩松 茂年 大矢 志慕

木内 修一 小林 喜久子 小林 節子 小林 敏雄 堀 益子 清水 律子

田中 ひさ子 中澤 登 羽毛田 利明 橋詰 勝子 橋詰 信子 花岡 美津子

比田井 久美子 堀籠 滋子 宮川 真紀子 武者 幸彦 柳澤 孝子 柳沢 千賀子

山口 ひとみ 山田 叔正 油井 満芳 横尾 敏雄 依田 好行 渡辺 学

森泉 かよ子（令和元年11月～）

第3節 調査経過

平成29年度

3月15日 佐久市より文化財保護法第94条第1項に基づく土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知。

3月19日 29 佐教文振第1502-2号により長野県教育委員会教育長に副申。

3月26日 長野県教育委員会教育長より、29 文第8-315号による通知。

平成30年度

4月12日 柳坂遺跡内の道路建設範囲のうち、木沢川右岸部分の約250㎡について確認調査を実施する。遺構・遺物なし。

4月26・27日 柳坂遺跡内の道路建設範囲のうち、木沢川左岸部分の約1,050㎡について確認調査を実施する。北西側で遺物包含層確認。

4月28日～ 保護協議の結果、遺物包含層が確認された730㎡について記録保存のための発掘調査を行うこととし、調査の準備を行う。

7月11・12日 調査区北側の表土を重機により掘削し、調査区内に進入路・駐車場を造成する。

7月13日 現場用仮設事務所・トイレ等搬入。

7月19日～ 人力による遺物包含層の掘削を開始する。

7月23日 基準点・水準測量を実施し、調査区内に測量用グリッド杭打設。

10月24日 遺構及び包含層掘削を終了し、調査区全景写真撮影を行う。

11月7日 仮設機材を撤去し、現場での作業を終了する。

11月8日～ 文化財事務所での遺物整理作業を行う。

令和2年度

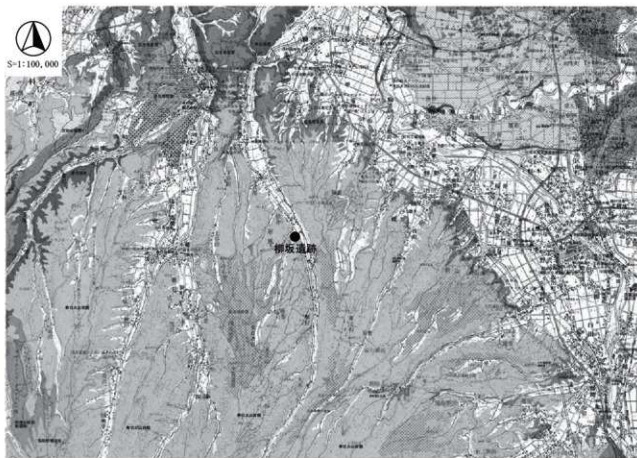
3月 発掘調査報告書刊行。

第二章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

佐久市は長野県の中央東端に位置し、中心市街地の標高は700m内外を測る。平成17年度の市町村合併により現在の市域となり、柳坂遺跡が所在する布施地籍は旧望月町域にあたる。地域の地質を概観すると、北陸新幹線佐久平駅などが位置する市北部は、浅間火山岩類を基盤としている。浅間軽石流の台地が河川に侵食されて形成された「田切り」地形が特徴的に発達し、台地上には弥生時代から平安時代を中心とした多数の遺跡が確認されている。佐久山地の丘陵部からなる市東部は、志賀溶結凝灰岩などの鮮新世火山岩類を基盤とし、黒色安山岩を用いた八風山遺跡や、駒込頁岩を用いた天神小根遺跡などの旧石器時代遺跡が確認されている。水田が広がる市中央部は、市内を北流する千曲川により形成された沖積地であり、自然堤防上や微高地上に遺跡が点在する。小諸市・東御市に接する市北西部では、瓜生坂累層・布引累層などの湖沼堆積物を基盤とする御牧原台地・八重原台地が広がり、古代の牧関連遺構や須恵器の窯跡などが確認されている。八ヶ岳連峰の北山麓にあたる市南西部は、春日火山岩類・長者原礫層・壘石溶岩などをはじめとする八ヶ岳火山岩類を基盤とする山地からなり、藝科山から北流する布施川、細小路川、鹿曲川、八丁地川などの河川沿いに縄文時代をはじめとする各時代の遺跡が多数確認されている。

柳坂遺跡は布施川中流、支流の本沢川との合流部に位置している。今回発掘調査を行ったのは遺跡の西側、本沢川により形成された小扇状地上の東向き緩斜面部分で、標高約760mを測る。本沢川の河川堆積層を基盤層としており、本沢川に近い部分は氾濫により遺跡が消失してしまっている。



第3図 柳坂遺跡周辺の地質図

第2節 歴史的環境

本遺跡周辺の歴史は古く、旧石器時代まで遡る。立科F遺跡(2)では、発掘調査により黒曜石を主体とする石器群が出土し、31,200 ± 900年前という測定結果が得られている。また、八丁地川上流部の西久保入遺跡(3)では、黒曜石製の尖頭器が採取され、榛名平遺跡(4)でも黒曜石製のナイフ形石器等が出土している。居住の痕跡こそ確認されていないが、旧石器時代から人々の活動の場であったことがわかっている。

縄文時代早期になると、鹿曲川や八丁地川沿いの段丘上などに集落が展開していく。新水遺跡(5)、松原(浄水坊)遺跡(6)・金塚遺跡(7)、岩清水遺跡(8)では早期の住居址等が、竹之城原遺跡(9)・栃久保A遺跡(10)、下吹上遺跡(11)、榛名平遺跡(4)、では前期の住居址等が確認されている。中期になると、集落立地は前期同様だが遺跡数は増加する。竹之城原遺跡(9)・山の神(上吹上)遺跡(12)・後沖遺跡(13)・栃久保A遺跡(10)・平石遺跡(14)、胡桃沢遺跡(15)、榛名平遺跡(4)、中村遺跡(16)、山法師遺跡(17)、筒村遺跡(18)、駒込遺跡(19)、土合遺跡(20)、海戸田A遺跡(21)など、多数の遺跡が確認されており、平石遺跡(14)では中期末に位置づけられる柄鏡形敷石住居址等の良好な資料が得られている。本遺跡が形成されるのも中期後半と考えられる。後期は遺跡数が減少するが、平石遺跡(14)、筒村遺跡(18)、海戸田A遺跡(21)などで住居址が確認されており、平石遺跡(14)と海戸田A遺跡(21)では中期に続き柄鏡形敷石住居が確認されている。浦谷B遺跡(22)では、住居址こそ確認されていないが、後期から晩期に位置づけられる多量の土器や石器、土製品が出土している。本遺跡でも出土遺物の主体となるのはこの時期であり、調査区周辺に住居址が存在する可能性は高いと考えられる。晩期では浦谷B遺跡(22)で土器が出土しているに過ぎず、生活の痕跡は希薄である。その原因として、集落立地が沖積地上などに変化したためと考えられる。

弥生時代になっても、中期までの様相は不明瞭である。後期になると、千曲川左岸沖積地の舞台場遺跡(23)、右岸台地上の熊の堂遺跡(24)や原遺跡(25)で集落址が確認されるようになる。集落の立地は生業活動に起因すると考えられるが、山麓部に立地する縄文時代の集落遺跡においても弥生時代後期の遺物が出土していることから、山麓部においても何らかの活動が行われていたと考えられる。

古墳時代では、岩清水遺跡(8)、後沖遺跡(13)、駒込遺跡(19)などで集落が確認されており、後沖遺跡では緑色凝灰岩の剥片等の玉作り関連の遺物が出土している。古墳では山麓末端部の尾根上に築かれた瀬の峯1号・2号古墳(26)、兜山1号・2号古墳(27)、内塚塚1号・2号古墳(28)などが、佐久市内では希少な4世紀から5世紀代に位置づけられるものである。後期になると主要河川の段丘上に多数の群集墳が築かれようになる。これらの古墳の副産品に馬具が多いことから、盛んな馬の生産・飼育が想定され、それらが古代の牧経営の基盤となったと考えられる。また当該地域内では、瓜生坂祭祀遺跡(29)等の存在から古東山道の存在が指摘されている。

奈良・平安時代には再び遺跡数が増加し、広範囲に集落が展開するようになる。御牧原台地には勒旨牧である望月牧が成立し、信濃最大の牧として律令体制下において重要な役割を果たすことになる。その名残として、現在でも台地上に野馬除跡(30)を見ることができる。また山麓末端部や台地上の緩斜面地では、石附窯跡(31)、権現山窯跡(32)、須釜原窯址群(33)等の須恵器窯址が確認されており、佐久郡において須恵器生産の役割を担う地域でもあった。

中世においては、木曾義仲の軍兵に参加し、鎌倉幕府において重要な役割を果たすことになる望月氏などの在地の勢力による開発が進められたと考えられる。山麓尾根上に築かれた多くの山城は、当時の不安定な情勢を物語るものである。

近世には中山道が整備され、西から望月宿・八幡宿・塩名田宿が形成され、現在の望月・浅科市街地の基礎となる。



第4図 柳坂遺跡周辺の遺跡分布図

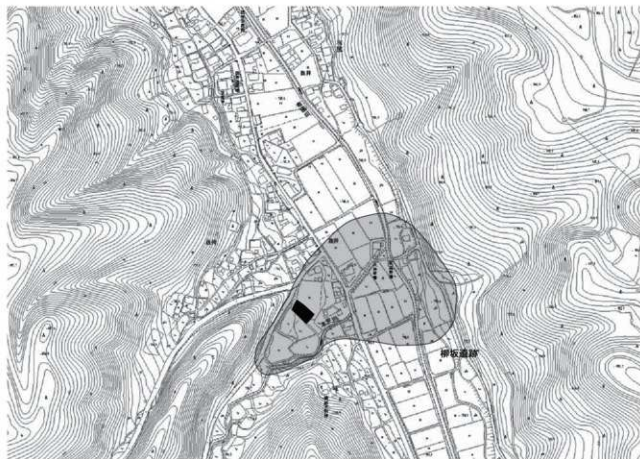
第三章 調査の概要

第1節 発掘調査の方法

柳坂遺跡は、蓼科山麓を北流する布施川と、支流の本沢川との合流地点、標高約750m～760mに位置している(第5図)。今回発掘調査を行ったのは遺跡の西側にあたり、本沢川により形成された小扇状地上の南東向き緩傾斜である。この場所は近年の畑地造成により削平されており、北東側が一段低くなっている。その比高差は1m程度で、下段は遺物包含層が露出し耕作土内に縄文土器片が散乱している状況であった。

道路予定地内の確認調査(第6図)の結果、本沢川に近い部分では河川の氾濫による厚い砂礫堆積が認められ、遺物も出土しないことから、遺跡は消失したと考えられる。一方北西の山側では、腐植土と考えられる黒色土層と、山側からの流入土と考えられる赤色系の粘土層とが互層をなし、黒色土中より多量の縄文土器が出土した。このことから、遺物包含層が確認された730㎡について本調査を実施することとなった。

本調査は平成30年7月11日～平成30年11月7日に実施した。調査区内で進入路及び仮設駐車場を確保する必要があったため、現地形の段をもって調査区を二分することとし、北東の下段側から調査を行った。北東側は遺物包含層が露出している状態であったが、遺物を採集しながら耕作土のみ重機により除去し、排土は南西の上段側へ仮置きした。その後調査区内に、国土地理院の平面直角座標系原点第Ⅶ系を基点とするグリッドを設定した(第6図)。調査区北東のX=25280、Y=-9920を起点とし、ローマ数字名を付した20m四方の大グリッドと、大グリッド内を北東から南西に向かって算用数字により25分割した4m四方の小グリッドの組み合わせによりグリッド名を付し、グリッド杭を打設した。



第5図 柳坂遺跡周辺地形図



第6図 調査区グリッド設定図

グリッド杭打設後は、人力で遺物包含層を掘下げ、遺構検出を行った。遺構外出土遺物はグリッドごとに取上げた。検出した遺構については、遺構ごとに遺構埋土の土層観察・記録を行いながら掘下げ、完掘後にグリッド杭を用いた簡易遺方測量により平面図を作成した。写真はデジタル一眼レフカメラによるRAW及びJPEGデータと、35mm一眼レフカメラによるカラーリバーサルフィルムにより記録した。

北東側の記録作業終了後は、北東側と南西側を反転させ、調査区内へのグリッド杭打設、遺物包含層掘削及び遺構検出、遺構掘削、遺構図作成及び遺構写真撮影という一連の記録作業を実施した。

現場での本調査終了後は、平成30年11月8日より佐久市教育委員会文化振興課文化財事務所での整理作業を行った。遺物洗浄、注記、接合、復元、実測を行った後、デジタル一眼レフカメラによる遺物写真撮影を行い、本書の作成については、Adobe社のIllustrator、Photoshop、InDesignを用いて編集・執筆を行った。



発掘調査風景

第2節 基本層序

調査区西・南・北壁断面図から、調査区内の土層堆積を22層に分類した。対象地内中央に現代の畑地造成によって形成された段差が存在するため、南北壁で様相が異なる。1・2層は表土、3～20層は遺物包含層、21・22層が地山に大別される。3～20層の遺物包含層については、3～6層が縄文時代後期前半を主体とし、縄文時代前期から奈良・平安時代までの遺物包含層、7層は河川氾濫による礫層で遺物はほとんど出土しない。8～16層は縄文時代後期前半を主体とし、縄文時代前期から後期の遺物包含層。17～20層は縄文時代前期の遺物包含層に分かれる。

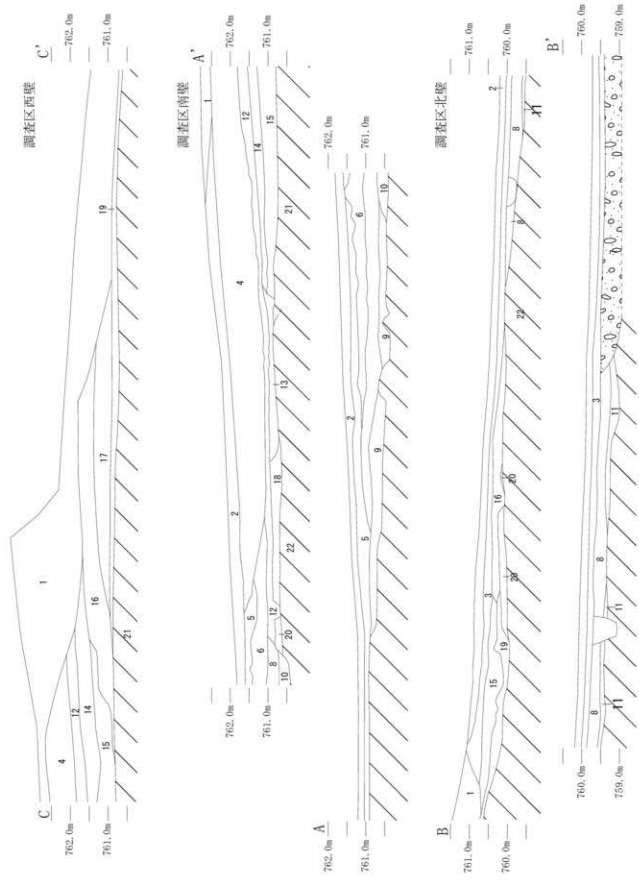
遺構確認面は、調査区南側では12層及び8層上面、北側では16層及び8層上面である。以下に各層の特徴を述べる。

- 1層 盛土 畑地造成に伴う盛土
- 2層 畑耕作土
- 3層 暗褐色土 (10YR3/3) 耕作等による攪乱を受け、多量の土器片と共にガラス等も含む
- 4層 褐色粘質土 (7.5YR4/3) 金属片・土器片含む
- 5層 暗褐色土 (7.5YR3/4) ϕ 10cm以下の円・角礫含む
- 6層 暗褐色土 (10YR3/3) 須恵器等奈良・平安時代の遺物をわずかに含む
- 7層 黄褐色砂礫土 (10YR6/2) 河川氾濫による堆積層
- 8層 黒褐色土 (10YR3/1) ϕ 30cm以下の円・角礫多量含む 遺物多量に含む
- 9層 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) ϕ 30cm以下の円・角礫少量含む 遺物多量に含む
- 10層 灰褐色砂質土 (7.5YR4/2) ϕ 10cm以下の円・角礫含む 遺物含む
- 11層 褐色シルト質土 (10YR4/6) ϕ 10cm以下の円・角礫少量含む
- 12層 黒褐色土 (10YR3/1) ϕ 30cm以下の円・角礫、炭化物含む 遺物含む
- 13層 褐灰色土 (10YR4/1) 10cm以下の粘土ブロック含む 遺物含む
- 14層 橙色粘質土 (7.5YR6/6) ϕ 30cm以下の円・角礫、炭化物含む 遺物含む
- 15層 黒褐色土 (10YR3/1) ϕ 30cm以下の円・角礫、炭化物含む 遺物含む
- 16層 暗褐色粘質土 (7.5YR3/3) 30cm以下の円・角礫多量含む 遺物含む
- 17層 にぶい赤褐色粘質土 (5YR5/4) しまり強い 遺物含む
- 18層 褐灰色砂質土 (10YR4/1) 遺物含む
- 19層 黒褐色土 (10YR3/1) ϕ 10cm以下の円・角礫多量含む
- 20層 明褐色土 (7.5YR5/6) 黒褐色土ブロック含む 遺物含む
- 21層 橙色土 (7.5YR6/6) ϕ 50cm以下の円・角礫、砂含む 地山
- 22層 黒褐色砂質土 (10YR3/1) ϕ 50cm以下円・角礫多量含む 地山

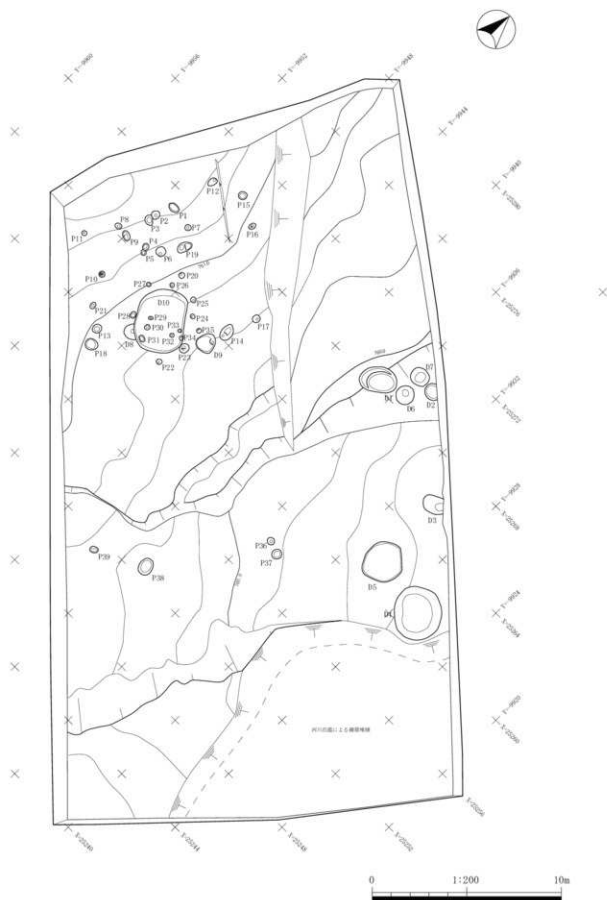
第3節 遺構・遺物の概要

遺構 土坑10基 ビット36基

遺物 縄文土器(深鉢・浅鉢・注口土器)・須恵器
石器(石鏝 石匙 石錐 打製石斧 磨製石斧 削器 刃器 蔽石 石皿 石棒)
土製品(土偶 円盤状土製品)



第 7 图 调查区断面图



第8図 調査区全体図

第IV章 遺構と遺物

第1節 遺構

D1 号土坑 (第9図) I-15・20グリッドに位置し、長軸1.99m、短軸1.35m、深さ0.42mを測る楕円形の土坑である。16層上面で検出され、検出面から埋土中位まで円・角礫が多量に入るが、無造作に投げ込まれたような状況である。遺物は縄文時代後期前半を主体とする縄文土器と石器が出土した。

埋土の微細物分析を行った結果(第V章)、被熱した骨片や、炭化した種実などが検出されることから、食物残滓を廃棄した場所の可能性が考えられる。

D2 号土坑 (第9図) I-14グリッドに位置し、東西0.87m、南北0.69m以上、深さ0.25mを測り、北側が調査区外に延びる。8層上面で検出され、埋土に焼土を含む。遺物は縄文時代後期と考えられる土器が出土している。

D3 号土坑 (第9図) I-18グリッドに位置し、長軸1.09m以上、短軸0.92m、深さ0.63mを測り、北側が調査区外に延びる。8層上面で検出された。遺物は縄文時代前期及び後期と考えられる土器が出土している。

D4 号土坑 (第9図) I-22グリッドに位置し、長軸2.85m、短軸2.50m、深さ0.81mを測る円形の土坑で、8層上面で検出された。遺物は縄文時代後期と考えられる土器が出土している。

埋土中より出土した炭化物について放射性炭素年代測定を実施した結果、現代の所産であることがわかった(第V章)。

D5 号土坑 (第9図) I-23グリッドに位置し、長軸2.35m、短軸2.06m、深さ0.13mを測る円形の土坑で、8層上面で検出された。遺物は縄文時代前期及び後期と考えられる土器が出土している。

D6 号土坑 (第9図) I-14グリッドに位置し、長軸0.98m、短軸0.95m、深さ0.27mを測る円形の土坑で、22層上面で検出された。埋土中に円・角礫を含む。遺物は縄文時代後期と考えられる土器が出土している。

D7 号土坑 (第9図) I-14グリッドに位置し、長軸1.00m、短軸0.98m、深さ0.51mを測る円形の土坑で、22層上面で検出された。埋土中に円・角礫を含む。遺物は縄文時代後期と考えられる土器が出土している。

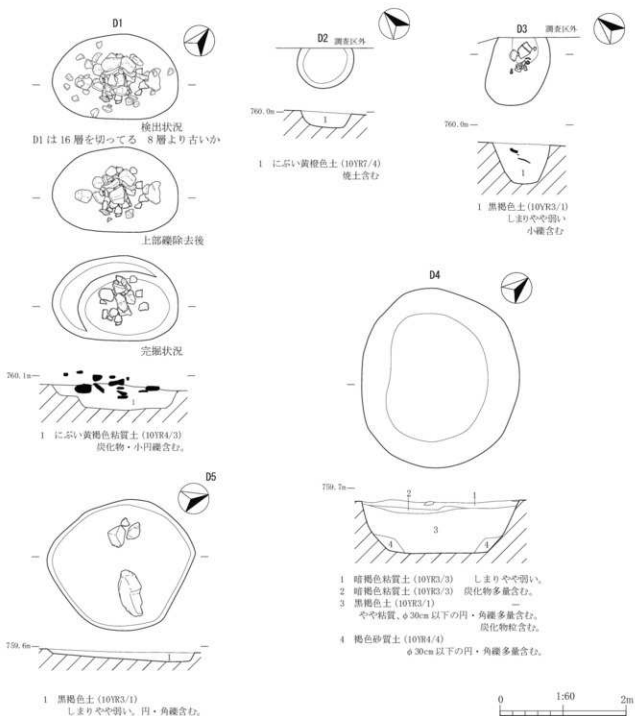
D8 号土坑 (第9図) II-23グリッドに位置し、長軸1.12m、短軸0.84m、深さ0.21mを測る楕円形の土坑で、D10号土坑より新しい。12層上面で検出され、焼土層が認められる。遺物は出土していないが、奈良・平安時代以降の所産と考えられる。

D9 号土坑 (第10図) II-22グリッドに位置し、長軸1.05m、短軸0.97m、深さ0.34mを測る楕円形の土坑で、12層上面で検出された。埋土中より出土した炭化物について放射性炭素年代測定を実施し、calBP3,696～3,586という結果が得られた(第V章)。遺物は縄文時代後期と考えられる土器が出土している。

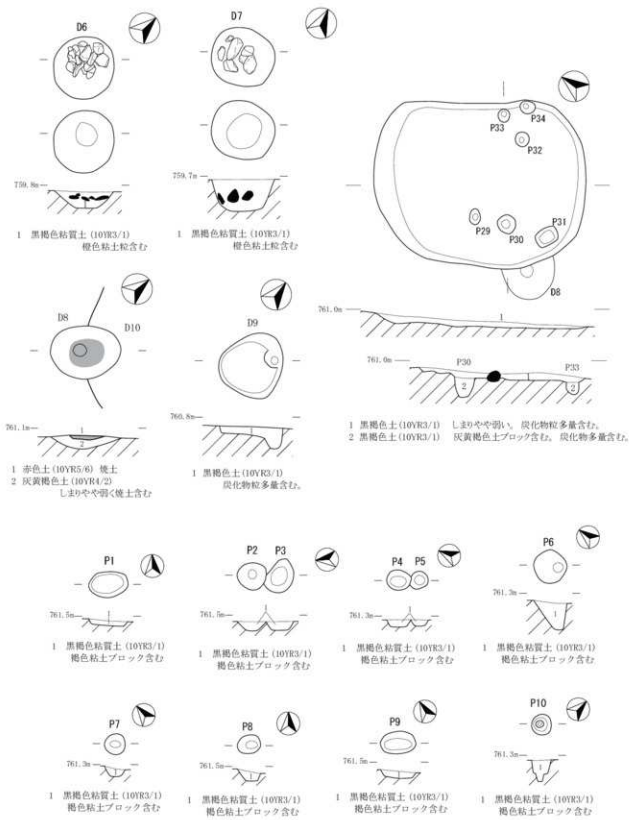
D10 号土坑 (第10図) II-22グリッドに位置し、長軸3.35m、短軸2.62m、深さ0.14mを測る隅丸方形の土坑で、12層上面で検出された。埋土中より出土した炭化物について放射性炭素年代測定を実施し、

calBP920 ~ 795 という結果が得られた。遺物は縄文時代後期と考えられる土器が出土している。

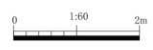
ピット (第10・11図) II-13~IV-3グリッド付近を中心に36基検出された。長軸0.3~0.9m、深さ0.1~0.4mを測り、円形ないし楕円形を呈する。概ね12層及び8層上面で検出され、埋土は黒褐色粘質土を基調とする。P37~P39で縄文時代後期と考えられる土器が出土している。

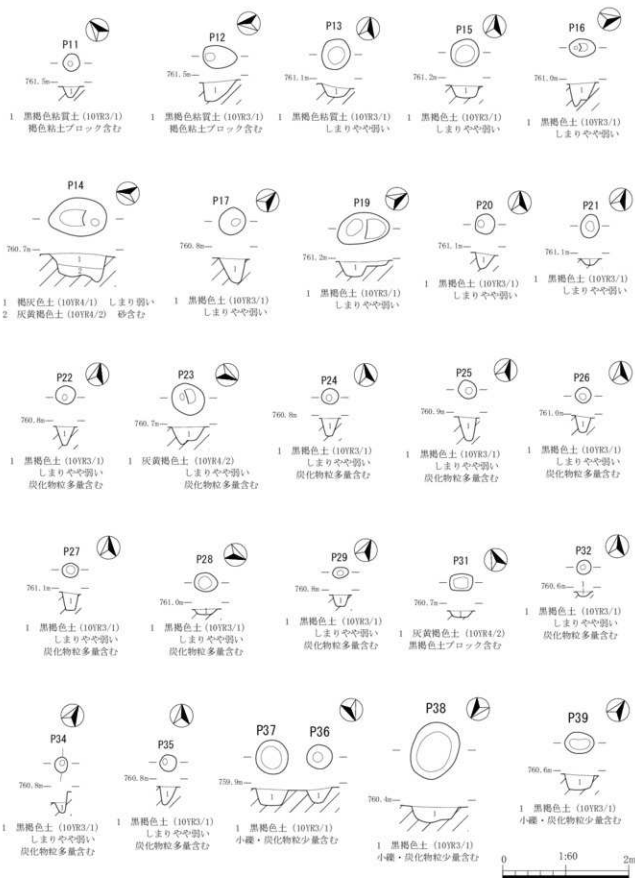


第9図 遺構図1



第10図 遺構図2





第11図 遺構図3

第2節 遺物

遺構及び包含層から多量の縄文土器及び一片の奈良・平安時代の遺物が出土した。大半は遺構外からの出土である。

遺構出土遺物はすべて縄文時代の土器・石器であるが、いずれの遺構においても埋土中の破片資料であることから、遺構に伴うものではないと考えられる。縄文時代後期前半を主体とし、前期のものがわずかに認められる状況は、遺構外出土遺物と同様である。

遺構外では、調査区東端の河川氾濫帯を除く全域に遺物包含層が認められ、3層から19層の包含層中より多量の縄文土器・石器と、須恵器・土師器片が数点出土した。特に調査区を南西から北東に延びる谷状の地形に堆積した8層からは、縄文時代後期前半を主体とする前期から後期の多量の土器や、土偶等の土製品、黒曜石の原石などが出土している。また、調査区西側では橙色粘土層と黒色腐食土層の互層が認められ(12層～19層)、19層では前期に位置付けられる土器が出土している。19層から出土した炭化物の放射性炭素年代測定を実施した結果、calBp6,883～6,738という測定結果が得られた(第V章)。

須恵器・土師器等奈良・平安時代の遺物は、包含層第6層の上位より出土している。

出土遺物の主体となる縄文土器をみると、前期の土器では、第16図5・8は口縁部の隆帯や捺糸文から、前期初頭に位置付けられる塚田式土器と考えられる。第16図9～18は前期前半に位置付けられるものであり、胎土に繊維を含み体部に羽状縄文が施される。

54～57は櫛歯状工具による列点刺突文から前期前半の有尾式と考えられる。

第16図1～4・6・7は、半截竹管による沈線や貼付文、浮線文などから、前期後半に位置付けられる諸磯式土器と考えられる。

第17図下段の中期に位置付けられる土器はわずかであるが、縦位沈線と矢羽状沈線が施されるものや、隆帯文が施されるものが認められ、いずれも中期後半のものと考えられる。

出土土器の大半を占めるのが後期初頭～中葉に位置付けられる土器である。

第18図～第20図は称名寺式土器、第20～25図は堀之内1・堀之内2式土器、第25図～27図は加曾利B式土器と考えられる。その他少量ではあるが、第27図下段のような三十桶場式土器も確認できる。またこれらの後期初頭から中葉の土器群に伴うと考えられる粗製土器や圧痕隆帯を持つ土器も一定量認められる。器形をみると、深鉢が主体となるが、器高の低い鉢や、注口が付くものなどもみられる。577(第25図)は包含層第8層より出土した土器であり、堀之内2式土器と考えられる。内面に付着した炭化物の放射性炭素年代測定を実施した結果、calBp4,144～3,978という結果が得られている。

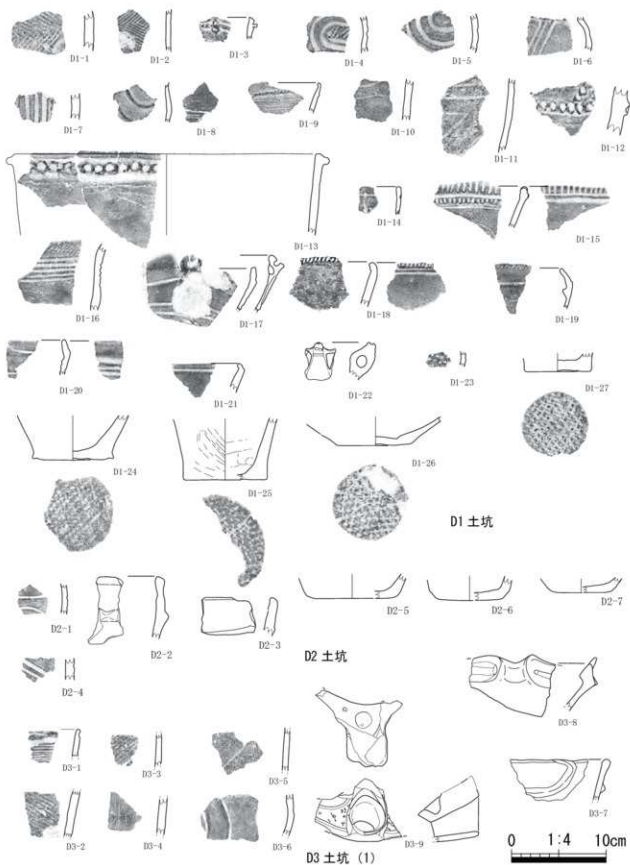
土製品では円盤状土製品と土偶が出土した。土偶(第31図)は496の顔、497～499の足、500の腕、501の胴が出土している。足には唐草状の文様が施されている。

石器は、石鏃、石匙、石錐の小型剥片石器をはじめ、打製石斧・刃器などの打製石器、二次加工を施す剥片、磨製石斧、石皿などが出土している。石鏃等の小型剥片石器については、ほとんどが黒曜石で作られており、石器製作時に生じたと考えられる剥片も多量に出土している。包含層第8層からは、58～63(第33図)のような黒曜石の原石や石核が出土していることから、本調査区周辺で石器製作が行われていたと考えられる。黒曜石以外の石材は、チャートや頁岩が用いられており、黒曜石同様に小型の剥片も出土している。

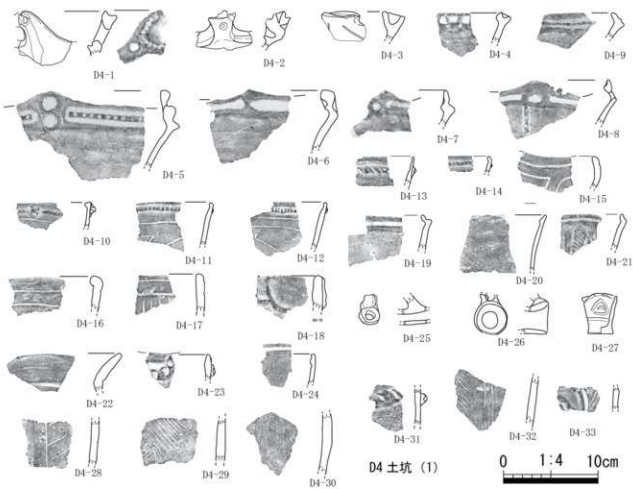
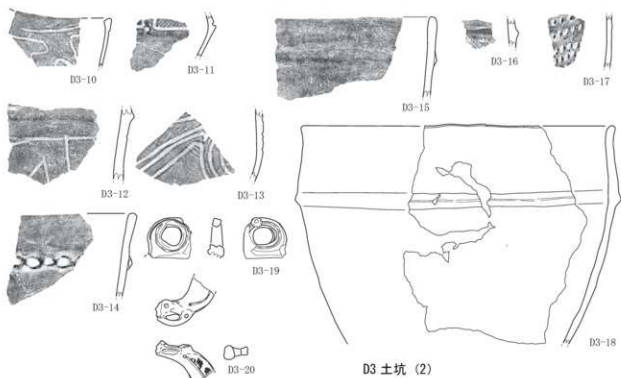
打製石斧は、124～126(第35図)は大型の完形品で、124・125(図版6)は重なった状態で出土している。石材は輝石安山岩・硬質砂岩・溶結凝灰岩等が用いられる。

磨製石斧は完形品はないが、緑色凝灰岩や蛇紋岩製のものが出土した。139(第36図)は石斧の破片と考えられるが、緑色硬質で、光沢の強い石材が用いられている。石製品は142～145(第36図)の石棒が出土した。

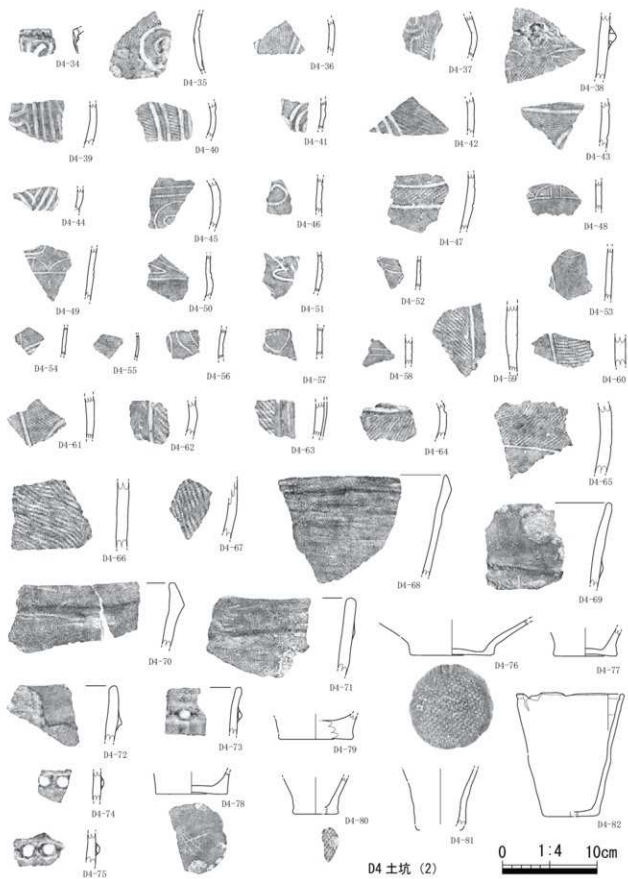
本調査区において、縄文時代の住居址は検出されなかったが、多量に出土する土器や、土偶・石棒などの遺物から、周辺に集落跡が存在するものと考えられる。



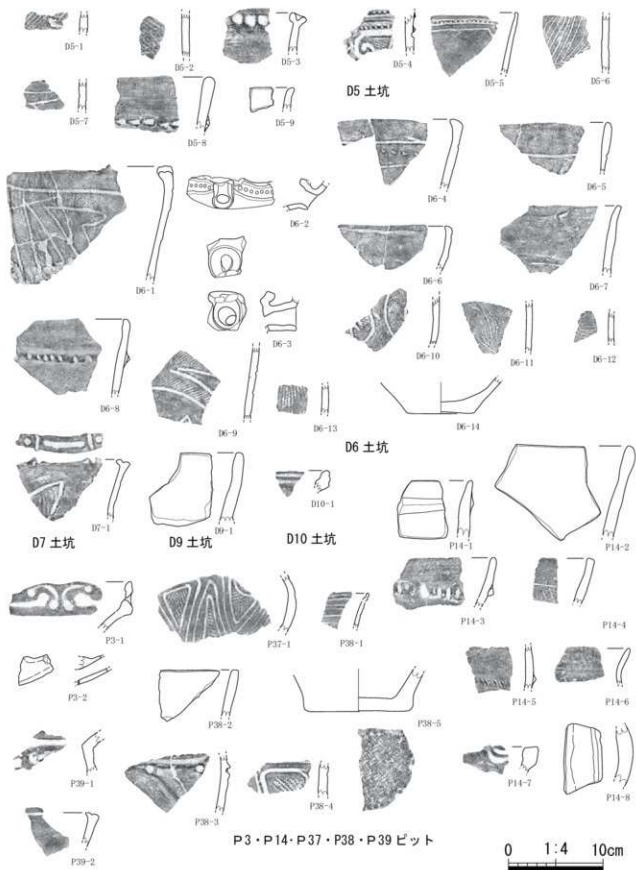
第12圖 遺物実測圖1 (D1～D3土坑)



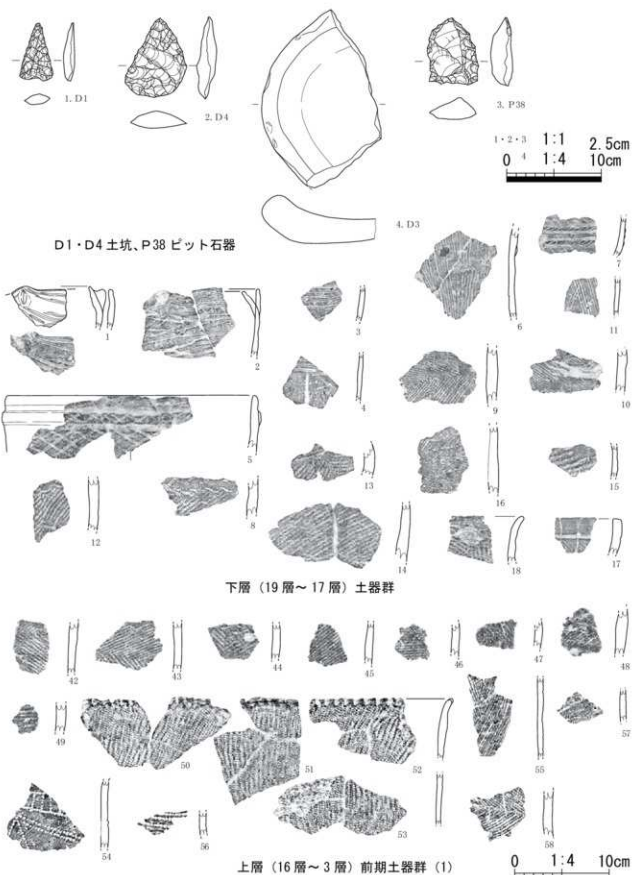
第13图 遺物実測図2 (D3・D4土坑)



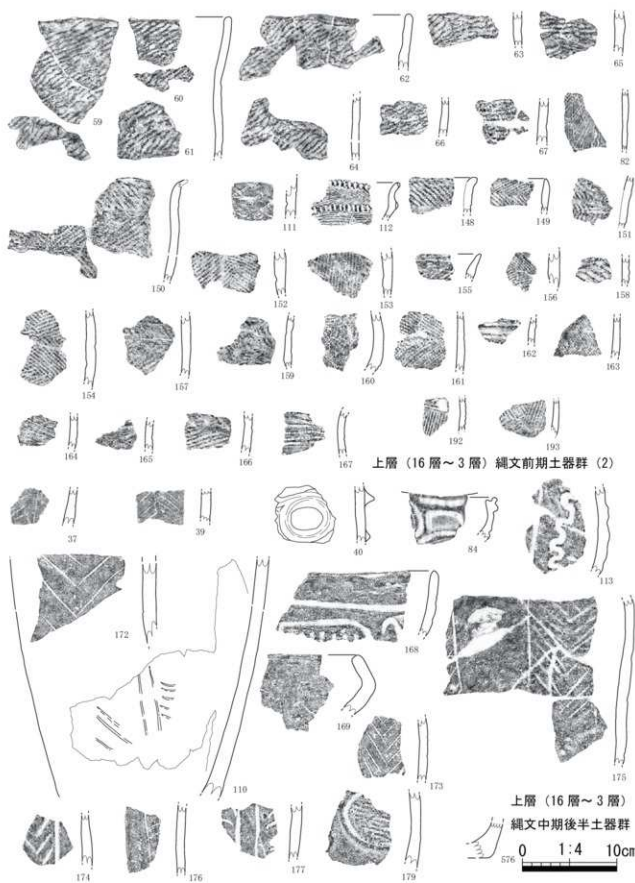
第14图 遗物实测图3 (D4号土坑)



第15図 遺物実測図4 (D5～D7・D9・D10号土坑・ピット)



第16図 遺物実測図5 (遺構出土石器、下層・上層土器(縄文前期))



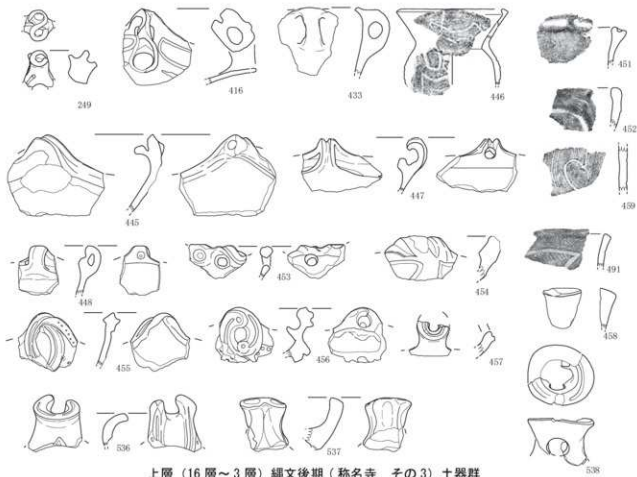
第17図 遺物実測図6 (上層土器 (前期 (2)・中期))



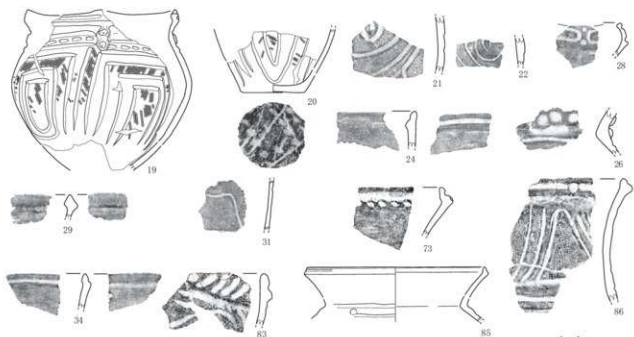


上層 (16層～3層) 縄文後期 (称名寺 その2) 土器群

第19図 遺物実測図8 (上層土器 (縄文後期))



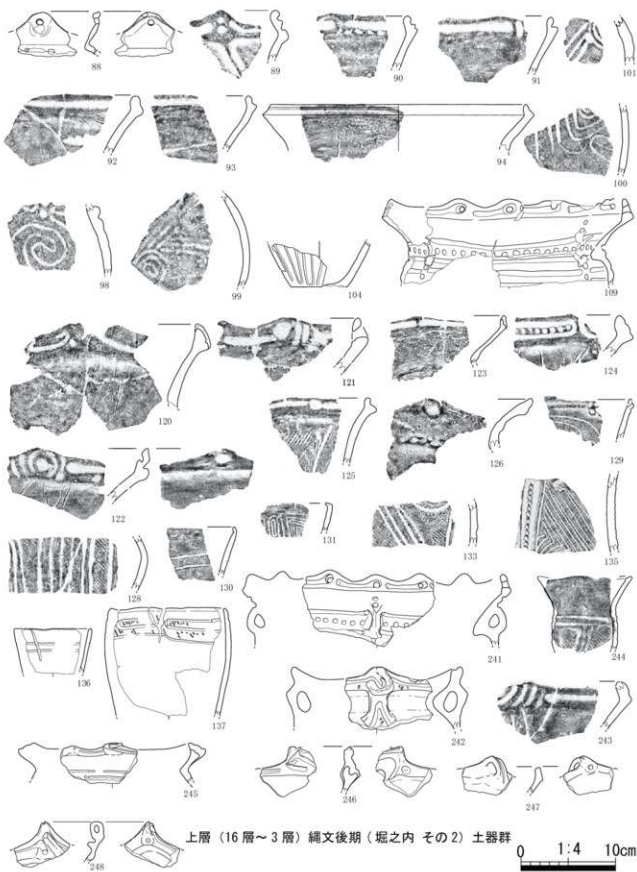
上層（16層～3層）縄文後期（称名寺 その3）土器群



上層（16層～3層）縄文後期（堀之内 その1）土器群

0 1:4 10cm

第20図 遺物実測図9（上層土器（縄文後期））

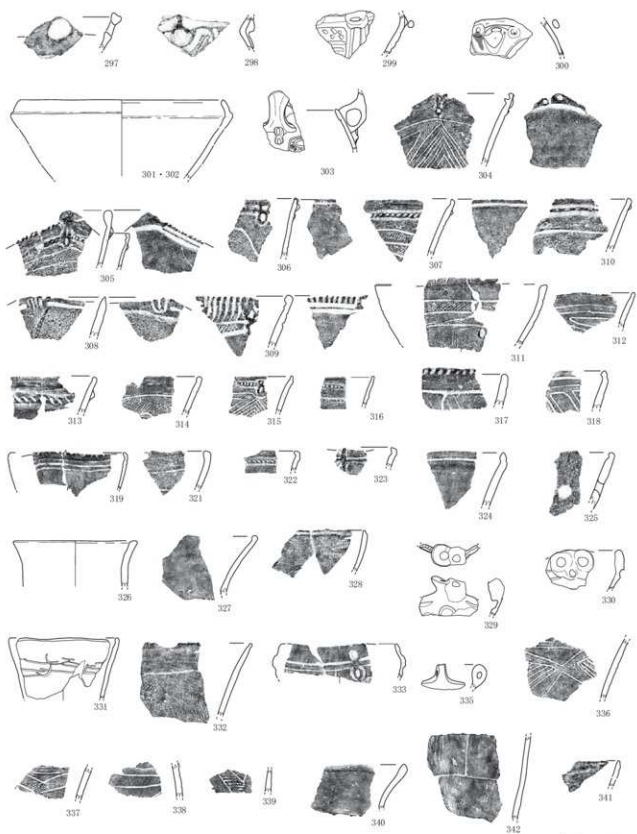


第21図 遺物実測図10 (上層土器 (縄文後期))



上層 (16層～3層) 縄文後期 (堀之内 その3) 土器群

第22図 遺物実測図11 (上層土器 (縄文後期))



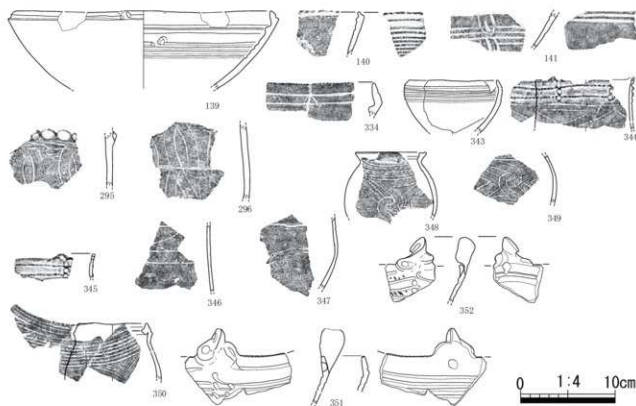
上層(16層~3層)縄文後期(堀之内 その4)土器群

0 1:4 10cm

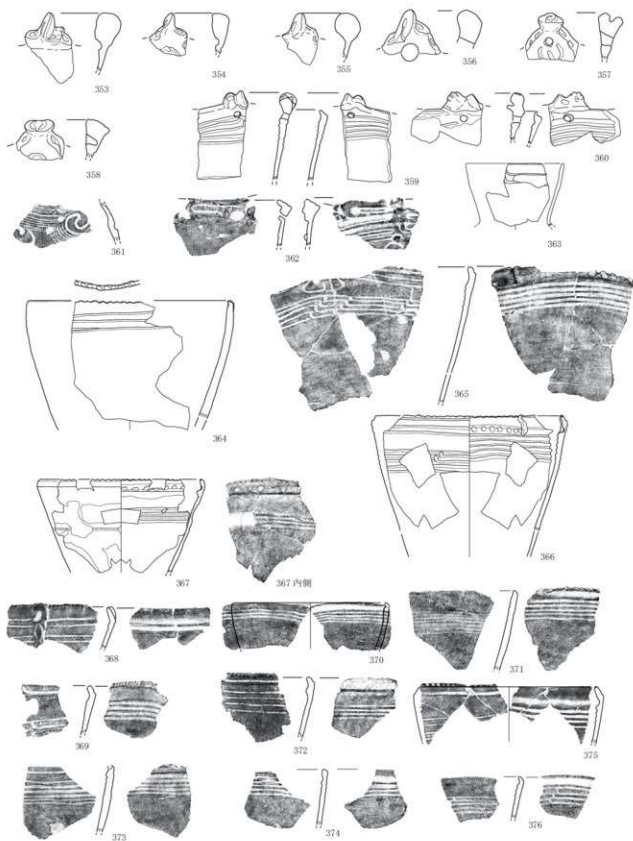
第23図 遺物実測図12(上層土器(縄文後期))



第24図 遺物実測図13(上層土器(縄文後期))



第25図 遺物実測図14（上層土器（縄文後期））



上層（16層～3層）縄文後期（加曾利B その2）土器群

第26図 遺物実測図15（上層土器（縄文後期））

0 1:4 10cm



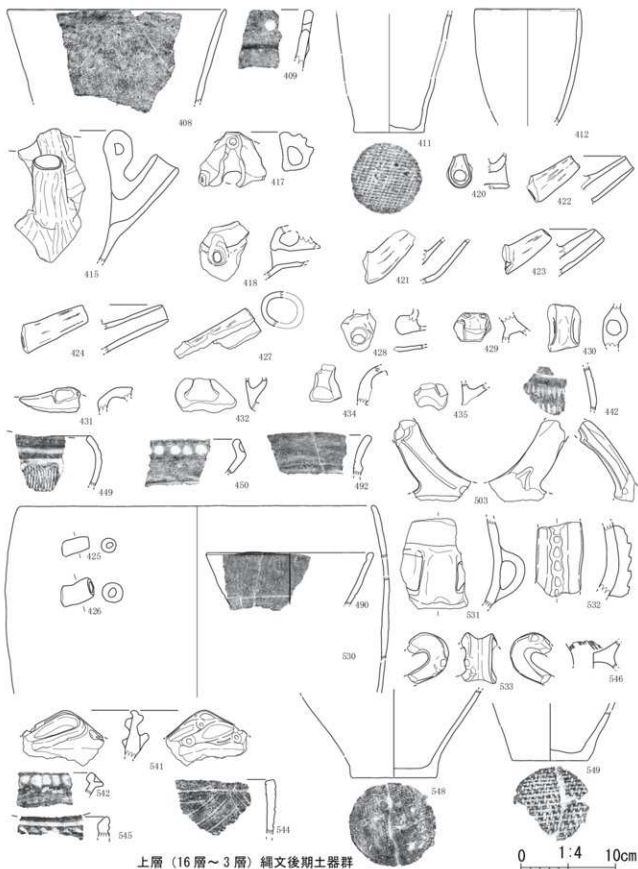
第27図 遺物実測図16 (上層土器 (縄文後期))

0 1:4 10cm



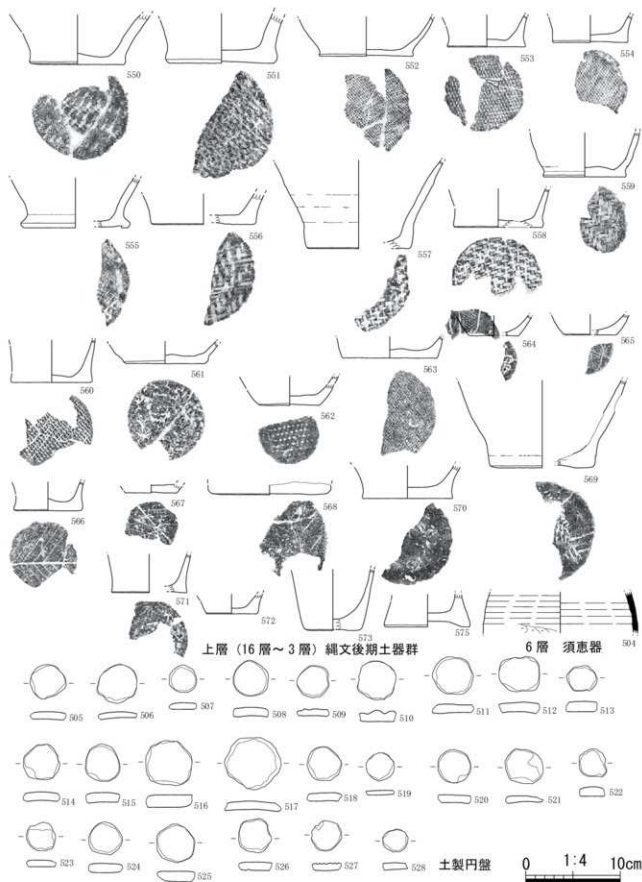
上層(16層~3層)縄文後期土器群
 遺物実測図17(上層土器(縄文後期))

0 1:4 10cm

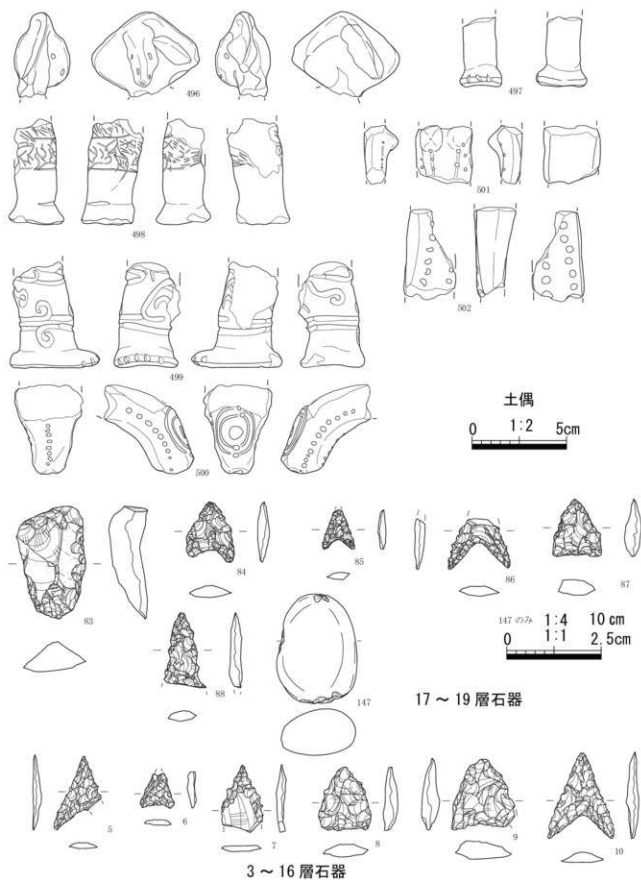


上層 (16層~3層) 縄文後期土器群

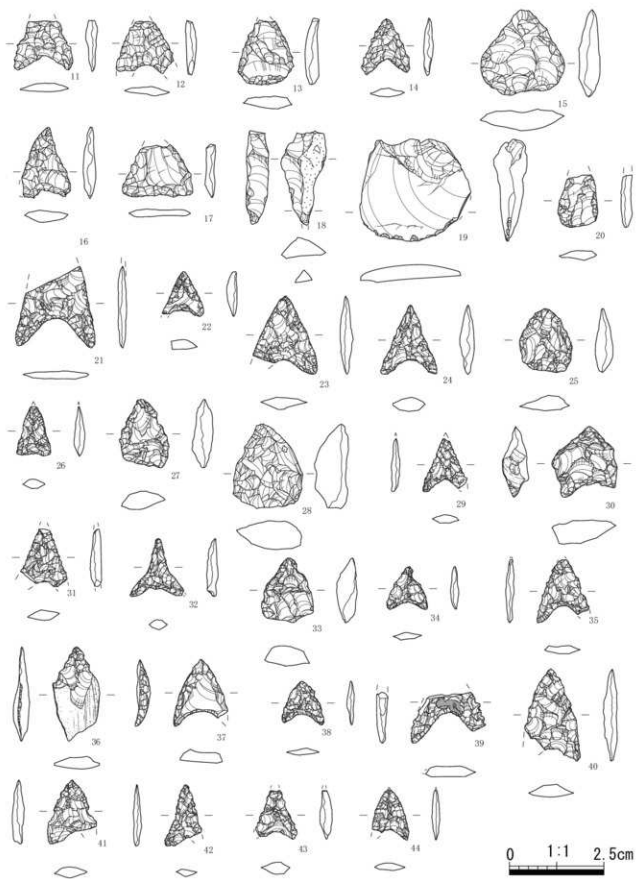
第29圖 遺物実測圖 18 (上層土器 (縄文後期))



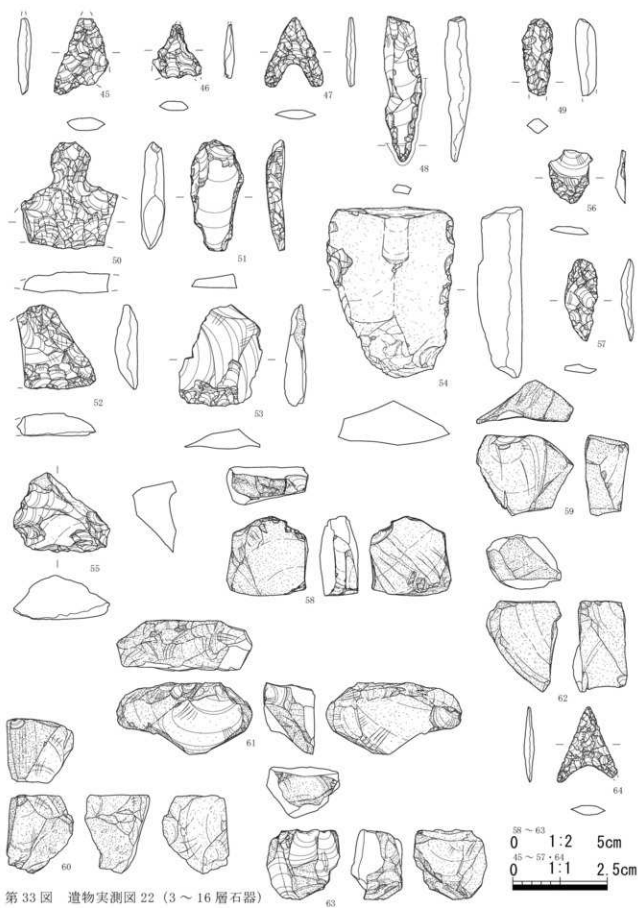
第30図 遺物実測図19(上層土器(縄文後期)・須恵器・円盤状土製品)



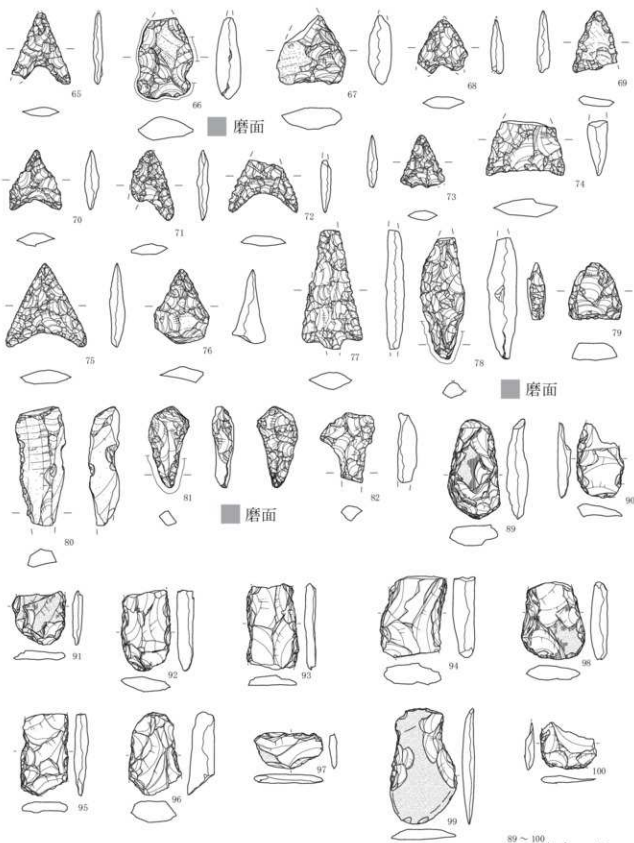
第31図 遺物実測図20 (土偶、17~19層・3~16層石器)



第32图 遺物実測図21 (3~16層石器)



第33図 遺物実測図22 (3~16層石器)



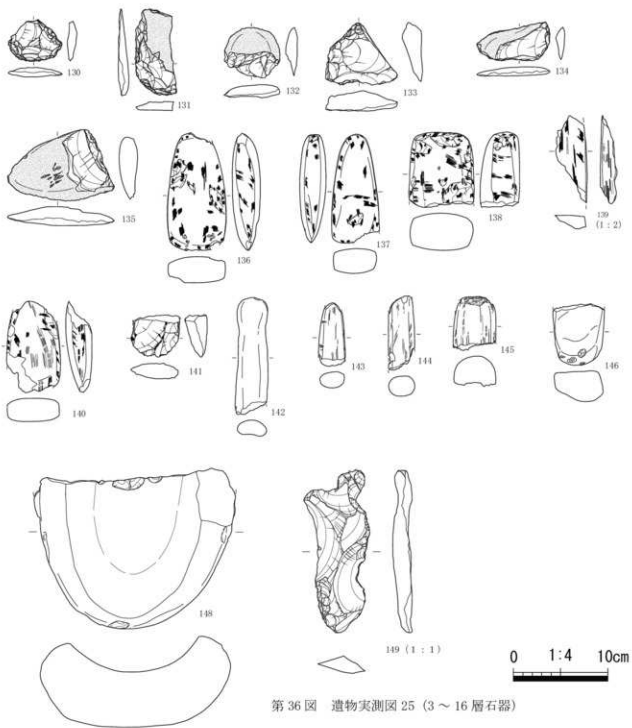
第34図 遺物実測図23 (3~16磨石器)

89 ~ 100
0 1:4 10cm
65 ~ 82
0 1:1 2.5cm



第35图 遺物実測図24 (3~16層石器)

0 1:4 10cm



遺構番号	種別	器種	法量 (cm)			文様・調整等	備考	
			口径	底径	器高			
D1	1	縄文土器	深鉢	-	-	(4.3)	粘土に織織含む、羽状縄文	前期前半
D1	2	縄文土器	深鉢	-	-	(4.5)	沈瀬による菱形文 並行沈瀬による区画内に縄文充填	堀之内2
D1	3	縄文土器	深鉢	-	-	(2.3)	横位刻み降帯に8字状息付文	堀之内2
D1	4	縄文土器	円盤状土製品	-	-	(3.9)	弧状の沈瀬区画内に縄文18充填、中央に穿孔孔連	堀之内1 未製品
D1	5	縄文土器	深鉢	-	-	(4.1)	弧状の沈瀬文	堀之内1
D1	6	縄文土器	深鉢	-	-	(3.6)	3条の斜行沈瀬	堀之内1
D1	7	縄文土器	深鉢	-	-	(2.8)	3条の沈瀬	堀之内1
D1	8	縄文土器	深鉢	-	-	(4.2)	微隆起縄文	称名寺
D1	9	縄文土器	深鉢	-	-	(3.2)	横位刻み降帯、沈瀬文	堀之内2
D1	10	縄文土器	深鉢	-	-	(4.4)	沈瀬による区画内に縄文充填	堀之内2
D1	11	縄文土器	深鉢	-	-	(7.9)	沈瀬による区画内に縄文充填	称名寺
D1	12	縄文土器	深鉢	-	-	(5.2)	斜位・横位2条の押圧降帯	後期前半
D1	13	縄文土器	深鉢	(31.3)	-	(8.6)	後門部に横位の圧痕降帯	後期前半
D1	14	縄文土器	深鉢	-	-	(3.0)	横位の沈瀬と刺突文	堀之内2
D1	15	縄文土器	深鉢	-	-	(4.4)	口唇部刻み、内面に2条の並行沈瀬、 外面に横位の刻み降帯と沈瀬文	称名寺か?
D1	16	縄文土器	深鉢	-	-	(7.1)	5条の並行沈瀬、帯縄文	堀之内2
D1	17	縄文土器	深鉢	-	-	(6.2)	横位突起、口唇部刻み、 帯縄文、内外面ミガキ、外面沈瀬、内面円形刺突	加曾利B
D1	18	縄文土器	深鉢	-	-	(4.7)	口唇部刻み、後門部内面に平敷竹筒の沈瀬	加曾利B
D1	19	縄文土器	深鉢	-	-	(3.2)	口唇部刻み、内面段、外面沈瀬、内外面ミガキ	加曾利B
D1	20	縄文土器	深鉢	-	-	(3.3)	内面段、外面沈瀬、内外面ミガキ	加曾利B
D1	21	縄文土器	深鉢	-	-	(3.1)	口縁部沈瀬、内外面ミガキ	堀之内1
D1	22	縄文土器	注口土器	-	-	(4.0)	頂部に刺突文、並行沈瀬	後期前半
D1	23	縄文土器	深鉢	-	-	(1.6)	円形の連続刺突文	後期前半
D1	24	縄文土器	深鉢	-	-	(8.5)	網代紋	後期前半
D1	25	縄文土器	深鉢	-	-	(8.8)	網代紋、内外面ミガキ	後期前半
D1	26	縄文土器	深鉢	-	-	7.9	網代紋、内外面ミガキ	後期前半
D1	27	縄文土器	深鉢	-	-	6.9	網代紋	堀之内2
D2	1	縄文土器	深鉢	-	-	(3.2)	沈瀬区画内に縄文18充填	堀之内2
D2	2	縄文土器	深鉢	-	-	(7.3)	横位の圧痕降帯	後期前半
D2	3	縄文土器	深鉢	-	-	(3.8)	横文	後期前半
D2	4	縄文土器	深鉢	-	-	(2.4)	斜位の並行沈瀬	堀之内1
D2	5	縄文土器	深鉢	-	-	(9.6)	(2.6)	
D2	6	縄文土器	深鉢	-	-	(7.0)	(2.6)	
D2	7	縄文土器	深鉢	-	-	(6.0)	(1.5)	
D3	1	縄文土器	深鉢	-	-	(2.8)	粘土に織織含む、平敷竹筒による並行沈瀬	前期中葉 有尾
D3	2	縄文土器	深鉢	-	-	(4.8)	粘土に織織含む、羽状縄文18	前期前半
D3	3	縄文土器	深鉢	-	-	(3.5)	粘土に織織含む、縄文18磨耗	前期前半
D3	4	縄文土器	深鉢	-	-	(3.9)	櫛歯状工具による縦位条線	後期前半
D3	5	縄文土器	深鉢	-	-	(4.5)	櫛歯状工具による縦位条線	後期前半
D3	6	縄文土器	深鉢	-	-	(4.4)	微隆起縄文と沈瀬	称名寺
D3	7	縄文土器	深鉢	-	-	(4.3)	口唇部から左下に延びる降帯	後期前半
D3	8	縄文土器	深鉢	-	-	(6.5)	降帯によるC字状の突起、突起中央に刺突文	後期前半
D3	9	縄文土器	注口付鉢	-	-	(6.7)	沈瀬区画内に縄文18・刺突文	後期前半
D3	10	縄文土器	深鉢	-	-	(5.3)	沈瀬文	称名寺
D3	11	縄文土器	鉢	-	-	(4.4)	8字状突起、沈瀬区画内に縄文18	後期前半
D3	12	縄文土器	深鉢	-	-	(7.7)	沈瀬文	称名寺
D3	13	縄文土器	深鉢	-	-	(7.7)	沈瀬による渦巻文、斜行沈瀬、縄文	堀之内1
D3	14	縄文土器	深鉢	-	-	(8.8)	横位圧痕降帯	後期前半
D3	15	縄文土器	深鉢	-	-	(8.5)	横位降帯	後期前半
D3	16	縄文土器	深鉢	-	-	(3.1)	横位降帯、縄文18	後期前半
D3	17	縄文土器	深鉢	-	-	(5.5)	爪状の連続刺突文	三十輪場
D3	18	縄文土器	深鉢	(32.8)	-	(23.1)	横位降帯	後期前半
D3	19	縄文土器	深鉢	-	-	(4.3)	C字状の沈瀬、刺突文	後期前半
D3	20	縄文土器	深鉢	-	-	(4.7)	沈瀬及び沈瀬端部に刺突文、縄文18	称名寺
D4	1	縄文土器	深鉢	-	-	(4.7)	横位把手に付いた連続刺突	称名寺
D4	2	縄文土器	深鉢	-	-	(3.9)	口縁部刻み 内面及び左右から穿孔、 外面及び上部に円形刺突	加曾利B
D4	3	縄文土器	深鉢	-	-	(3.1)	口縁部突起、沈瀬区画内に縄文	称名寺
D4	4	縄文土器	深鉢	-	-	(3.2)	口唇部に連続する円形刺突文	後期前半
D4	5	縄文土器	深鉢	-	-	(8.2)	突起部に刺突、圧痕降帯に伴う沈瀬	堀之内1

遺情	番号	種別	器種	法量 (cm)			文様・調整等	備考
				口径	底径	器高		
D4	6	縄文土器	深鉢	—	—	(6.4)	内外面とも突起下の円形刺突から横位沈線	堀之内1
D4	7	縄文土器	深鉢	—	—	(3.8)	内外面とも突起下の円形刺突から横位沈線	堀之内1
D4	8	縄文土器	深鉢	—	—	(4.7)	透し孔、口唇部縦位短沈線 円形刺突から横位沈線、縦位圧痕隆帯	堀之内1
D4	9	縄文土器	深鉢	—	—	(2.7)	横位沈線	堀之内1
D4	10	縄文土器	深鉢	—	—	(2.6)	短み隆帯、8字状突起、横位沈線、縄文LR	堀之内2
D4	11	縄文土器	深鉢	—	—	(4.6)	短み隆帯、沈線区内内に縄文充填	堀之内2
D4	12	縄文土器	深鉢	—	—	(5.0)	短み隆帯、沈線区内内に縄文充填	堀之内2
D4	13	縄文土器	深鉢	—	—	(2.9)	短み隆帯、内面横位沈線	堀之内2
D4	14	縄文土器	深鉢	—	—	(1.7)	短み隆帯	堀之内2
D4	15	縄文土器	深鉢	—	—	(3.3)	沈線文	狹名寺
D4	16	縄文土器	深鉢	—	—	(3.8)	沈線文	狹名寺
D4	17	縄文土器	深鉢	—	—	(4.0)	沈線文	狹名寺
D4	18	縄文土器	深鉢	—	—	(3.6)	短状の隆帯	狹名寺?
D4	19	縄文土器	深鉢	—	—	(3.8)	横位沈線、内外面ミガキ	堀之内1
D4	20	縄文土器	深鉢	—	—	(6.0)	内面横位沈線、内外面ミガキ	堀之内2
D4	21	縄文土器	深鉢	—	—	(3.7)	口縁部横位沈線、縦位沈線、縄文LR	堀之内1
D4	22	縄文土器	深鉢	—	—	(4.1)	横位沈線	狹名寺
D4	23	縄文土器	深鉢	—	—	(2.8)	圧痕隆帯	後期前半
D4	24	縄文土器	深鉢	—	—	(3.3)	内面に横位沈線、内外面ミガキ	堀之内2
D4	25	縄文土器	注口土器	—	—	(3.1)		後期前半
D4	26	縄文土器	注口土器	—	—	(4.0)		後期前半
D4	27	縄文土器	ミニチュア土器	(3.8)	2.5	4.3	横位沈線間に三角形状の区画文	後期前半
D4	28	縄文土器	深鉢	—	—	(4.7)	縦位沈線、斜位短沈線	中期後半?
D4	29	縄文土器	深鉢	—	—	(4.5)	多量の沈線による幾何学文	堀之内2
D4	30	縄文土器	深鉢	—	—	(6.5)	縦位の条線	後期前半
D4	31	縄文土器	深鉢	—	—	(3.8)	縦位の短み隆帯、状線文	後期前半
D4	32	縄文土器	深鉢	—	—	(5.4)	縦位沈線、斜位沈線	中期後半?
D4	33	縄文土器	深鉢	—	—	(2.3)	短状の隆帯短沈線、縄文LR	狹名寺
D4	34	縄文土器	深鉢	—	—	(2.5)	隆帯、沈線文	堀之内1
D4	35	縄文土器	深鉢	—	—	(6.2)	縄文LR、弧状の沈線文	狹名寺
D4	36	縄文土器	深鉢	—	—	(3.5)	並行沈線間に縄文LR充填	堀之内1
D4	37	縄文土器	深鉢	—	—	(4.5)	短状の沈線と縦位沈線、縄文LR充填	堀之内1
D4	38	縄文土器	深鉢	—	—	(6.7)	縄文地文、縦位短み隆帯に8字状突起、沈線文	堀之内1
D4	39	縄文土器	深鉢	—	—	(4.4)	短状の沈線と縦位沈線	堀之内1
D4	40	縄文土器	深鉢	—	—	(3.8)	縦位沈線間に縄文LR充填	堀之内1
D4	41	縄文土器	深鉢	—	—	(3.0)	短状の並行沈線、縄文LR	堀之内1
D4	42	縄文土器	深鉢	—	—	(3.9)	並行沈線、縄文LR	堀之内1
D4	43	縄文土器	深鉢	—	—	(5.0)	横位・短状沈線、縄文LR	堀之内1
D4	44	縄文土器	深鉢	—	—	(2.5)	斜位・短状の並行沈線	堀之内1
D4	45	縄文土器	深鉢	—	—	(5.0)	横位・短状の沈線区内内に縄文LR充填	狹名寺
D4	46	縄文土器	深鉢	—	—	(3.8)	丁字状沈線、縄文LR	狹名寺
D4	47	縄文土器	深鉢	—	—	(6.0)	沈線区内内に縄文LR充填	狹名寺
D4	48	縄文土器	深鉢	—	—	(3.1)	沈線による幾何学文、縄文LR、外面ミガキ	堀之内2
D4	49	縄文土器	深鉢	—	—	(5.6)	沈線による幾何学文、縄文LR、内外面ミガキ	堀之内2
D4	50	縄文土器	深鉢	—	—	(4.5)	沈線による幾何学文、縄文LR、内外面ミガキ	堀之内2
D4	51	縄文土器	深鉢	—	—	(4.0)	沈線による幾何学文、縄文LR、内外面ミガキ	堀之内2
D4	52	縄文土器	深鉢	—	—	(3.0)	沈線による幾何学文、縄文LR	堀之内2
D4	53	縄文土器	深鉢	—	—	(5.4)	沈線区内内に縄文LR、内外面ミガキ	堀之内2
D4	54	縄文土器	深鉢	—	—	(2.9)	沈線区内内に縄文LR	堀之内2
D4	55	縄文土器	注口土器	—	—	(2.4)	短筒状工具による条線LR	堀之内2
D4	56	縄文土器	深鉢	—	—	(3.2)	沈線区内内に縄文LR	狹名寺
D4	57	縄文土器	深鉢	—	—	(3.0)	沈線文	狹名寺
D4	58	縄文土器	深鉢	—	—	(2.9)	横位沈線、並縄文LR	加賀利B
D4	59	縄文土器	深鉢	—	—	(7.1)	縦位沈線、縄文LR	後期前半
D4	60	縄文土器	深鉢	—	—	(3.1)	縦位沈線、縄文LR	後期前半
D4	61	縄文土器	深鉢	—	—	(4.5)	縦位・短状沈線、縄文LR	堀之内1
D4	62	縄文土器	深鉢	—	—	(3.9)	縦位沈線、縄文LR	後期前半
D4	63	縄文土器	深鉢	—	—	(3.7)	縦位隆帯、縄文LR	後期前半
D4	64	縄文土器	深鉢	—	—	(3.8)	横位沈線、縄文LR	堀之内1
D4	65	縄文土器	深鉢	—	—	(7.3)	横位沈線、縄文LR	堀之内1
D4	66	縄文土器	深鉢	—	—	(7.0)	縄文LR	後期前半
D4	67	縄文土器	深鉢	—	—	(6.3)	縄文LR	後期前半
D4	68	縄文土器	深鉢	—	—	(10.7)	横位隆帯	後期前半

遺構	番号	種別	器種	法量 (cm)			文様・調整等	備考
				口径	底径	器高		
D4	69	縄文土器	深鉢	—	—	(9.0)	横位隆帯。縦位沈線、縄文	後期前半
D4	70	縄文土器	深鉢	—	—	(6.8)	横位隆帯	後期前半
D4	71	縄文土器	深鉢	—	—	(8.2)	横位隆帯	後期前半
D4	72	縄文土器	深鉢	—	—	(5.9)	横位隆帯	後期前半
D4	73	縄文土器	深鉢	—	—	(5.0)	横位隆帯隆帯	後期前半
D4	74	縄文土器	深鉢	—	—	(3.1)	横位隆帯隆帯	後期前半
D4	75	縄文土器	深鉢	—	—	(3.4)	横位隆帯隆帯	後期前半
D4	76	縄文土器	鉢	—	(9.0)	(3.8)	底部網代痕	後期前半
D4	77	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	(3.0)		後期前半
D4	78	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	(2.4)	底部に沈線	後期前半
D4	79	縄文土器	深鉢	—	7.6	(2.7)		後期前半
D4	80	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	(3.9)	底部網代痕、内外面ミガキ	後期前半
D4	81	縄文土器	深鉢	—	—	(5.9)	内外面ミガキ	堀之内2
D4	82	縄文土器	深鉢	11.4	5.9	13.1	内外面ミガキ	堀之内2
D5	1	縄文土器	深鉢	—	—	(2.0)	粘土に織織含む、縄文LR	前期前半
D5	2	縄文土器	深鉢	—	—	(4.6)	粘土に織織含む、縄文LR	前期前半
D5	3	縄文土器	深鉢	—	—	(4.1)	口唇部に円形の連続刺突文	後期前半
D5	4	縄文土器	深鉢	—	—	(4.2)	横位・縦位の類み隆帯、沈線	堀之内1
D5	5	縄文土器	深鉢	—	—	(6.5)	横位類み、8字状突起	堀之内2
D5	6	縄文土器	深鉢	—	—	(5.9)	並行沈線による幾何学文	堀之内2
D5	7	縄文土器	深鉢	—	—	(3.1)	沈線区画内に縄文LR、内外面ミガキ	堀之内2
D5	8	縄文土器	深鉢	—	—	(5.8)	棒状工具押引きによる隆帯隆帯	後期前半
D5	9	縄文土器	鉢	—	—	(2.3)	内外面ミガキ	堀之内1
D6	1	縄文土器	深鉢	—	—	(11.5)	口唇部沈線と小突起 体部沈線区画内に縄文LRを施	称名寺
D6	2	縄文土器	注口付鉢	—	—	(3.5)	沈線区画内に円形刺突文	称名寺～堀之内
D6	3	縄文土器	注口土器	—	—	(4.2)	注口上部に環状の把手?	堀之内1か
D6	4	縄文土器	深鉢	—	—	(7.3)	横位沈線間に爪状の刺突文	称名寺
D6	5	縄文土器	深鉢	—	—	(5.2)	横位沈線、内外面ミガキ	堀之内2
D6	6	縄文土器	深鉢	—	—	(4.8)	横位沈線内に櫛歯状工具による連続刺突文 櫛歯状工具による縦位条線文、磨耗	後期前半
D6	7	縄文土器	深鉢	—	—	(7.2)		後期前半
D6	8	縄文土器	深鉢	—	—	(7.9)	横位類み隆帯	後期前半
D6	9	縄文土器	深鉢	—	—	(7.5)	沈線区画内に縄文LRを施	称名寺
D6	10	縄文土器	深鉢	—	—	(5.1)	沈線区画内に縄文LRを施	称名寺
D6	11	縄文土器	深鉢	—	—	(5.2)	櫛歯状工具による弧状の条線文	加曾利Bか
D6	12	縄文土器	深鉢	—	—	(3.6)	弧状の並行沈線	堀之内1
D6	13	縄文土器	深鉢	—	—	(3.0)	縄文LR	後期前半
D6	14	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	(3.3)		後期前半
D7	1	縄文土器	深鉢	—	—	(6.3)	口唇部縦位・横位沈線、円形刺突文 体部沈線区画内に縄文LRを施	称名寺
D9	1	縄文土器	深鉢	—	—	(7.2)	横位隆帯か	後期前半
D10	1	縄文土器	深鉢	—	—	(2.2)	横位の並行沈線	堀之内1
P3	1	縄文土器	深鉢	—	—	(5.1)	透し孔、両面に円形刺突文を有するC字状沈線	堀之内1
P3	2	縄文土器	注口土器	—	—	(3.2)		後期前半
P14	1	縄文土器	深鉢	—	—	(6.0)	横位隆帯	後期前半
P14	2	縄文土器	深鉢	—	—	(9.7)		後期前半
P14	3	縄文土器	深鉢	—	—	(5.3)	横位類み隆帯	後期前半
P14	4	縄文土器	深鉢	—	—	(4.8)	横位沈線、櫛歯条工具による条線	後期前半
P14	5	縄文土器	深鉢	—	—	(4.5)	横位類み隆帯	後期前半
P14	6	縄文土器	鉢	—	—	(3.7)	沈線文	後期前半
P14	7	縄文土器	深鉢	—	—	(2.7)	口縁部突起内外にC字状沈線、棒状把手か	称名寺
P14	8	縄文土器	深鉢	—	—	(7.6)	棒状把手	後期前半
P37	1	縄文土器	深鉢	—	—	(6.1)	並行沈線による三角形状区画内に縄文LR	堀之内1
P38	1	縄文土器	深鉢	—	—	(3.7)	横位類み隆帯、沈線、縄文LR	堀之内2
P38	2	縄文土器	深鉢	—	—	(4.9)		後期前半
P38	3	縄文土器	深鉢	—	—	(6.0)	弧状の隆帯隆帯文、円形刺突文	称名寺
P38	4	縄文土器	深鉢	—	—	(3.4)	並行沈線、縄文LR	堀之内1
P38	5	縄文土器	深鉢	—	(11.1)	(4.5)	底部網代痕	後期前半
P39	1	縄文土器	深鉢	—	—	(4.6)	横位沈線、棒状突起か	堀之内1
P39	2	縄文土器	深鉢	—	—	(3.6)	口唇部沈線	堀之内1

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量 (cm)			文様・調整等	備考
					口径	底径	器高		
II 12-19層	1	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.0)	半載竹管による平行沈澱、垂付文	譚磯C
II 12-19層	2	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(7.1)	半載竹管による平行沈澱、垂付文	譚磯C
II 12-19層	3	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.5)	半載竹管による平行沈澱	譚磯C
II 12-19層	4	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.9)	半載竹管による平行沈澱	譚磯C
II 13-19層	5	縄文土器	深鉢	口縁	(26.8)	-	(6.0)	胎土に繊維含む、横位隆帯 格子状の燃糸文(縄文LとR2本揃え)	塚田?8と同一
II 13-19層	6	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(9.4)	半載竹管による平行沈澱、ボタン状の垂付文	譚磯C
II 13-19層	7	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.9)	浮澱文	譚磯C
II 13-19層	8	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.0)	胎土に繊維含む 格子状の燃糸文(縄文LとR2本揃え) S字状圧痕、縄文LR	塚田?5と同一
II 12-19層	9	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(6.0)	胎土に繊維含む、羽状澱文	前期前半
II 13-19層	10	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.5)	胎土に繊維含む、澱文	前期前半
II 13-19層	11	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.9)	半載竹管による平行沈澱	譚磯C
II 13-19層	12	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.4)	胎土に繊維含む、縄文LR	前期前半
II 13-19層	13	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.3)	胎土に繊維含む、澱文	前期前半
II 13-19層	14	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(6.1)	胎土に繊維含む、縄文LR	前期前半
II 12-19層	15	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.3)	胎土に繊維含む、澱文	前期前半
II 13-19層	16	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.0)	胎土に繊維含む、羽状澱文	前期前半
IV7-18層	17	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.7)	横位沈澱、澱文	姓名寺
II 13-17層	18	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.8)	胎土に繊維含む、澱文	前期前半
II 11-16層	19	縄文土器	深鉢	口縁~体部	(15.8)	-	(17.0)	口縁小突起下(8字状突起、横位沈澱開裂文) 沈澱区画内に縄文LR充満	塚之内1
II 6-16層	20	縄文土器	深鉢	体部~底部	-	6.5	(6.7)	体部縦位沈澱、澱文 底部網代痕の上に葉状圧痕	塚之内1
I 23-16層	21	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.8)	泓状沈澱、澱文	塚之内1
I 23-16層	22	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(2.9)	泓状沈澱	塚之内1
I 23-16層	23	縄文土器	鉢	体部	-	-	(5.0)	横位沈澱、縄文LR、円形刺突文	姓名寺
I 24-16層	24	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.3)	内面に横位沈澱	塚之内1か
I 23-16層	25	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.7)	泓状の微砂状澱文、縄文LR	姓名寺
I 24-16層	26	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.6)	横位沈澱、突起	塚之内1
I 23-16層	27	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.1)	横位隆帯	後期前半
I 24-16層	28	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.5)	沈澱、円形刺突文	塚之内1
I 24-16層	29	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.4)		塚之内1
II 6-16層	30	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.0)	沈澱、澱文	姓名寺
I 24-16層	31	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.2)	沈澱、縄文LR	塚之内1
I 23-16層	32	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.9)		姓名寺
I 22-16層	33	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.6)	口唇部に円形の連続刺突文	後期前半
I 23-16層	34	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.7)	内外面横位沈澱	塚之内1
II 6-16層	35	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.5)	横位隆帯	後期前半
I 23-16層	36	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.8)	横位隆帯	後期前半
I 24-16層	37	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.6)	縦位沈澱、斜位短沈澱	中期後半
III 3-16層	38	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.5)	斜交沈澱	後期前半
I 24-16層	39	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.3)	縦位沈澱、斜位短沈澱	中期後半
I 24-16層	40	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(6.0)	円形の隆帯文	中期後半
I 23-16層	41	縄文土器	鉢	口縁	-	-	(1.0)	外面刻み目	後期前半
II 7-16層	42	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.4)	胎土に繊維含む、羽状澱文	前期前半
II 6-16層	43	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.9)	胎土に繊維含む、羽状澱文LR	前期前半
II 11-16層	44	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.6)	胎土に繊維含む、羽状澱文LR	前期前半
II 7-16層	45	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.3)	胎土に繊維含む、澱文	前期前半
II 7-16層	46	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.6)	胎土に繊維含む、澱文	前期前半
I 23-16層	47	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(2.9)	胎土に繊維含む、澱文	前期前半
I 23-16層	48	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.8)	胎土に繊維含む、澱文	前期前半
I 23-16層	49	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(2.8)	胎土に繊維含む、縄文LR	前期前半
II 19-15層	50	縄文土器	深鉢	口縁~体部	-	-	(13.3)	口縁刻み、縄文LR	前期中葉?
II 19-15層	51	縄文土器	深鉢	口縁~体部	-	-	-	口縁刻み、縄文LR	50と同一個体
II 19-15層	52	縄文土器	深鉢	口縁~体部	-	-	-	口縁刻み、縄文LR	50と同一個体
II 19-15層	53	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	縄文LR	50と同一個体
II 19-15層	54	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.0)	胎土に繊維含む、櫛歯状工具による列点刺突文	有尾
II 24-15層	55	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(8.2)	半載竹管による集合沈澱	譚磯C
II 19-15層	56	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(2.4)	胎土に繊維含む、櫛歯状工具による列点刺突文	有尾
II 19-15層	57	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.4)	胎土に繊維含む、櫛歯状工具による列点刺突文	有尾
II 18-15層	58	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.8)	胎土に繊維含む、羽状澱文LR	前期前半

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量(cm)			文様・調整等	備考
					口縁	底径	器高		
II 19-24-15層	59	縄文土器	深鉢	口縁～体部	-	-	(14.9)	胎土に織紐含む。縄文I	前期前半
II 19-24-15層	60	縄文土器	深鉢	口縁～体部	-	-	-	胎土に織紐含む。縄文I	59と同一個体
II 24-15層	61	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	胎土に織紐含む。縄文I	59と同一個体
II 24-15層	62	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.7)	胎土に織紐含む。縄文I R	前期前半
II 24-14層	63	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.3)	胎土に織紐含む。縄文I R	前期前半
II 24-15層	64	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(6.4)	胎土に織紐含む。縄文I R	前期前半
II 24-15層	65	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.3)	胎土に織紐含む。縄文I R	前期前半
II 24-15層	66	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.6)	胎土に織紐含む。縄文I R	前期前半
II 24-15層	67	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.4)	胎土に織紐含む。縄文I R	前期前半
II 17-15層	68	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(8.4)	J字状沈線文に縄文充填	姓名寺
II 19-15層	69	縄文土器	深鉢	口縁～体部	-	-	(20.9)	横位隆帯	後期前半
II 17-15層	70	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.4)	沈線文に縄文I R充填	姓名寺
II 17-15層	71	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.4)	口縁突起部、圧痕隆帯	姓名寺
II 17-15層	72	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.3)	横位隆帯、櫛歯状工具による条線文	後期前半
II 19-15層	73	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.1)	口唇部横位沈線、沈線下に凹形の連続刺突文	堀之内1
II 17-15層	74	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(8.5)	沈線文内に縄文I R充填	姓名寺
II 17-15層	75	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.4)	沈線文内に縄文I R充填	姓名寺
II 17-15層	76	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.6)	櫛歯状工具による条線文	後期前半
II 17-15層	77	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(8.4)	透し孔	姓名寺
II 17-15層	78	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.2)	透し孔上の凹形刺突からC字状沈線	姓名寺
II 17-15層	79	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.0)	透し孔を、凹形刺突3、沈線	姓名寺
II 24-15層	80	縄文土器	深鉢	底部	-	(9.4)	(3.2)	縄文I R	後期前半
II 24-15層	81	縄文土器	深鉢	底部	-	(12.6)	(2.6)	縄文I R	後期前半
II 13-14層	82	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(6.1)	半截竹管による集合沈線	諸磯C
II 18-14層	83	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.4)	口縁部突起、凹形刺突文、C字状沈線	堀之内1
II 19-14層	84	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.5)	弧状の隆帯を繋ぐ横位隆帯と沈線	中期後半
II 24-14層	85	縄文土器	深鉢	口縁～体部	(18.9)	-	(5.8)	横位沈線と凹形刺突文	堀之内1
II 18-19-14層	86	縄文土器	深鉢	口縁～体部	-	-	(12.5)	口唇部横位沈線、 体部平行沈線の流三角形状区画内に縄文I R充填	堀之内1
II 19-14層	87	縄文土器	深鉢	口縁～体部	-	-	(9.0)	平行沈線文内に縄文充填	姓名寺
II 23-14層	88	縄文土器	注口土器	口縁	-	-	(4.7)	突起部に透し孔、体部凹形刺突文	堀之内1
II 24-14層	89	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.3)	口縁部突起部に凹形刺突文、横位隆帯	堀之内1
II 19-14層	90	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.4)	口唇部横位沈線下に凹形の連続刺突文	堀之内1
II 18-14層	91	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.0)	口唇部凹形刺突文から横位隆帯、横位短沈線	堀之内1
II 23-14層	92	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.5)	口唇部横位沈線	堀之内1
II 24-14層	93	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.0)	口唇部横位沈線	堀之内1
II 24-14層	94	縄文土器	深鉢	口縁	(26.8)	-	(4.6)	口唇部横位沈線	堀之内1
14層 No. 5	95	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(7.0)	口縁突起部から横位圧痕隆帯、横位圧痕隆帯	後期前半
14層 No. 4	96	縄文土器	深鉢	口縁～体部	(18.7)	-	(15.5)	横位圧痕隆帯	後期前半
II 18-14層	97	縄文土器	深鉢	口縁～体部	-	-	(14.5)	横位圧痕隆帯	後期前半
II 24-14層	98	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.3)	8字状突起、渦巻状沈線	堀之内1
II 24-14層	99	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(10.0)	渦巻状・横位・斜位平行沈線	堀之内1
14層 No. 6	100	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.0)	平行沈線	堀之内1
II 23-14層	101	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.8)	渦巻状・斜位平行沈線、縄文I R	堀之内1
II 24-14層	102	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.6)	縄文I R	後期前半
II 12-14層	103	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.0)	横位条線	後期前半
II 18-14層	104	縄文土器	深鉢	体部～底部	(6.0)	-	(4.2)	横位沈線	堀之内1
II 23-14層	105	縄文土器	深鉢	底部	-	(7.2)	(3.6)	横位沈線	後期前半
II 19-24-14層	106	縄文土器	蓋?	-	10.0	-	(2.4)	桶状把手か	後期前半
IV 3-14層	107	縄文土器	注口土器	注口	-	-	(4.8)	-	後期前半
II 23-14層	108	縄文土器	注口土器	注口	-	-	(2.3)	-	後期前半
14層No. 3 II 18-24-14層	109	縄文土器	深鉢	口縁	(24.6)	-	(9.2)	波状口縁突起部に透し孔と沈線 頭部凹形の連続刺突文、横位突起短	堀之内1
II 18-14層	110	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(25.2)	横位沈線と斜位短沈線	中期後半
IV 1-13層	111	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.1)	格子状の横糸文(縄文I上Rと本橋)	前期 塚田式?
II 23-12層	112	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.7)	口唇部刻み、矢羽状沈線、刻み隆帯、横位条線	前期 諸磯か
II 22-12層	113	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(9.2)	横位沈線・波状沈線	中期後半
II 17-23-12層	114	縄文土器	深鉢	口縁～体部	(21.0)	-	(16.9)	口縁突起に凹形刺突、 体部は短沈線・平行沈線による横溝・半円形文	姓名寺
II 17-12層	115	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.7)	沈線文	姓名寺
II 16-13層	116	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.8)	突起上端は隆帯を交差させ結線状意匠を成す 体部は沈線内に縄文I R充填	姓名寺
II 21-12層	117	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.7)	突起上部には横位に、外面に横位に 控線状意匠を施す、内面朱彩部分的に残る	姓名寺

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量 (cm)			文様・調整等	備考	
					口径	底径	器高			
II 21-12層	118	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.9)	横状突起	称名寺	
II 21-12層	119	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(8.0)	縦位・弧状沈線	称名寺	
IV 7-12層	120	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(9.4)	突起部に連し上円形刺突文、口唇部縦位沈線	堀之内1	
II 17-12層	121	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.7)	双皮状の突起部に連し孔を繋ぐ沈線とC字状沈線	堀之内1	
II 17-12層	122	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.6)	突起内外面に円形刺突、周囲にC字状沈線と円形刺突文から縦位沈線	堀之内1	
II 21-12層	123	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.3)	小突起と口唇部縦位沈線	堀之内1	
II 17-12層	124	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.2)	縦位沈線内に円形の連続刺突文	堀之内1	
II 18-12層	125	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(7.1)	口唇部縦位沈線と円形刺突文、体部沈線と縄文LR	堀之内1	
II 23-12層	126	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.2)	口縁部小突起、頸部に縦位圧痕隆帯	堀之内1	
IV 1-12層	127	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(4.5)	横状把手欠損、縦位沈線間に円形の連続刺突文	称名寺	
II 17-12層	128	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.5)	縦位平行沈線、縄文LR	堀之内1	
II 16-12層	129	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.4)	口縁突起部C字状突起、縦位斜め隆帯、沈線文	堀之内2	
II 21-12層	130	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.2)	帯縄文LR、縦位沈線	堀之内2	
IV 7-12層	131	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.0)	沈線による幾何学文	堀之内2	
IV 1-12層	132	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.5)	斜交沈線	後期前半	
I 25-12層	133	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.4)	弧状沈線、斜交平行沈線、縄文LR	堀之内1	
II 22-12層	134	縄文土器	鉢	把手	-	-	(3.1)	口縁部横状把手	後期前半	
I 25-12層	135	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(8.5)	縦位の圧痕隆帯と沈線、平行沈線による幾何学文	堀之内2	
IV 7-12層	136	縄文土器	注口土器	口縁	(8.2)	-	(4.7)	縦位平行沈線、縦位沈線	堀之内2	
IV 1-12層	137	縄文土器	深鉢	口縁・体部	(12.4)	-	(11.5)	3条の縦位平行沈線間に縄文RI、充填	堀之内2	
II 18-12層	138	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(10.7)	縦位隆帯	後期前半	
II 17-22・12層	139	縄文土器	鉢	口縁・体部	(27.0)	-	(8.3)	外面・唇部縦位沈線、内面4条の縦位平行沈線、円形刺突	加賀利B	
IV 2-12層	140	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.5)	内面に7条以上の縦位平行沈線	加賀利B	
IV 7-12層	141	縄文土器	鉢	体部	-	-	(4.2)	外面 4条の縦位平行沈線間に縄文、弧状沈線 内面 3条以上の縦位平行沈線	加賀利B	
II 22-12層	142	縄文土器	シロチャアミ鉢	底	-	-	(3.2)	(6.6)	後期前半	
IV 6-13層	143	縄文土器	深鉢	底部	-	-	(7.2)	(3.8)	底部網代痕	
IV 1-12層	144	縄文土器	深鉢	底部	-	-	(11.0)	(4.5)	後期前半	
II 21-12層	145	縄文土器	深鉢	底部	-	-	(10.2)	(3.7)	底部網代痕	
II 22-12層	146	縄文土器	深鉢	底部	-	-	6.6	(0.9)	底部網代痕	
IV 7-12層	147	縄文土器	深鉢	底部	-	-	(7.8)	(4.8)	内面ミガキ	
III 4-8層	148	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	-	(3.8)	胎土に織維含む、縄文LR	前期前半～中葉
II 20-8層	149	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	-	(3.4)	胎土に織維含む、口唇部刻み、羽状縄文LR	前期前半～中葉
I 19-8層	150	縄文土器	深鉢	口縁・体部	-	-	-	(10.7)	胎土に織維含む、羽状縄文LR	前期前半～中葉
I 20-8層	151	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(5.4)	胎土に織維含む、羽状縄文LR	前期前半～中葉
I 25-8層	152	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(4.6)	胎土に織維含む、縄文LR	前期前半～中葉
I 25-8層	153	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(4.7)	胎土に織維含む、縄文LR	前期前半～中葉
I 25-8層	154	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(8.0)	胎土に織維含む、羽状縄文LR	前期前半～中葉
I 25-8層	155	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	-	(2.7)	胎土に織維含む	前期前半～中葉
IV 1-8層	156	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(3.9)	胎土に織維含む、羽状縄文LR	前期前半～中葉
III 19-8層	157	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(6.4)	胎土に織維含む、羽状縄文LR	前期前半～中葉
III 9-9層	158	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(2.8)	胎土に織維含む、縄文LR	前期前半～中葉
I 20-8層	159	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(5.5)	胎土に織維含む	前期前半～中葉
I 25-8層	160	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(6.1)	胎土に織維含む、縄文LR	前期前半～中葉
I 25-8層	161	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(5.9)	胎土に織維含む、羽状縄文LR	前期前半～中葉
I 20-8層	162	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(2.7)	胎土に織維含む、縦位の刺突文、内面ミガキ	前期中葉
I 14-8層	163	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(4.3)	胎土に織維含む、縄文LR、内面ミガキ	前期中葉
I 20-8層	164	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(3.6)	胎土に織維含む、内面ミガキ、外面横糸文	前期中葉
I 25-8層	165	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(3.1)	胎土に織維含む、縦位の刺突文・横糸文、内面ミガキ	前期中葉
III 4-8層	166	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(4.1)	胎土に織維含む、横糸文、縄文LR	前期前半
I 20-8層	167	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(4.6)	胎土に織維含む、縦位の連続刺突文、内面ミガキ	前期中葉
IV 6-8層	168	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	-	(6.9)	楕円形の沈線区画内に縦位沈線	中期後半
III 14-8層	169	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	-	(6.2)	外面ミガキ	中期後半
III 14-8層	170	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	-	(4.2)	楕円形の区画状沈線内に縦位沈線	後期前半か
III 15-8層	171	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	-	(5.1)	沈線内に縄文LR充填	称名寺
III 14-8層	172	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(8.4)	矢羽状の斜行沈線	中期後半
III 14-8層	173	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(6.6)	矢羽状の斜行沈線	中期後半
III 9-9層	174	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(5.4)	縦位沈線、斜行沈線	中期後半
III 20-8層	175	縄文土器	深鉢	体部	-	-	-	(17.5)	縦位沈線、矢羽状の斜行沈線	中期後半

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量 (cm)			文様・調整等	備考
					口径	底径	器高		
Ⅲ9-8層	176	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.2)	縦位沈線、斜行沈線	中期後半
Ⅲ9-8層	177	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.9)	縦位沈線、斜行沈線	中期後半
I 25-Ⅲ3-8期	178	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.0)	頸部に縦位平行沈線、 円形刺突文からC字状の沈線	後期前半
Ⅲ15-8層	179	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(8.0)	弧状の微隆起線と沈線、縄文LR	中期後半
I 23-8層	180	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.9)	短く縦位隆帯と、横位隆帯	後期前半
I 19-8層	181	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.4)	爪状の連続刺突文	三十四層場
I 14-8層	182	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.2)	爪状の連続刺突文	三十四層場
Ⅲ20-8層	183	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.6)	楕円形の連続刺突文	三十四層場
Ⅲ9-8層	184	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.4)	爪状の連続刺突文	三十四層場
Ⅲ15-8層	185	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.4)	爪状の連続刺突文	三十四層場
Ⅲ15-8層	186	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(2.8)	爪状の連続刺突文	三十四層場
Ⅲ15-8層	187	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.7)	楕円形の連続刺突文	三十四層場
I 14-8層	188	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(2.3)	爪状の連続刺突文	三十四層場
Ⅲ9-8層	189	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(6.0)	管状工具による円形の連続刺突文	三十四層場?
IV11-8層	190	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(2.8)	円形の連続刺突文	三十四層場
Ⅲ9-8層	191	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(1.7)	円形の連続刺突文	三十四層場
Ⅲ9-9層	192	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.6)	櫛歯状工具による条線	前期?
Ⅲ15-9層	193	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.7)	櫛歯状工具による条線	前期?
Ⅲ15-8層	194	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.5)	弧状の微隆起線、縄文LR	称名寺
Ⅲ19-8層	195	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.4)	縦位の微隆起線、縄文LR	称名寺
Ⅲ9-8層	196	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(6.3)	縦位の微隆起線、縄文LR	称名寺
Ⅲ14-8層	197	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(6.8)	微隆起線と沈線、縄文、尊孔	称名寺
I 18-8層	198	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.4)	弧状の微隆起線と沈線、縄文	称名寺
I 18-8層	199	縄文土器	鉢	体部	-	-	(5.7)	弧状の微隆起線と沈線	称名寺
Ⅲ15-8層	200	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.8)	微隆起線と沈線、縄文、尊孔	称名寺
Ⅲ15-8層	201	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.8)	弧状の微隆起線と沈線	称名寺
Ⅲ15-8層	202	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.2)	弧状の微隆起線と沈線、縄文LR	称名寺
Ⅲ5-8層	203	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(6.3)	弧状の平行沈線間に縄文LR充填	称名寺
Ⅲ5-8層	204	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(8.5)	弧状の平行沈線間に縄文LR充填	称名寺
Ⅲ14-8層	205	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.6)	弧状の平行沈線間に縄文LR充填	称名寺
Ⅲ9-8層	206	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.8)	平行沈線間に縄文LR充填、円形刺突文	称名寺
IV6-9層	207	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.5)	平行沈線間に縄文LR充填	称名寺
Ⅲ15-8層	208	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(11.6)	縦位正角隆帯、U字状沈線内に縄文	称名寺
Ⅲ15-8層	209	縄文土器	鉢	体部	-	-	(9.3)	横位隆帯、溝字状沈線	称名寺
Ⅲ9-8層	210	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.6)	短状の平行沈線間に縄文LR充填	称名寺
IV11-8層	211	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(8.0)	縦位環状突起、内面側に弧状突起が付く	称名寺
I 19-8層	212	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.1)	環状突起、側面透し孔、内面側に円形刺突2	称名寺
I 25-8層	213	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.4)	縦位環状突起、側面に透し孔2	称名寺
I 20-8層	214	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.4)	楕円形手に環状突起が付く	称名寺
Ⅲ18-9層	215	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.0)	縦位環状突起、両側上下に円形刺突があり、 それを繋ぐC字状沈線	称名寺
Ⅲ20-8層	216	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.5)	上部1、側面2カ所に円形刺突	称名寺
Ⅲ9-8層	217	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(11.9)	楕円形手、沈線文	称名寺
Ⅲ20-8層	218	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(10.8)	外面は8字状、内面は環状の隆帯上に沈線、突起 両側辺にも沈線、内面から円形の透し孔	称名寺
Ⅲ20-8層	219	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(10.4)	外面8字状隆帯、縄文LR	称名寺
Ⅲ14-8層	220	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(9.7)	外面8字状隆帯か、鼓状口縁に付いた2条の微隆 起線間に円形の連続刺突文	称名寺
Ⅲ15-8層	221	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(11.2)	縦位環状突起上に環状突起を付し、側面、上面、 内面に円形刺突文と沈線を施す	称名寺
Ⅲ20-8層	222	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(8.6)	縦位環状突起、内面は縦位沈線内に円形の連続 刺突文、外面沈線文	称名寺
Ⅲ9-8層	223	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(8.2)	縦位環状突起、片方の側面のみ円形の連続刺突 文を施す、外面沈線文	称名寺
Ⅲ5-8層	224	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.8)	外面渦巻状の肩付文、円形刺突文、沈線 内面沈線間に連続刺突文	称名寺
I 25-8層	225	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.6)	環状突起か、突起脇に環状肩付文と円形刺突文	称名寺
Ⅲ9-8層	226	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.2)	横位の捻転状突起上下に円形の連続刺突文	称名寺
Ⅲ15-8層	227	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.4)	内面片側を内側に折り込むC字状の突起、外面 は8字状の隆帯か	称名寺
Ⅲ9-9層	228	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(7.8)	上部に円形刺突、外面円形刺突文、沈線文	称名寺
Ⅲ9-8層	229	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(8.9)	沈線文、縄文LRか	称名寺

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量(cm)			文様・調整等	備考
					口径	底径	器高		
Ⅲ5-8層	230	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.9)	沈線間に凹形刺突文	塚名寺
Ⅲ14-8層	231	縄文土器	鉢	口縁	-	-	(6.3)	沈線文、縄文LR	塚名寺
Ⅲ20-8層	232	縄文土器	鉢	口縁	-	-	(4.9)	横位沈線、縄文LR	塚名寺
Ⅲ15-8層	233	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.7)	横位沈線	塚名寺
Ⅲ14-8層	234	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.4)	縄文LR	塚名寺
Ⅳ11-8層	235	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.6)	横位平行沈線、縄文RL	塚名寺
Ⅲ15-8層	236	縄文土器	鉢	口縁	-	-	(4.1)	横位沈線、縄文LR	塚名寺
Ⅲ14-8層	237	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.3)	沈線文、縄文LR	塚名寺
Ⅲ14-8層	238	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.8)	無文	後期前半
Ⅲ15-8層	239	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.4)	無文	塚名寺
Ⅲ15-8層	240	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.8)	凹形の連続刺突文、縄文LR	塚名寺?
Ⅲ20-8層	241	縄文土器	深鉢	口縁	(27.2)	-	(7.5)	破状口縁の突起部に通し孔 頸部桶状把手、凹形の連続刺突文	塚之内1
Ⅲ19-8層	242	縄文土器	深鉢	口縁	(18.0)	-	(6.6)	突起部に十字状圧痕降帯、頸部に桶状把手 沈線区画内に縄文LR	塚之内1
Ⅳ11-8層	243	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.5)	突起部にC字状沈線、突起下に縦位沈線	塚之内1
Ⅲ5-8層	244	縄文土器	深鉢	口縁~体部	(10.0)	-	(7.7)	沈線区画内に縄文LR	塚之内1
Ⅲ20-8層	245	縄文土器	深鉢	口縁	(17.2)	-	(4.3)	突起上端に曲線文、口唇部は沈線と凹形刺突文	塚之内1
Ⅳ11-8層	246	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.7)	突起外面は沈線文、内面は横状か	塚之内1
Ⅲ15-8層	247	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.1)	斜行する横状把手、内面に凹形刺突	塚之内1?
Ⅲ14-8層	248	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.2)	小突起側面に通し孔、内面に凹形刺突	塚之内1?
Ⅲ15-8層	249	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.0)	8字状突起	塚名寺?
Ⅳ11-8層	250	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.0)	縦位沈線、内面に凹形刺突、通し孔	塚之内1
Ⅲ14-8層	251	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.8)	横状突起内面に沈線と凹形通し	塚之内1
Ⅳ11-8層	252	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.6)	突起外面に凹形刺突文、縦位圧痕降帯	塚之内1
Ⅲ9-8層	253	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.5)	外面は横状突起部に8字状突起 内面は小型の横状突起と凹形刺突文	塚之内1
Ⅲ25-8層	254	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(3.8)	突起部に縦位沈線、横位沈線	塚之内1
Ⅲ14-8層	255	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.7)	横状突起、外面は横位沈線間に凹形の 連続刺突文、内面口唇部弧状沈線	塚之内1
Ⅲ10-9層	256	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.3)	外面にC字状沈線、内外面に凹形刺突文	塚之内1
Ⅲ15-8層	257	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.6)	突起頂部から外面に縦位に8字状突起 内面に凹形刺突文	塚之内1
Ⅲ20-8層	258	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.7)	突起部にC字状沈線	後期前半
Ⅲ15-8層	259	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.9)	通し孔周囲にC字状沈線、縦位圧痕降帯	塚之内1
Ⅲ10-9層	260	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.4)	突起部の横状突起	塚之内1か
Ⅳ11-8層	261	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.1)	内外面にC字状・縦位沈線	塚之内1
Ⅲ15-8層	262	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(2.6)	内外面凹形刺突文、横位沈線	塚之内1
Ⅳ11-8層	263	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(3.3)	通し孔部に凹形刺突文、横位沈線、内面横位沈線	塚之内1
Ⅲ9-8層	264	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.5)	外面凹形刺突から横位沈線	塚之内1
Ⅲ15-9層	265	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.8)	縦位平行沈線、口唇部横位沈線	塚之内1
Ⅲ4-9層	266	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.6)	縦位・斜位平行沈線、口唇部横位沈線	塚之内1
Ⅲ4-8層	267	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.4)	縦位平行沈線、口唇部横位沈線	塚之内1
Ⅲ20-8層	268	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.5)	縦位平行沈線施文後にナズ、口唇部横位沈線	塚之内1
Ⅲ14-8層	269	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.4)	縦位平行沈線、口唇部横位沈線	塚之内1
Ⅲ15-8層	270	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.9)	突起部に凹形刺突文	塚之内1
Ⅲ20-8層	271	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.7)	口唇部横位沈線	塚之内1
Ⅲ5-8層	272	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.9)	口唇部横位沈線	塚之内1
Ⅲ15-8層	273	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.9)	口唇部横位沈線	塚之内1
Ⅲ20-8層	274	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.3)	口唇部横位沈線	塚之内1
Ⅲ25-6層	275	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(7.4)	口唇部横位沈線	塚之内1
Ⅲ15-8層	276	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.2)	口唇部横位沈線	塚之内1
Ⅲ25-8層	277	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.4)	口唇部に縦位降帯	後期前半
Ⅲ15-8層	278	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.1)	無文	後期前半
Ⅲ15-8層	279	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.6)	口唇部横位沈線	塚之内1
Ⅲ15-8層	280	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.0)	口唇部凹形刺突文から横位沈線	塚之内1
Ⅲ25-8層	281	縄文土器	鉢	口縁	-	-	(4.9)	凹形刺突文、横位・弧状沈線、縄文LR	塚之内1
Ⅲ20-8層	282	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(8.6)	4条の縦位平行沈線間に縄文LR	塚之内1
Ⅲ15-8層	283	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(12.1)	8字状突起下に6条の平行沈線による平円形文と、	塚之内1
Ⅲ15-8層	284	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.4)	4条の縦位平行沈線	塚之内1
Ⅳ6-8層	285	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.1)	8字状突起下に曲線状沈線、弧状沈線、縄文LR	塚之内1

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量 (cm)			文様・調整等	備考
					口径	底径	器高		
Ⅲ10-9層	286	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.0)	頸部に円形刺突文と横位沈線	塚之内1
Ⅲ14-8層	287	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.8)	横位・弧状の平行沈線、縄文LR	塚之内1
Ⅲ15-8層	288	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.2)	8字状突起、横位・弧状沈線、縄文LR	塚之内1
Ⅲ15-9層	289	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.0)	管状工具による爪状の圧痕隆帯、横位・弧状沈線	塚之内1
I 25-6層	290	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.6)	円形の圧痕隆帯、弧状の平行沈線、縄文LR	塚之内1
Ⅳ1-8層	291	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.5)	横位圧痕隆帯状に8字状突起、渦巻状沈線	塚之内1
Ⅲ15-8層	292	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.1)	横位圧痕隆帯状の8字状突起から斜位の隆帯	塚之内1
Ⅳ11-8層	293	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.4)	2段の横位圧痕隆帯、円形刺突文、弧状沈線	塚之内1
Ⅳ11-8層	294	縄文土器	鉢	体部	-	-	(5.6)	縦位沈線間に縄文LR	塚之内1
Ⅲ5-8層	295	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.9)	圧痕隆帯、斜弧状の平行沈線	加曾利B
Ⅲ5-8層	296	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.9)	斜弧状の平行沈線	加曾利B
Ⅲ15-8層	297	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.1)	突起に溝孔	塚之内1
Ⅲ4-8層	298	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.3)	8字状突起、弧状沈線、縄文LR	塚之内1
Ⅲ14-8層	299	縄文土器	鉢	体部	-	-	(4.3)	隆帯を繋ぐ小形の横位把手、把手下に縦横位隆帯、縦位沈線、円形の連続刺突文	塚之内1
I 19-8層	300	縄文土器	鉢	体部	-	-	(3.7)	横位把手の脇に円形刺突文、外面朱彩	塚之内1
Ⅲ5-8層	301	縄文土器	鉢	口縁	(2.7)	-	(8.4)	301・302同個体	塚之内2か
Ⅲ5-8層	302	縄文土器	鉢	体部	-	-	(8.4)	301・302同個体	塚之内2か
Ⅲ4-9層	303	縄文土器	注口土器	把手	-	-	(5.9)	横位把手下に8字状突起、弧状沈線、縄文LR	塚之内2
Ⅲ15-8層	304	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(7.8)	8字状突起、縄文LR、平行沈線による幾何学文、内面はか所に円形刺突	塚之内2
Ⅲ4-8層	305	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.8)	口唇部刻み、底部上端に円形刺突文、外面に横位刻み隆帯と8字状突起、沈線、縄文LR	塚之内2
Ⅲ15-8層	306	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.2)	横位隆帯と8字状突起、沈線、縄文LR	塚之内2
Ⅲ4-8層	307	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.1)	横位刻み隆帯、横位沈線間に縄文LR	塚之内2
Ⅲ10-9層	308	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.1)	小突起部に縦位沈線、内外面に3か所づつ円形刺突文、外面縦位圧痕隆帯	塚之内2
Ⅲ5-8層	309	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.4)	口唇部刻み、透し孔と円形刺突文、8字状隆帯、2条の横位沈線間に縄文LR	塚之内2
Ⅲ5-8層	310	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.6)	横位圧痕隆帯、横位沈線、縄文LR	塚之内2
Ⅲ5-8層	311	縄文土器	鉢	口縁	(18.2)	-	(6.3)	3条の横位沈線、上段に縄文LR	塚之内2
Ⅳ11-8層	312	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.9)	沈線間に縄文LR、赤土	塚之内2
Ⅲ15-8層	313	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.8)	横位刻み隆帯	塚之内2
Ⅲ14-8層	314	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.2)	縄文LR、横位沈線	塚之内2
Ⅲ19-8層	315	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.9)	横位圧痕隆帯、8字状突起、縄文LR、沈線による幾何学文	塚之内2
Ⅲ15-8層	316	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.1)	2段の横位圧痕隆帯	塚之内2
Ⅳ11-8層	317	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.3)	口唇部刻み、横位・弧状沈線	塚之内2
Ⅲ15-8層	318	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.0)	横位平行沈線、横位・斜位沈線による幾何学文	塚之内2
Ⅲ15-8層	319	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.0)	内外面ミガキ、口唇部刻み、横位沈線、波状口縁	塚之内2
Ⅲ13-8層	320	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.1)	横位平行沈線間に櫛歯状工具による縦位条線を充填	後期?
Ⅲ15-8層	321	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.0)	横位沈線間に縄文LR	塚之内2
Ⅲ15-8層	322	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.2)	横位刻み隆帯	塚之内2
Ⅲ10-9層	323	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.1)	縦位隆帯による小突起、両端に円形刺突、横位沈線	塚之内2
Ⅲ15-8層	324	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.8)	横位沈線	塚之内2
Ⅲ15-8層	325	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.2)	内面に横位沈線、穿孔孔	塚之内2
Ⅲ15-8層	326	縄文土器	深鉢	口縁	(13.2)	-	(4.9)	内外面ミガキ	塚之内2
Ⅲ15-8層	327	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.0)	内外面ミガキ	塚之内2
Ⅲ15-8層	328	縄文土器	鉢	口縁	-	-	(4.4)	内外面ミガキ	塚之内2
Ⅲ15-8層	329	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.2)	S字状突起、内面に円形刺突	塚之内2
Ⅲ15-8層	330	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.4)	3か所の円形刺突	塚之内2
Ⅳ11-8層	331	縄文土器	深鉢	口縁~体部	(11.0)	-	(6.3)	3条の横位沈線、縦位の短沈線	塚之内2
Ⅲ9-8層	332	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(8.1)	内面に横位沈線	塚之内2
Ⅲ15-8層	333	縄文土器	鉢	口縁	(13.0)	-	(3.7)	横位沈線間に縄文LR、円形刺突、弧状沈線	塚之内2
Ⅳ1-12層	334	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.4)	横位沈線間に縄文LR、口唇部刻み	加曾利Bか
Ⅲ15-8層	335	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(2.7)	縦位横位突起	塚之内2
Ⅲ15-8層	336	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(6.7)	縄文LR、沈線による幾何学文	塚之内2
Ⅲ9-8層	337	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.5)	縄文LR、沈線	塚之内2
Ⅲ14-8層	338	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.7)	縄文LR、沈線	塚之内2
Ⅲ9-8層	339	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(2.4)	縄文LR、沈線	塚之内2
Ⅲ15-8層	340	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.2)		塚之内2?

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量 (cm)			文様・調整等	備考
					口径	底径	器高		
Ⅲ15-8層	341	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.8)	横位沈線	堀之内2?
Ⅲ15-8層	342	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(8.9)	内外面3ガキ	堀之内2
Ⅲ15-8層	343	縄文土器	鉢	口縁+体部	9.6	-	(5.6)	5条の横位平行沈線、内外面2ガキ	加曾利B
Ⅲ15-8層	344	縄文土器	深鉢	口縁	(10.4)	-	(5.2)	口縁部の縦状突起、2段の圧痕隆帯を繋ぐ連結した8字状重文、縄文LR、沈線文	加曾利B
Ⅲ15-8層	345	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.3)	口縁部の縦状突起、2段の圧痕隆帯を繋ぐ連結した8字状重文	加曾利B
Ⅲ15-8層	346	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.1)	縄文LR、弧状・横位沈線	加曾利B
Ⅲ15-8層	347	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.7)	縄文LR、横位沈線	加曾利B
Ⅲ14-8層	348	縄文土器	注口土器	口縁+体部	(7.6)	-	(6.9)	体上部は横位平行沈線で、交互に刻みが施される。中央は細密条線による結紐状意匠が描かれる。	加曾利B
Ⅲ14-8層	349	縄文土器	注口土器	体部	-	-	(5.1)	細密条線による結紐状意匠	加曾利B
Ⅳ11-8層	350	縄文土器	注口土器	口縁+体部	(7.2)	-	(6.0)	口縁から体部上半は横位平行沈線で、交互に刻みが施される。体部中央は条線による逆三角形状意匠	加曾利B
Ⅲ14-8層	351	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(8.0)	口唇部刻み、内面4条以上の横位平行沈線、突起は外面に3か所内面に1か所の円形刺突、口縁部横位沈線が突起左側の円形刺突に繋がる。突起下に数段の沈線	加曾利B
Ⅲ10-9層	352	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.9)	内面2条の横位平行沈線、突起は外面に3か所内面1か所の円形刺突、外面沈線と縄文	加曾利B
Ⅲ14-8層	353	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.2)	外面に3か所内面1か所の円形刺突	加曾利B
Ⅲ15-8層	354	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.2)	外面に3か所内面1か所の円形刺突	加曾利B
Ⅳ1-8層	355	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.9)	外面に3か所内面1か所の円形刺突、内面横位沈線	加曾利B
Ⅲ5-8層	356	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.4)	突起中央に透し孔、上部に4か所の円形刺突	加曾利B
Ⅲ5-8層	357	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.9)	突起中央に透し孔、上部に5か所の円形刺突	加曾利B
Ⅲ5-8層	358	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(4.1)	外面2か所内面1か所の円形刺突、上部は弧状沈線	加曾利B
Ⅲ15-9層	359	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(9.2)	突起右側に円形刺突、中央透し孔、内面5条、外面5条の横位平行沈線	加曾利B
Ⅲ15-8層	360	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.0)	突起右側と内面に円形刺突、中央透し孔、内面4条以上の横位平行沈線	加曾利B
Ⅳ6-8層	361	縄文土器	注口土器	体部	-	-	(4.4)	渦巻状沈線の周囲を囲む条線、円形刺突文	加曾利B
Ⅲ4-8層	362	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.9)	2か所の透し孔、内面に横位・弧状沈線、横位沈線間に刻みを施す。外面口唇部環状沈線間に縄文	加曾利B
Ⅲ15-8層	363	縄文土器	注口土器	口縁	(10.4)	-	(6.7)	2条の横位平行沈線	加曾利B?
Ⅲ15-8層	364	縄文土器	深鉢	口縁+体部	(21.6)	-	(13.6)	口唇部円形刺突文、3条の平行沈線	加曾利B
Ⅲ15-8層	365	縄文土器	深鉢	口縁+体部	-	-	(15.0)	外面は2条の横位平行沈線、鉤手状の横位沈線による5条の平行沈線、内面は口縁部に短い縦位隆帯と円形の連続刺突文、5条の横位平行沈線	加曾利B
Ⅲ15-8層	366	縄文土器	深鉢	口縁+体部	20.2	-	(12.2)	365と同器体	加曾利B
Ⅳ11-8層	367	縄文土器	深鉢	口縁+体部	(17.6)	-	(9.9)	口唇部刻み、内面は口縁下に円形の連続刺突文と横位隆帯、4条の平行沈線、外面横位沈線	加曾利B
Ⅲ5-8層	368	縄文土器	鉢	口縁	-	-	(4.3)	口唇部刻み、耳状の小突起、外面2条の横位平行沈線間に縄文LR充填、弧状沈線を縦位に配置内面は2条の横位平行沈線	加曾利B
Ⅲ20-8層	369	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.2)	口唇部刻み、外面は鉤手状の横位平行沈線内面は1条の横位平行沈線	加曾利B
Ⅲ15-9層	370	縄文土器	深鉢	口縁	(16.6)	-	(4.9)	外面3条、内面4条の横位平行沈線、口唇部横位沈線	加曾利B
Ⅲ15-8層	371	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(8.4)	口唇部刻み、外面7条、内面5条の横位平行沈線	加曾利B
Ⅲ19-8層	372	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.5)	外面4条、内面4条の横位平行沈線、口唇部刻み	加曾利B
Ⅲ15-8層	373	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(7.1)	外面7条、内面5条の横位平行沈線	加曾利B
Ⅲ19-8層	374	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.9)	外面5条、内面3条の横位平行沈線	加曾利B
Ⅳ11-8層	375	縄文土器	深鉢	口縁	(19.0)	-	(5.7)	口唇部刻み、外面4条以上、内面4条の横位平行沈線	加曾利B
Ⅲ15-8層	376	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.4)	外面5条、内面4条の横位平行沈線	加曾利B
Ⅲ15-8層	377	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.2)	外面4条の横位平行沈線間に縄文、内面4条以上の横位平行沈線	加曾利B
Ⅲ15-8層	378	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.1)	外面5条、内面3条の横位平行沈線	加曾利B
Ⅲ15-8層	379	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.4)	外面5条、内面4条の横位平行沈線	加曾利B
Ⅳ11-8層	380	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.7)	横位平行沈線間に縄文LR充填、縦長の刺突を斜めに施す	加曾利B

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量(cm)			文様・調整等	備考
					口径	底径	器高		
Ⅲ15-8層	381	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(7.0)	口唇部刻み、内面3条の横位平行沈線	加曾利B
Ⅲ15-8層	382	縄文土器	鉢	口縁	-	-	(3.8)	口唇部刻み、外面1条の横位沈線	加曾利B
Ⅲ10-9層	383	縄文土器	鉢	口縁	-	-	(2.8)	外面横位平行沈線間に縄文LR充填	加曾利B
Ⅳ11-8層	384	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.4)	口唇部刻み、外面1条の横位沈線、内面横位隆帯	加曾利B
Ⅲ10-8層	385	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.1)	口唇部刻み、内外面横位平行沈線	加曾利B
Ⅲ14-8層	386	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(3.7)	外面2か所内面1か所の円形刺突	加曾利B
Ⅲ14-8層	387	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.8)	外面円形刺突、横位沈線、縄文LR、内面横位沈線	加曾利B
Ⅲ15-8層	388	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.7)	内面の渦巻状沈線、多条の横位沈線間に縄文LR充填	加曾利B
Ⅳ11-8層	389	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.6)	外面5条以上の横位平行沈線間に縄文LR充填 内面弧状沈線、4条以上の横位平行沈線	加曾利B
Ⅲ15-8層	390	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.8)	外面横位平行沈線、弧状沈線間に刺突文 内面横位隆帯上部に連続刺突文	加曾利B? 壁?
Ⅳ11-8層	391	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.0)	外面横位平行沈線間に縄文LR充填、縦長の刺突を斜めに施す	加曾利B
Ⅲ14-8層	392	縄文土器	注口土器	体部	-	-	(3.1)	外面横位平行沈線間に斜位の短沈線	加曾利B
Ⅲ15-8層	393	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(11.8)	横位隆帯、縄文LR	後期前半
Ⅲ15-8層	394	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.8)	縄文LR	後期前半
I 14-8層	395	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(10.3)	横位刻み隆帯	後期前半
Ⅲ14-8層	396	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.1)	横位圧痕隆帯	後期前半
Ⅲ9-8層	397	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.6)	口縁から弧状に伸びる圧痕隆帯	後期前半
Ⅲ9-8層	398	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.7)	横位圧痕隆帯	後期前半
Ⅲ14-8層	399	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.7)	口縁から弧状に伸びる圧痕隆帯	後期前半
Ⅲ4-8層	400	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.1)	2段の横位圧痕隆帯	後期前半
Ⅲ5-8層	401	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.9)	2段の横位圧痕隆帯	後期前半
Ⅳ1-8層	402	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.4)	横位圧痕隆帯	後期前半
Ⅲ15-8層	403	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.2)	横位圧痕隆帯	後期前半
Ⅳ6-8層	404	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.7)	横位圧痕隆帯	後期前半
I 18-8層	405	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.2)	横位圧痕隆帯	後期前半
I 19-8層	406	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.5)	横位・弧状の沈線	後期前半
Ⅲ14-8層	407	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(7.4)	横位隆帯	後期前半
Ⅲ14-8層	408	縄文土器	深鉢	口縁+体部	(23.2)	-	(10.0)	無文	後期前半
Ⅲ9-8層	409	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.2)	横位隆帯、穿孔	後期前半
Ⅲ20-9層	410	縄文土器	深鉢	口縁+体部	(40.2)	-	(30.1)	口縁突起部に円形刺突文3、頸部4条の平行沈線と円形刺突文、5条の平行沈線による渦巻文、縄文LR	堀之内1
Ⅳ11-8層	411	縄文土器	深鉢	体部+底部	-	7.3	(12.6)	底部網代痕	後期前半
Ⅲ15-8層	412	縄文土器	深鉢	口縁+体部	11.2	-	(12.1)	無文	後期前半
Ⅲ15-8層	413	縄文土器	注口土器	口縁+体部	(18.6)	-	(19.7)	8条の横位沈線、注口上部に弧状沈線による意匠	加曾利B?
Ⅲ14-8層	414	縄文土器	注口土器	口縁+底部	(7.8)	(5.4)	(11.6)	注口上部に楕状把手、底部網代痕	堀之内2か
Ⅲ15-8層	415	縄文土器	注口土器	注口部	-	8.0	-	注口上部に楕状把手、外面ヘラ状工具によるナデ	後期前半
Ⅲ20-8層	416	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(7.4)	注口上部に楕状把手、内面円形刺突文、外面沈線文	称名寺
Ⅲ4-8層	417	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(5.8)	注口上部の楕状把手に円形刺突文、外面沈線文	後期前半
Ⅳ11-8層	418	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(5.3)	注口上部に楕状把手	後期前半
Ⅲ9-8層	419	縄文土器	深鉢?	口縁	-	-	(3.9)	受口状を呈する、外面横位沈線と円形刺突文	堀之内1か
Ⅲ10-9層	420	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(3.6)	注口上部に楕状把手、側面に沈線文	後期前半
Ⅲ14-8層	421	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(5.6)	外面ミガキ	後期前半
Ⅲ14-8層	422	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(4.9)	外面ミガキ	後期前半
Ⅲ15-8層	423	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(4.7)	外面ミガキ	後期前半
Ⅲ20-8層	424	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(5.1)	外面ミガキ	後期前半
Ⅲ15-8層	425	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(2.1)	無文	後期前半
Ⅳ11-8層	426	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(3.1)	無文	後期前半
Ⅲ14-8層	427	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(5.3)	外面ミガキ	後期前半
I 25-6層	428	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(4.1)	注口上部に楕状把手か	後期前半
Ⅲ15-8層	429	縄文土器	注口土器	口縁部把手	-	-	(3.1)	楕状把手、沈線文	後期前半
Ⅳ11-8層	430	縄文土器	鉢	口縁部把手	-	-	(5.1)	楕状把手	後期前半
I 23-8層	431	縄文土器	鉢	口縁部把手	-	-	(2.7)	楕状把手	後期前半
Ⅲ15-8層	432	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	(3.7)	注口上部に楕状把手	後期前半
I 19-8層	433	縄文土器	鉢	口縁部把手	-	-	(7.2)	楕状把手	称名寺

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量(cm)			文様・調整等	備考
					口径	底径	器高		
Ⅱ15-8層	434	縄文土器	注口土器	把手	-	-	(4.0)	棒状把手	後期前半
Ⅱ15-8層	435	縄文土器	注口土器	把手	-	-	(2.9)	棒状把手	後期前半
Ⅱ2-3層	436	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.3)	筋十に織進含む、縄文	前期前半～中期
Ⅱ2-3層	437	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.4)	筋十に織進含む、羽状縄文	前期前半～中期
Ⅱ1-3層	438	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.8)	筋十に織進含む、横位隆帯、羽状縄文LR	前期 塚田式
Ⅱ1-3層	439	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(2.5)	筋十に織進含む、縄文	前期前半～中期
Ⅱ2-3層	440	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.4)	筋十に織進含む	前期前半～中期
Ⅱ23-3層	441	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.7)	爪状の連続刺突文	三十稲場
Ⅱ6-3層	442	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.7)	横位沈線、棒状の連続刺突文	後期前半
Ⅱ15-3層	443	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.8)	爪状の連続刺突文	三十稲場
Ⅱ19-3層	444	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(2.8)	横位圧痕隆帯、爪状の連続刺突文	三十稲場
Ⅱ20-3層	445	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(8.5)	外面隆帯、内面凹形刺突文	秩名寺
Ⅱ6-3層	446	縄文土器	深鉢	口縁	(10.8)	-	(8.0)	沈線	秩名寺
Ⅱ14-3層	447	縄文土器	鉢	口縁	-	-	(5.6)	棒状把手、内面透孔	秩名寺?
Ⅱ6-3層	448	縄文土器	鉢	口縁部把手	-	-	(5.2)	棒状把手、内面凹形刺突文	秩名寺?
Ⅱ22-3層	449	縄文土器	鉢	口縁	-	-	(5.4)	横位沈線と縦位沈線による区画内に縄文R	後期前半
Ⅱ22-3層	450	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.6)	凹形の連続刺突文	後期前半
Ⅱ20-3層	451	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.1)	口唇部に凹形刺突文と沈線	秩名寺
Ⅱ19-3層	452	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.3)	弧状の隆帯と沈線	秩名寺
Ⅱ19-3層	453	縄文土器	深鉢	口縁部突起	-	-	(3.3)	杵状の突起、透孔1、上部3・外面1の凹形刺突文	秩名寺
Ⅱ24-3層	454	縄文土器	深鉢	口縁部突起	-	-	(4.7)	突起部は3条の縦位沈線、外面沈線	秩名寺
Ⅱ19-3層	455	縄文土器	深鉢	口縁部突起	-	-	(5.7)	8字状隆帯上に沈線、口縁に凸凹形の連続刺突文	秩名寺
Ⅱ19-3層	456	縄文土器	深鉢	口縁部突起	-	-	(5.8)	9字状隆帯上に凹形刺突文と沈線、口縁に沿う凹形の連続刺突文、内面凹形刺突文	秩名寺
Ⅱ23-3層	457	縄文土器	深鉢	口縁部突起	-	-	(2.6)	環状突起、突起外面に沈線	秩名寺
Ⅱ6-3層	458	縄文土器	深鉢	口縁部突起	-	-	(4.3)	棒状突起	秩名寺
Ⅱ2-3層	459	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.8)	条線文、沈線文	秩名寺
Ⅱ14-3層	460	縄文土器	深鉢	口縁-体部	(28.6)	-	(11.9)	突起部内外面に凹形刺突文、外面にC字状沈線頸部に8字状突起、3～4条の平行沈線	堀之内1
Ⅱ22-3層	461	縄文土器	深鉢	体部-底径	-	(9.4)	(11.4)	平行沈線による弧状の沈線	堀之内2?
Ⅱ22-3層	462	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(3.6)	平行沈線による弧状の沈線	堀之内2?
Ⅱ24-3層	463	縄文土器	深鉢	口縁部突起	-	-	(7.6)	外面は楕円形と小形凹形の環状突起が連結内面にも環状突起を付し、それぞれに凹形刺突・沈線が施される	秩名寺の堀之内
Ⅱ24-3層	464	縄文土器	深鉢	口縁部突起	-	-	(3.9)	透孔1、凹形刺突文外面2、内面1	堀之内1
Ⅱ14-3層	465	縄文土器	深鉢	口縁部突起	-	-	(4.2)	突起部内外面に凹形刺突文、外面にはC字状沈線、横位沈線	堀之内1
Ⅱ23-3層	466	縄文土器	深鉢	口縁部突起	-	-	(4.3)	の字状隆帯、口唇部に2条の横位平行沈線	堀之内1
Ⅱ22-3層	467	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.1)	口唇部に横位沈線	堀之内1
Ⅱ23-3層	468	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(8.5)	突起部に透孔1、凹形刺突文3、口唇部に横位沈線口縁部に縄文LR	堀之内1
Ⅱ22-3層	469	縄文土器	鉢	口縁	-	-	(3.0)	凹形の連続刺突文	堀之内1
Ⅱ15-3層	470	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.8)	口唇部に横位沈線	堀之内1
Ⅱ6-3層	471	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.3)	口唇部に横位沈線	堀之内1
Ⅱ23-3層	472	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.4)	口唇部に横位沈線と凹形刺突文	堀之内1
Ⅱ19-3層	473	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.4)	凹形刺突文、横位・縦位沈線、横位圧痕隆帯	堀之内1
Ⅱ18-3層	474	縄文土器	深鉢	口縁部突起	-	-	(4.9)	内面は凹形刺突、沈線外面は凹形刺突、C字状沈線、横位平行沈線間に縄文	堀之内1
Ⅱ23-3層	475	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(7.3)	C字の棒状把手、把手部に凹形刺突文、頸部に横位隆帯	堀之内1
Ⅱ23-3層	476	縄文土器	鉢	体部	-	-	(6.1)	頸部に横位平行沈線と凹形刺突文、体部は横位平行沈線の上側に3条の弧状・斜行平行沈線による意匠	堀之内1
Ⅱ23-3層	477	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.2)	頸部に凹形の連続刺突文、体部に弧状沈線、縦位圧痕隆帯、縄文LR	堀之内1
Ⅱ18-3層	478	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(6.4)	頸部に凹形の連続刺突文、体部に弧状沈線、縄文LR	堀之内1
Ⅱ23-3層	479	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(4.7)	横位・縦位の平行沈線、縄文LR	堀之内1

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量(cm)			文様・調整等	備考	
					口径	底径	器高			
I14-3層	480	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(5.0)	縦文・斜位の平行沈線	堀之内1	
I22-3層	481	縄文土器	深鉢	体部	-	-	(6.6)	集合沈線による幾何学文、円形刺突文	堀之内2	
I15-3層	482	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(7.7)	口唇部横位沈線、縦位刻み隆帯上に、縦横の8字状突起を付、波状の縦位沈線、縄文LR	堀之内2	
I11-15層	483	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.8)	内面に円形刺突文、C字状沈線、横位沈線 外面頸部に横位沈線と8字状突起	堀之内2	
I22-3層	484	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.0)	縦位刻み隆帯上に8字状突起	堀之内2	
I14-3層	485	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.5)	口縁内面に縦位沈線	堀之内2	
I22-3層	486	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.5)	3条の縦位刻み隆帯	堀之内2	
I24-3層	487	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.4)	横位沈線	堀之内2	
I18-3層	488	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.9)	小突起部内外面に円形刺突と横位沈線、外面にはC字状沈線	堀之内2	
I19-3層	489	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.4)	口縁部内面横位沈線、外面沈線区画内に縄文LR	堀之内2	
II6-3層	490	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.5)	沈線文	後期前半	
I23-3層	491	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.5)	沈線文、縄文LRか	地名寺	
I19-3層	492	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(4.4)	横位隆帯	後期前半	
I19-3層	493	縄文土器	深鉢	口縁部突起	-	-	(5.2)	溝・孔1、上面に円形刺突文3	加曽利B	
III2-3層	494	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(3.3)	口唇部に5条以上の横位沈線	加曽利B	
I22-3層	495	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(1.8)	口唇部刻み、内面に横位沈線	加曽利B	
III15-8層	503	縄文土器	釣手土器	把手	-	-	(8.6)	溝・孔、沈線文	奈良	
I25-6層	504	須臾器	甕	体部	-	-	(4.4)	内面クロコナデ、外面クロコナデ、ヘラケズリ	奈良・平安	
IV11-8層	529	縄文土器	深鉢	体部～底部	-	-	(7.2)	(16.6)	底部網代瓦	堀之内2か
III15-8層	530	縄文土器	深鉢	口縁～体部	(38.2)	-	-	(19.8)	無文	後期前半
I14-8層	531	縄文土器	深鉢	把手	-	-	(9.5)	横位隆帯を繋ぐ横位把手	後期前半	
III9-8層	532	縄文土器	深鉢	把手	-	-	(7.9)	横位把手中央に縦位の圧痕隆帯	後期前半	
III20-8層	533	縄文土器	深鉢	把手	-	-	(5.1)	横位把手の側面に円形刺突	後期前半	
IV6-8層	534	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.7)	内面溝帯8状、C字状沈線と円形刺突 外面は幅広の凹線内に沈線を施す	堀之内1か	
III14-8層	535	縄文土器	鉢	口縁突起	-	-	(6.3)	内面に隆帯と沈線による溝帯文、周囲に沈線	堀之内15か	
III20-8層	536	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(6.0)	C字状を呈し、上面及び内面に沈線を施す	地名寺か	
III20-8層	537	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.5)	8字形の横位突起	地名寺か	
III20-8層	538	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.0)	環状突起、内外面に溝・孔	地名寺か	
III19-8層	539	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.4)	8字状の張付文、横位沈線文内に円形の連続刺突文	堀之内1か	
III5-9層	540	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.0)	縦位沈線と円形刺突	堀之内15か	
III15-8層	541	縄文土器	深鉢	口縁突起	-	-	(5.0)	内外面横位隆帯、沈線、円形刺突文	後期前半	
III5-8層	542	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.4)	口唇部に円形の連続刺突文	後期前半	
III15-8層	543	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.7)	2条の縦位刻み隆帯	堀之内2	
III5-8層	544	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(5.8)	沈線文	後期前半	
I25-8層	545	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(2.1)	縦位沈線、横位に連続する棒状の圧痕	後期前半	
III15-9層	546	縄文土器	台付の鉢*	体部	-	-	(2.9)	縄文LR	後期前半	
II6-3層	547	縄文土器	深鉢	体部～底部	6.4	(13.3)	-	縦位沈線、縄文LR	堀之内1	
IV11-8層	548	縄文土器	深鉢	底部	-	-	8.8	(9.3)	底部網代瓦	後期前半
III9-8層	549	縄文土器	深鉢	底部	-	-	7.9	(6.1)	底部網代瓦	後期前半
III15-8層	550	縄文土器	深鉢	底部	-	-	9.8	(5.3)	底部網代瓦	後期前半
IV11-8層	551	縄文土器	深鉢	底部	-	-	(11.0)	(5.3)	底部網代瓦	後期前半
III10-9層	552	縄文土器	深鉢	底部	-	-	(9.8)	(4.2)	底部網代瓦	後期前半
III11-8層	553	縄文土器	深鉢	底部	-	-	8.1	(3.4)	底部網代瓦	後期前半
III15-8層	554	縄文土器	深鉢	底部	-	-	(7.8)	(2.9)	底部網代瓦	後期前半
III14-8層	555	縄文土器	深鉢	底部	-	-	(10.8)	(5.3)	底部網代瓦	後期前半
IV6-8層	556	縄文土器	深鉢	底部	-	-	(11.0)	(3.3)	底部網代瓦	後期前半
III15-8層	557	縄文土器	深鉢	底部	-	-	(11.0)	(9.4)	底部網代瓦	後期前半
III14-8層	558	縄文土器	深鉢	底部	-	-	9.2	(4.1)	底部網代瓦	後期前半
IV1-8層	559	縄文土器	深鉢	底部	-	-	(8.6)	(4.7)	底部網代瓦	後期前半
III15-8層	560	縄文土器	深鉢	底部	-	-	(8.6)	(4.5)	底部網代瓦	後期前半
III15-8層	561	縄文土器	深鉢	底部	-	-	8.2	(2.4)	底部網代瓦	後期前半
III15-8層	562	縄文土器	深鉢	底部	-	-	6.2	(3.1)	底部網代瓦	後期前半
III10-9層	563	縄文土器	深鉢	底部	-	-	(10.0)	(2.3)	底部網代瓦	後期前半
III15-8層	564	縄文土器	深鉢	底部	-	-	(5.2)	(2.2)	底部網代瓦、縦位沈線、縄文	後期前半
III10-9層	565	縄文土器	深鉢	底部	-	-	(5.2)	(2.2)	底部沈線、葉繁瓦	後期前半
III15-8層	566	縄文土器	深鉢	底部	-	-	(7.2)	(3.1)	底部葉繁瓦	後期前半
III4-8層	567	縄文土器	深鉢	底部	-	-	5.4	(0.9)	底部葉繁瓦	後期前半

出土位置	番号	種別	器種	部位	法量(cm)			文様・調整等	備考
					口径	底径	器高		
III 4-8層	568	縄文土器	深鉢	底部	-	(12.2)	(1.0)	底部葉脈痕	後期前半
III 14-8層	569	縄文土器	深鉢	底部	-	(11.0)	(9.3)	底部片痕	後期前半
III 5-8層	570	縄文土器	深鉢	底部	-	(9.4)	(3.5)		後期前半
III 15-8層	571	縄文土器	深鉢	底部	-	(7.8)	(4.1)	底部網状痕か	後期前半
III 5-8層	572	縄文土器	深鉢	底部	-	5.2	(2.1)		後期前半
III 5-9層	573	縄文土器	深鉢	底部	-	(5.8)	(6.5)		後期前半
III 9-8層	574	縄文土器	深鉢	底部	-	(7.2)	(3.4)	沈線文、縄文	期之内1
III 9-8層	575	縄文土器	深鉢	底部	-	8.8	(3.5)		後期前半
II 18-14層	576	縄文土器	深鉢	底部	-	-	(3.8)		中期後半
III 14-8層	577	縄文土器	深鉢	口縁	-	-	(6.5)	Y字状の刻み隆帯中央に円形の張付文、沈線文内に短沈線を施す、内面炭化物付着	期之内2(分析資料)

出土位置	実測番号	種別	種類	法量(cm)				備考
				長さ	幅	厚さ	重量	
III 15-8層	496	土製品	土偶	(4.5)	5.7	2.9	-	菱形の頭部中央に円形刺突による顔面表現
III 15-8層	497	土製品	土偶	(3.7)	2.3	2.7	-	足、3本の刻みにより指の表現
I 25-6層	498	土製品	土偶	(5.6)	3.3	2.9	-	足、横位沈線間に無数の爪形状文様
III 15-9層	499	土製品	土偶	(5.6)	3.5	4.8	-	足、中央に三角形状、側面に唐草状の意匠、5本の刻みによる指表現
III 10-9層	500	土製品	土偶	(4.7)	(4.8)	3.6	-	腕、各面に円形の連続刺突文、円弧状文
I 19-3層	501	土製品	土偶	(3.1)	3.0	1.8	-	胴部、乳房表現と円形刺突文
III 15-8層	502	土製品	土偶?	(5.0)	2.8	2.2	-	胴部か、表裏面に円形刺突文
III 18-15層	505	土製品	円盤状土製品	3.7	3.8	0.8	-	縄文土器体部片
II 19-14層	506	土製品	円盤状土製品	4.2	4.2	0.6	-	縄文土器体部片
II 18-14層	507	土製品	円盤状土製品	2.9	2.9	0.7	-	縄文土器体部片
II 17-12層	508	土製品	円盤状土製品	3.8	3.7	0.9	-	縄文土器体部片
II 17-12層	509	土製品	円盤状土製品	3.4	3.4	0.7	-	縄文土器体部片、沈線文
II 21-12層	510	土製品	円盤状土製品	4.1	3.9	1.2	-	縄文土器体部片、圧痕隆帯
I 14-8層	511	土製品	円盤状土製品	3.9	4.0	1.0	-	縄文土器体部片
III 4-8層	512	土製品	円盤状土製品	3.8	4.3	1.0	-	縄文土器体部片
III 9-9層	513	土製品	円盤状土製品	2.7	3.3	1.1	-	縄文土器体部片
III 15-9層	514	土製品	円盤状土製品	3.8	3.9	0.9	-	縄文土器体部片
III 15-8層	515	土製品	円盤状土製品	4.0	3.6	1.0	-	縄文土器体部片
III 15-8層	516	土製品	円盤状土製品	4.8	4.9	1.3	-	縄文土器体部片
III 15-8層	517	土製品	円盤状土製品	5.5	6.0	0.9	-	縄文土器体部片
III 20-8層	518	土製品	円盤状土製品	3.6	3.7	0.9	-	縄文土器体部片、条線文
IV 11-8層	519	土製品	円盤状土製品	3.0	3.0	0.5	-	縄文土器体部片
IV 11-8層	520	土製品	円盤状土製品	3.5	3.5	0.8	-	縄文土器体部片
IV 11-8層	521	土製品	円盤状土製品	3.7	4.0	0.7	-	縄文土器体部片
IV 11-8層	522	土製品	円盤状土製品	2.9	2.7	1.0	-	縄文土器体部片
IV 11-8層	523	土製品	円盤状土製品	3.0	3.1	0.7	-	縄文土器体部片
IV 11-8層	524	土製品	円盤状土製品	3.5	3.6	1.0	-	縄文土器体部片
I 25-6層	525	土製品	円盤状土製品	4.1	4.0	1.1	-	縄文土器体部片
II 6-3層	526	土製品	円盤状土製品	3.6	3.5	0.9	-	縄文土器体部片
I 22-3層	527	土製品	円盤状土製品	3.2	3.2	0.8	-	縄文土器体部片、沈線渦巻文
II 6-3層	528	土製品	円盤状土製品	2.5	2.7	0.7	-	縄文土器体部片

出土位置	実測番号	種別	種類	法量(cm)				備考
				長さ	幅	厚さ	重量	
D1	1	石器	石鏃	1.50	0.85	0.25	0.32	黒曜石、完形
D4	2	石器	石鏃	2.10	1.60	0.45	1.19	黒曜石、完形
P28	3	石器	石鏃	1.80	1.35	0.60	1.46	黒曜石、完形、未成品か
D3	4	石器	石鏃	(18.80)	(12.60)	(5.20)	(1033.00)	安山岩、1/3残存
I 18-3層	5	石器	石鏃	(1.95)	(1.25)	(0.15)	(0.28)	黒曜石、片舞部欠損
I 18-3層	6	石器	石鏃	(0.95)	0.90	0.15	(0.14)	黒曜石、先端欠損
I 19-3層	7	石器	石鏃	(1.80)	(1.10)	(0.20)	(0.42)	黒曜石、基部欠損
I 20-3層	8	石器	石鏃	1.70	1.40	0.35	0.76	黒曜石、完形
I 20-3層	9	石器	石鏃	(1.90)	(1.65)	0.50	(1.23)	黒曜石、片舞部欠損
I 20-3層	10	石器	石鏃	2.30	1.75	0.35	0.67	黒曜石、完形

出土位置	実測番号	種別	種類	法量(cm)				備考
				長さ	幅	厚さ	重量	
I 23-3層	11	石器	石鏃	(1.30)	1.60	(0.25)	(0.48)	黒曜石、先端欠損
II 1-3層	12	石器	石鏃	(1.40)	(1.50)	(0.25)	(0.45)	黒曜石、先端・腰部欠損
II 1-3層	13	石器	石鏃	(1.75)	1.45	0.35	(1.03)	黒曜石、先端欠損
III 2-3層	14	石器	石鏃	1.50	1.25	0.25	0.26	黒曜石、完形
III 2-3層	15	石器	石鏃	2.30	2.20	0.55	2.35	黒曜石、完形
III 2-3層	16	石器	石鏃	(1.90)	(1.30)	0.35	(0.64)	黒曜石、腰部欠損
I 24-3層	17	石器	石鏃	(1.40)	1.95	0.25	(0.92)	チャート、先端欠損
I 15-3層	18	石器	石鏃	(2.50)	1.20	0.50	(1.24)	チャート、先端欠損か
I 19-3層	19	石器	二次加工剥片	2.71	2.94	0.89	6.20	チャート
II 16-3層	20	石器	二次加工剥片	(1.39)	1.07	0.30	(0.50)	チャート、石鏃未成品か
I 14-8層	21	石器	石鏃	(2.16)	2.10	0.23	(0.70)	黒曜石、先端欠損
I 18-8層	22	石器	石鏃	(1.19)	(1.10)	0.28	(0.30)	黒曜石、片側欠損
I 19-8層	23	石器	石鏃	(2.08)	(1.71)	0.36	(0.80)	黒曜石、片側欠損
I 23-8層	24	石器	石鏃	1.83	1.49	0.39	0.60	黒曜石、完形
III 4-8層	25	石器	石鏃	1.70	1.41	0.47	1.00	黒曜石、完形
III 5-8層	26	石器	石鏃	(1.32)	0.91	0.30	(0.30)	黒曜石、先端欠損
III 5-8層	27	石器	石鏃	1.82	1.32	0.57	1.10	黒曜石、完形
III 8-7層	28	石器	石鏃	2.25	1.85	0.75	3.17	黒曜石、完形
III 10-8層	29	石器	石鏃	(1.41)	(1.18)	0.23	(0.20)	黒曜石、先端・片側欠損
III 10-8層	30	石器	石鏃	1.87	1.73	0.70	1.60	黒曜石、未成品か
III 10-8層	31	石器	石鏃	(1.53)	(1.24)	0.30	(0.40)	黒曜石、先端・腰部欠損
III 10-8層	32	石器	石鏃	(1.54)	(1.43)	0.30	(0.30)	黒曜石、完形
III 10-8層	33	石器	石鏃	1.71	1.39	0.55	1.10	黒曜石、未成品か
III 13-8層	34	石器	石鏃	1.14	1.09	0.22	0.20	黒曜石、側面一部欠損
III 14-8層	35	石器	石鏃	(1.68)	(1.39)	0.22	(0.30)	黒曜石、先端・片側欠損
III 15-8層	36	石器	石鏃	2.50	1.26	0.44	0.90	黒曜石、左側に微細剥離あり 裏面に主要剥離面を残し縁辺のみ加工 未成品ないし、石鏃の可能性あり
III 15-8層	37	石器	石鏃	(1.77)	(1.44)	0.41	(0.60)	黒曜石、全体に風化、腰部欠損
III 20-8層	38	石器	石鏃	1.17	1.11	0.20	0.20	黒曜石、完形
III 20-8層	39	石器	石鏃	(1.35)	(1.98)	0.30	(0.50)	黒曜石、欠損後に加工
III 20-8層	40	石器	石鏃	(2.44)	(1.48)	0.38	(1.00)	黒曜石、片側欠損
IV 1-8層	41	石器	石鏃	(1.70)	(1.31)	0.33	(0.50)	黒曜石、片側欠損
IV 6-8層	42	石器	石鏃	(1.63)	(0.99)	0.22	(0.20)	黒曜石、片側欠損
IV 11-8層	43	石器	石鏃	(1.30)	(1.10)	0.33	(0.30)	黒曜石、先端・片側欠損
IV 11-8層	44	石器	石鏃	(1.34)	(0.97)	0.22	(0.20)	黒曜石、片側欠損
IV 11-8層	45	石器	石鏃	(2.02)	(1.44)	0.36	(0.80)	黒曜石、先端・片側欠損
I 18-8層	46	石器	石鏃	(1.43)	(1.29)	0.27	(0.40)	チャート、先端・腰部欠損
III 10-8層	47	石器	石鏃	1.84	1.55	0.25	0.50	チャート、完形
III 19-8層	48	石器	石鏃	3.85	1.02	0.67	2.10	黒曜石、完形 縁辺に潰れ状の磨面あり
I 23-8層	49	石器	石鏃	(2.04)	0.81	0.56	(1.00)	チャート、先端欠損
I 19-8層	50	石器	石鏃	(2.84)	(2.57)	0.64	(4.30)	チャート、両側面欠損
III 9-8層	51	石器	削器	2.94	1.40	0.49	1.80	黒曜石、完形
III 10-8層	52	石器	削器	2.24	(2.09)	0.60	(2.40)	黒曜石、片側欠損
III 15-8層	53	石器	削器	2.69	2.21	0.58	2.60	黒曜石、完形
III 19-8層	54	石器	二次加工剥片	4.53	3.39	1.20	17.70	黒曜石、半分欠損、全体に風化?
IV 11-8層	55	石器	削器	2.11	2.55	1.17	4.10	黒曜石、完形
IV 11-8層	56	石器	二次加工剥片	1.42	1.18	0.28	0.30	黒曜石、完形
III 15-8層	57	石器	二次加工剥片	2.18	0.88	0.34	0.50	黒曜石、完形
III 9-8層	58	原石	原石	4.21	4.33	2.02	45.80	黒曜石
III 9-8層	59	原石	原石	4.27	5.14	2.31	36.70	黒曜石
III 9-8層	60	原石	原石	4.17	3.53	3.43	44.80	黒曜石
III 9-8層	61	原石	原石	3.80	7.18	2.71	74.20	黒曜石
III 4-9層	62	原石	原石	4.83	3.96	2.88	49.80	黒曜石
III 5-9層	63	石核	石核	3.72	3.88	2.70	36.50	黒曜石
III 10-9層	64	石器	石鏃	2.00	1.60	0.27	0.40	黒曜石、片側欠損
III 15-9層	65	石器	石鏃	(1.89)	(1.55)	0.25	(0.50)	黒曜石、片側欠損
III 15-9層	66	石器	石鏃	(2.16)	(1.49)	0.65	(2.20)	黒曜石、先端欠損 縁辺に潰れ状の磨面あり
II 22-12層	67	石器	石鏃	(1.84)	1.83	0.61	(1.90)	黒曜石、先端欠損
II 24-12層	68	石器	石鏃	(1.44)	1.34	0.34	(0.50)	黒曜石、腰部欠損
IV 1-12層	69	石器	石鏃	(1.64)	(1.18)	0.34	(0.50)	黒曜石、腰部欠損

出土位置	実測番号	種別	種類	法量 (cm)				備考
				長さ	幅	厚さ	重量	
IV1-12層	70	石器	石織	1.59	1.38	0.38	0.50	黒曜石、完形
IV3-12層	71	石器	石織	(1.87)	(1.12)	0.33	(0.40)	黒曜石、片断欠損
IV7-12層	72	石器	石織	(1.39)	1.83	0.28	(0.50)	黒曜石、先端欠損
IV7-12層	73	石器	石織	(1.39)	(1.17)	0.28	(0.30)	黒曜石、脚部欠損
IV1-12層	74	石器	石織	(1.46)	2.08	0.53	(1.60)	チャート、先端欠損
II18-14層	75	石器	石織	2.21	2.13	0.41	1.30	チャート、完形
II24-14層	76	石器	石織	1.97	1.47	0.88	1.40	黒曜石、未成品か 裏面に主要剥離面を線いれ切込み加工
II18-14層	77	石器	石織	(3.16)	1.60	0.51	(2.20)	チャート、先端・基部欠損
II24-14層	78	石器	石織	(3.21)	1.18	0.78	(3.10)	チャート、断面に顕著な磨面と横方向の擦痕あり
II17-15層	79	石器	石織	1.52	1.42	0.49	1.00	黒曜石、先端欠損
II17-15層	80	石器	石織	(3.16)	1.34	0.82	(3.10)	黒曜石、先端欠損
II23-15層	81	石器	石織	2.16	1.09	0.57	1.30	黒曜石、断面に顕著な磨面と横方向の擦痕あり
II11-16層	82	石器	石織	(1.85)	1.44	0.51	(1.20)	チャート、先端欠損
II13-17層	83	石器	削器	2.98	1.84	1.03	4.00	黒曜石、完形
IV7-18層	84	石器	石織	1.61	1.28	0.32	0.50	黒曜石、完形
IV7-18層	85	石器	石織	(1.05)	0.86	0.22	(0.10)	黒曜石、先端欠損
IV7-18層	86	石器	石織	(1.35)	1.64	0.29	(0.40)	黒曜石、先端欠損
IV7-18層	87	石器	石織	1.52	1.29	0.45	0.60	凝灰岩、完形
II13-19層	88	石器	石織	(1.99)	1.12	0.35	(0.50)	黒曜石、基部欠損
表採	89	石器	打製石斧	10.60	5.60	2.20	131.78	隕石安山岩、完形、自然面残り、磨耗あり
I20-3層	90	石器	打製石斧	(8.00)	(5.00)	(1.30)	(49.30)	流紋岩、基部欠損、裏面に自然面
I23-3層	91	石器	打製石斧	(5.20)	(5.70)	(0.90)	(36.77)	隕石安山岩、基部側欠損、磨耗あり
I23-3層	92	石器	打製石斧	(8.60)	(5.30)	(1.50)	(95.55)	硬質砂岩、基部欠損、磨耗あり
I24-3層	93	石器	打製石斧	(9.10)	(5.60)	(1.00)	(65.48)	硬質砂岩、基部・刃部欠損
II6-3層	94	石器	打製石斧	(8.60)	(7.10)	(2.20)	(174.47)	隕石安山岩、基部・刃部欠損、自然面あり
II6-3層	95	石器	打製石斧	(8.70)	(5.00)	(1.20)	(74.09)	溶結凝灰岩、基部・刃部欠損
II6-3層	96	石器	打製石斧	(8.80)	(5.60)	(2.40)	(123.13)	硬質砂岩、刃部欠損
II6-3層	97	石器	刃器?	7.30	3.80	0.90	26.74	隕石安山岩、凝灰岩、完形
II11-3層	98	石器	打製石斧	(8.20)	(6.80)	(1.60)	(110.44)	硬質砂岩、基部欠損、磨耗あり
I14-8層	99	石器	打製石斧	12.30	7.10	1.10	116.33	硬質砂岩、完形、自然面あり
I19-8層	100	石器	打製石斧	(5.00)	(6.00)	(0.90)	(23.80)	硬質砂岩、刃部破片、磨耗あり
I19-8層	101	石器	打製石斧	19.50	9.50	2.30	464.47	隕石安山岩、完形、自然面あり
I19-8層	102	石器	打製石斧	17.70	10.50	2.90	495.92	隕石安山岩、完形、自然面あり
I23-8層	103	石器	打製石斧	(13.90)	9.00	2.80	(378.16)	隕石安山岩、刃部欠損、自然面あり
I23-8層	104	石器	打製石斧	(10.10)	4.70	1.00	(61.30)	硬質砂岩、基部欠損、磨耗あり
I24-8層	105	石器	打製石斧	(7.30)	(6.50)	(1.20)	(64.66)	溶結凝灰岩、基部欠損、磨耗あり
I24-8層	106	石器	打製石斧	(10.30)	(6.50)	(2.30)	(189.24)	硬質砂岩、基部欠損
III4-8層	107	石器	打製石斧	(8.00)	(5.20)	(1.50)	(72.40)	硬質砂岩、刃部側欠損
III4-8層	108	石器	打製石斧	7.90	5.10	1.50	74.32	硬質砂岩、完形
III5-8層	109	石器	打製石斧	(10.00)	6.30	(1.40)	(116.25)	隕石安山岩、基部欠損か
III5-8層	110	石器	打製石斧	(5.80)	(4.20)	(0.90)	(28.52)	硬質砂岩、刃部・基部欠損、磨耗あり
III10-9層	111	石器	打製石斧	(7.80)	4.10	(1.10)	(47.36)	硬質砂岩、基部欠損、磨耗あり
III16-12層	112	石器	打製石斧	(15.30)	7.90	2.90	(417.70)	硬質砂岩、基部欠損
III16-12層	113	石器	打製石斧	(8.00)	5.20	(1.90)	(93.68)	溶結凝灰岩、基部欠損
III16-12層	114	石器	打製石斧	(10.80)	(5.80)	2.20	(139.84)	硬質砂岩、基部欠損
III22-12層	115	石器	打製石斧	14.80	6.30	2.00	214.49	隕石安山岩、完形、自然面あり
IV1-12層	116	石器	打製石斧	(10.40)	(4.60)	(1.40)	(82.38)	硬質砂岩、刃部欠損
IV1-12層	117	石器	打製石斧	(7.10)	(5.10)	(1.7)	(67.20)	安山岩、基部欠損、磨耗あり
IV1-12層	118	石器	打製石斧	(8.00)	(5.60)	(0.7)	(34.03)	溶結凝灰岩、刃部・基部欠損、磨耗あり
II24-13層	119	石器	打製石斧	(7.30)	(5.10)	(1.0)	(59.47)	溶結凝灰岩、基部欠損、磨耗あり
II17-13層	120	石器	打製石斧	(10.30)	(5.50)	(1.9)	(142.47)	硬質砂岩、基部欠損
II24-14層	121	石器	打製石斧	10.70	5.50	1.40	72.17	石英安山岩、完形、磨耗あり
II24-14層	122	石器	打製石斧	(6.20)	(5.80)	(1.10)	(45.88)	硬質砂岩、基部欠損
II24-14層	123	石器	打製石斧	(5.30)	(4.80)	(1.30)	(37.73)	硬質砂岩、基部欠損
II17-15層	124	石器	打製石斧	22.80	9.50	2.80	638.68	隕石安山岩、完形、自然面あり、磨耗あり
II17-15層	125	石器	打製石斧	26.40	12.50	2.40	877.39	隕石安山岩、完形
II17-15層	126	石器	打製石斧	23.10	10.80	2.70	674.72	溶結凝灰岩、完形
II17-15層	127	石器	打製石斧	14.80	8.00	2.20	354.37	硬質砂岩、完形、自然面あり
I10-3層	128	石器	刃器?	(3.60)	(2.90)	(0.8)	(9.90)	硬質砂岩、基部欠損
I23-3層	129	石器	打製石斧	7.00	8.90	1.70	120.31	硬質砂岩、完形
I18-3層	130	石器	打製石斧	4.40	5.70	0.90	25.11	硬質砂岩、完形

出土位置	実測番号	種別	種類	法量 (cm)				備考
				長さ	幅	厚さ	重量	
I 19-8層	131	石器	刃器	9.20	4.40	1.00	47.87	硬質砂岩、完形
III 5-9層	132	石器	刃器	5.30	6.90	1.30	42.41	灰色チャート、完形、自然面あり
II 23-14層	133	石器	刃器	6.60	7.60	2.10	78.80	硬質砂岩、完形
II 18-14層	134	石器	刃器	4.10	7.70	0.90	29.30	硬質砂岩、完形、自然面あり
II 11-16層	135	石器	刃器	7.50	11.30	2.00	158.96	硬質砂岩、完形、自然面あり
表採	136	石器	磨製石斧	(12.40)	6.30	(2.90)	(347.37)	砂紋岩、刃部・基部欠損
I 24-3層	137	石器	磨製石斧	(11.50)	(5.10)	2.70	(269.76)	緑色凝灰岩、刃部欠損
I 19-3層	138	石器	磨製石斧	(8.00)	(6.90)	(4.10)	(370.85)	緑色凝灰岩、刃部欠損
I 20-8層	139	石器	磨製石斧	(4.60)	(1.70)	(0.70)	(5.71)	石材不明、石斧の体部破片か
IV 6-8層	140	石器	磨製石斧	(9.60)	(5.70)	(2.60)	(193.25)	砂紋岩、刃部・基部欠損
II 18-14層	141	石器	磨製石斧	(4.50)	(5.20)	(2.00)	(68.25)	緑色凝灰岩、基部欠損、表面剥落
I 19-3層	142	石製品	石棒	(12.40)	(3.50)	(2.00)	(122.72)	ホルンフェルス、基部欠損
III 15-8層	143	石製品	石棒	(6.70)	(2.80)	(1.90)	(55.63)	緑色片岩、先端・基部欠損
III 5-8層	144	石製品	石棒	(7.80)	(2.80)	(2.30)	(78.53)	緑色片岩、先端・基部欠損
III 10-9層	145	石製品	石棒	(5.70)	(4.50)	(3.00)	(125.05)	赤鉄片岩、先端部破片
II 11-3層	146	石器	敲石	(6.50)	(5.50)	(3.70)	(169.52)	礫石安山岩、片側欠損
II 13-17層	147	石器	敲石	11.60	8.60	5.00	620.43	礫石安山岩、欠損
III 9-8層	148	石器	石皿	(17.00)	(21.40)	(9.60)	(3360.00)	礫石安山岩、片側欠損
II 11-3層	149	石器	石砦	4.30	1.75	0.52	2.6	圧質頁岩

第V章 自然科学分析

はじめに

柳坂遺跡(長野県佐久市布庭柳坂に所在)では、縄文時代中期後半から後期を中心とした遺構や遺物が検出されており、この中に炭化物や焼土を伴う屋外炉、炭化物や骨片を含む土層も確認されている。今回の自然科学分析では、遺構の年代観を得るために放射性炭素年代測定を、また内容物などの確認に微細物分析と植物珪酸体分析を実施する。

I. 年代観について

1. 試料

放射性炭素年代測定を実施する試料は、D4、D9、D10、19層から出土した炭化材4点(試料番号1~4)、Ⅲ14グリッド8層出土土器付着炭化物の1点(試料番号5)、合計5点である。なお、試料番号1~4は、抽出された土塊試料より炭化物および炭化物を分離、抽出して測定試料とした。試料番号5は、出土した土器に付着する炭化物を分離した炭化物粒子を測定試料とした。なお、試料の詳細は、結果とともに表示する。

2. 分析方法

分離した炭化材片については、表面に付着した不純物を削り落とす。測定試料とした炭化材および炭化物粒子は、塩酸(HCl)により炭酸塩など酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム(NaOH)により高植酸などアルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩など酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理 AAA: Acid Alkali Acid)。試料が脆弱でアルカリ濃度を薄くした試料はAaAと記す。試料を燃焼して二酸化炭素を発生させ、二酸化炭素を精製する。二酸化炭素は、鉄を触媒とし水素で還元する還元してグラファイトにする。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をカソードに詰めて測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置を用いて、14Cの計数、13C濃度(13C/12C)、14C濃度(14C/12C)を測定する。AMS測定時に、バックグラウンド試料や標準試料(HOX-II、IAEA-C6など)の測定も行う。δ13Cは試料炭素の13C濃度(13C/12C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表したものである。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma: 68.2%)に相当する年代である。

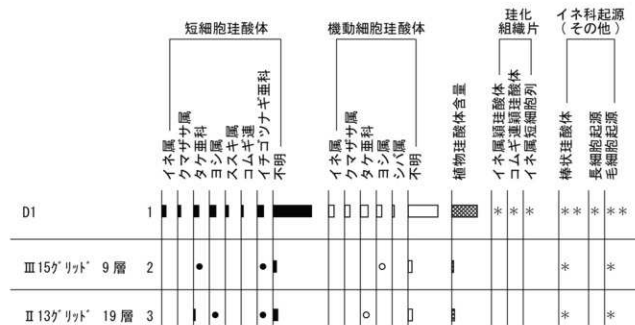
測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う(Stuiver & Polach 1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウェアは、Oxcal4.3(Bronk, 2009)、較正曲線はIntcal13(Reimer et al., 2013)である。ただし、試料番号1は測定値が1950年以降となったため、較正曲線として北半球中緯度地域の1950年以降の14C濃度を示すデータセットNHZ2(Hua et al., 2013)を用いる。

3. 結果

放射性炭素年代測定と得られた暦年較正の結果を表1に示す。同位体補正を行った年代値は、試料番号1(D4)がModern(F14C: 1.4051 ± 0.00)、試料番号2(D9)が3400 ± 20BP、試料番号3(D10)が940 ± 20BP、試料番号4(19層)が5970 ± 25BP、試料番号5(8層)が3700 ± 20BPである。

暦年較正は、大気中の14C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、後に訂正された半減期(14Cの半減期5730 ± 40年)を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正用データセットは、Intcal13(Reimer et al., 2013)を用いる。

誤差 2σ の値をみると、試料番号 1 (D4) が calAD1962 ~ 1975、試料番号 2 (D9) が calBP3696 ~ 3586、試料番号 3 (D10) が calBP920 ~ 795、calBP6883 ~ 6738、試料番号 5 (8 層) が calBP4144 ~ 3978 である。今回の結果については、調査対象とした遺構や遺物の層位や検出状況などの発掘調査所見を含めて検討する必要がある。



II. 遺構・包含層の内容物

1. 試料

分析試料は、D1 から採取された試料番号 1、III 15 グリッド 9 層から採取された試料番号 2、II 13 グリッド 19 層から採取された試料番号 3 の合計 3 点である。分析時の観察では、試料番号 1、2 では、何らかの動物遺存体である骨片の含有が目立ち、炭化物も認められた。試料番号 3 は試料番号 1、2 と異なり、骨片が認められず、焼土と炭化物が混入する。

2. 分析方法

(1) 微細物分析

各試料について、次のような手順で分析を進める。

まず、試料の重量を測定した後、肉眼観察して骨片を確認して拾い上げる。抽出した骨片は形態的特徴から種類や部位を同定し、併せて重量を測定する。

次に、骨片を回収した残試料について重量を測定した後、肉眼で確認できる炭化物を分離する。続いて、この残液を常温で乾燥させ、水を満たした容器内に投入する。容器を傾けて、炭化物混じりの水を目開き 0.5mm の篩に通して、炭化物を回収する。残土に注水して軽く攪拌した後篩を通す行程を、炭化物が浮かなくなるまで繰り返す (約 20 回)。さらに残土を同径の篩に通して、水洗する。水洗後に水に浮いた試料 (炭化物主体) と水に沈んだ試料 (岩片主体) を、それぞれ目開き 4mm、2mm、1mm、0.5mm の篩に通して、粒径別に常温で乾燥させる。

炭化物主体と岩片主体を、大きな粒径から順に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、種実遺体や炭化材 (主に 4mm 以上) を分離する。先に分離した炭化物とともに双眼実体顕微鏡下で観察し、現生標本や石川 (1994)、谷城 (2007)、中山ほか (2010)、鈴木ほか (2018) などを参考に同定を実施する。

結果は、部位・状態別の個数と重量の一覧表で示し、各分類群の写真を添付する。また一部の炭化種実の大きさをデジタルノギスで計測する。分析後は、種実遺体を分類群別に容器に入れて保管する。また岩片主体について含まれる砂粒大の岩片、テフラの本質物質であるスコリアや軽石、また土器片の有無を実体顕微鏡下で確認する。これらが認められれば、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。分離した骨片や種実遺体、岩片については種類や重量、相対的な量比を一覧表に示す。

(2) 植物珪酸体分析

植物体の葉や茎に存在する植物珪酸体は、珪化細胞列などの組織構造を呈している。植物体が土壌中に取り込まれた後は、ほとんどが土壌化や攪乱などの影響によって分離し単体となる。しかし、植物遺体や植物が燃えた後の灰には組織構造が珪化組織片などの形で残されている場合が多い(例えば、パリオ・サーヴェイ株式会社, 1993)。そのため、珪化組織片の産状により当時の構築材や燃料材などに利用された種類が明らかになると考えられる。

各試料を肉眼観察したところ、明瞭な植物遺体や灰は認められなかった。そのため、以下の方法で植物遺体や灰に由来する珪化組織片や植物珪酸体の濃集・分離を試みる。各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム, 比重 2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プレパラートで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)や葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)およびこれらを含む珪化組織片を、近藤(2010)の分類を参考に同定する。分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し、乾土 1g あたりの植物珪酸体含量(同定した数を乾土 1g あたりの個数に換算)を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、100個/g未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は10の位で丸め(100単位にする)、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。また、各分類群の植物珪酸体含量を図示する。

3. 結果

(1) 微細物分析

3試料を通じて、哺乳綱、炭化種実(オニグルミ、ブナ科(クリ?)、トチノキ)、炭化材、非炭化種実(イヌノハナヒゲ類、マツカサススキ類、スベリヒユ、イヌコウジュ属)、非炭化植物片、黒曜石、スコリア、土器片?が検出される(表2)。検出された炭化種実の保存状態は、全体的に不良である。以下に試料別の検出状況を記す。

・試料番号1(D1)

重量 174.8g より、骨片(14個)1.8g、炭化種実(29個)0.02g、炭化材主体0.06g(最大 4.37mm)、非炭化植物片0.01g、非炭化種実(1個)0.01g未満が検出される。

骨片は、長辺 4~12mm 程度で、表面と内部が共に白色や黒色を呈し、表面に細かひび割れを伴う変性が見られることから焼骨と判断される。緻密質が厚いことから哺乳綱の骨と判定できるものの、特徴的な形質が残らないため種類・部位ともに不明である。なお、4-2mm 両分に骨片も少量が認められる。炭化種実(29個)は、落葉広葉樹のオニグルミ核(11個)0.02g、オニグルミ?核?(11個)0.01g未満、ブナ科果実(クリ? 1個)0.01g未満、トチノキ種子(5個)0.01g未満、堅果類(1個)0.01g未満に同定される。非炭化種実(1個)は、草本で湿生植物のイヌノハナヒゲ類果実に同定される。その他では、4mm には岩片からなる礫および土器の可能性を持つ赤色を呈する破片が認められる。この破片は円磨を受けており、文様などは認められない。4-2mm には岩片主体の砂礫が多量に含まれる。その他に、黒曜石やスコリアが極めて微量に伴う。スコリアは黒色で発泡やや不良である。4-2mm の礫には緑色片岩の礫が少量、チャートの礫が微量混じる。2-1mm および 1-0.5mm は、岩片主体の砂分が多量に含まれる。

表2. 微細物分析結果

分類群	部位・状態・粒径	単位	試料番号						備考
			I		II		III		
			01	15	9層	19層	9層	19層	
動物遺存体			(個)	(g)	(個)	(g)	(個)	(g)	
哺乳類	不明(焼熱)		14	1.8	23	11.1	-	-	いずれも種類不明
炭化種実									
オニグルミ	核	破片	11	0.02	1	0.01	-	-	最大径: 01: 6.53mm/9層: 3.61mm
オニグルミ?	核?	破片	11	<0.01	-	-	-	-	破断片
ブナ科(クワ?)	果実	破片	1	<0.01	-	-	-	-	残存径 1.96mm, 外果皮断面楕円状
トチノキ	種子	破片	5	<0.01	-	-	-	-	最大径 3.29mm
堅果類		破片	1	<0.01	-	-	-	-	残存径 2.20mm, オニグルミかトチノキの可能性
炭化材			+	0.06	+	0.01	+	5.26	最大径: 試料番号1: 4.27mm, 試料番号2: 2.04mm, 試料番号3: 14.11mm
炭化材主体(数量g)	>4mm		-	-	-	-	+	2.99	
	4-2mm		-	-	-	-	+	2.28	
	2-1mm		+	0.03	-	-	+	2.04	
	1-0.5mm		+	0.03	+	0.01	+	0.56	
非炭化種物片(数量g)			+	0.01	-	-	+	<0.01	後代の遺入の可能性
非炭化種実(個)									
イヌノハナヒゲ類	果実	完形	1	<0.01	-	-	-	-	
マツカサスキ類	果実	完形	-	-	-	-	1	<0.01	花被片残存
スベリヒユ	種子	完形	-	-	1	<0.01	-	-	
イヌコウジュ属	果実	完形	-	-	-	-	1	<0.01	長さ1.27mm
岩片									
黒曜石			*	-	-	-	*	-	
スコリア			*	-	-	-	-	-	黒色、発泡やや不良
土器片?			*	10.49	-	-	-	-	赤色を呈する圓形物, 全体に円筒, 文様などは認められない。
岩片主体(数量g)	4mm		*	14.17	*	3.07	*	3.46	岩片の礫は試料番号1と3で多量, 試料番号2で中量, 砂礫は火山岩類・火山砕屑岩類に由来, 各試料の砂礫は火山岩類・火山砕屑岩類に由来, 各試料で岩片主体の砂礫が多量, 試料番号1でチャートの礫が微量, 緑色片岩の礫が少量混じる。
	4-2mm		*	4.89	*	0.37	*	2.26	試料番号2では石英片が混じる。
	2-1mm		*	3.84	*	0.60	*	3.58	各試料で岩片主体の砂が多量, 試料番号2では石英片が混じる。
	1-0.5mm		*	5.16	*	0.84	*	6.45	試料番号1と2で骨粉含む, 各試料で岩片主体の砂が多量, 試料番号2で骨粉含む。
分析量(数量g)			-	174.8	-	34.1	-	360.0	

—:未検出, +:少数, *:微量 (<5%)

土器片?: 土器片の可能性あり

・ 試料番号2 (III 15 グリッド 9層)

重量 34.1g より、骨片 (23 個) 11.1g、炭化種実 (1 個) 0.01g、炭化材主体 0.01g (最大 2.04mm)、非炭化種実 (1 個) 0.01g 未満が検出される。

骨片は、長辺 10 ~ 25mm 程度で試料番号 1 と同様な色調や変性が見られ、焼骨と判断される。緻密質が厚いことから哺乳類の骨と判定できるが、特徴的な部位が認められないことから種類の特定には至らない。4mm や 1-0.5mm の画分にも骨片が見られるが種類の特定には至らない。

炭化種実はオニグルミ核、非炭化種実は草本で中生植物のスベリヒユ種子に、それぞれ同定される。その他では、4mm に岩片から成る礫が中量、4-2mm には岩片主体の砂礫、2-1mm には岩片主体の砂が多量に含まれる。1-0.5mm は岩片主体の砂が多量に含まれる。

・試料番号3(Ⅱ13グリッド19層)

重量360.0gより、炭化材5.26g(最大14.11mm)、炭化材主体2.59g、非炭化植物片0.01g未満、非炭化種実(2個)0.01g未満が検出される。非炭化種実は、草本で湿生植物のマツカサススキ類(果実)、中生植物のイヌコウジュ属(果実)に同定される。

その他では、4mmに岩片から成る礫が多量に含まれる。4-2mmには岩片主体の砂礫が多量に含まれ、黒曜石も極めて微量に伴う。2-1mmおよび1-0.5mmには、岩片主体の砂分が多量含まれる。

以下、炭化種実の形態的特徴などを記す。なお、学名は佐竹ほか編(1989a, b)に依拠する。

・オニグルミ(*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Miyabe et Kudo) Kitamura)
クルミ科クルミ属

検出された核は破片で、最大6.53mmを測る(試料番号1)。完形核は径2.5~4cmの広卵形で頂部が尖り、1本の明瞭な縦の縫合線がある。核は硬く緻密で、表面には縦方向の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る2つの大きな窪みと隔壁がある。なお、オニグルミと考えられる微細片11個は明瞭な部位が認められず、他と区分するために疑問符を付している。

・ブナ科(Fagaceae)

検出された核実果は破片で、残存長1.96mmを測る。果皮は少なくとも2層が確認される。外果皮表面は、やや平滑で浅く、微細な縦筋があり、断面は櫛状。内果皮内面は粗面。クリ(*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)と考えられるが、クヌギ(*Quercus acutissima* Carruthers)との明瞭な区別が困難な微細片のためブナ科に止めている。

・トチノキ(*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

検出された種子は破片で、最大3.29mmを測る。完形種子は径2.5~4cmの偏球体。種皮表面は、ほぼ赤道面を蛇行して一周する曲線を境に、不規則な流理状模様がある光沢の強い上部と、粗面で光沢の無い下部の着点に分かれる。種皮は薄く硬く、不規則に割れる。

なお、オニグルミ核とトチノキ種子下部との区別が困難な径2.20mmの微細片を堅果類としている。

(2) 植物珪酸体分析

結果を表3と図1に示す。

珪化組織片は試料番号1(D1)でのみ認められ、栽培植物であるイネ属の糠(穎)に形成される穎珪酸体や葉部の短細胞列、栽培種を含む分類群であるコムギ連の穎珪酸体が検出される。ただし、その産出は僅かである。

単体の植物珪酸体は各試料から検出されるものの、産状には違いが見られる。

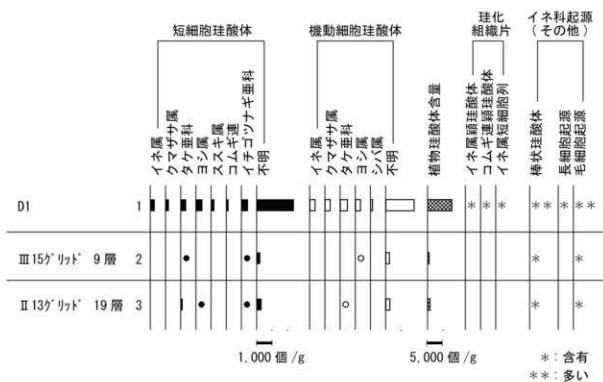
表3. 植物珪酸体含量

分類群	D1	(個/g)	
		Ⅲ15 グリッド 9層	Ⅱ13 グリッド 19層
	1	2	3
イネ科葉部短細胞珪酸体			
イネ属	300	-	-
クマザサ属	200	-	-
タケ亜科	300	<100	100
ヨシ属	400	-	<100
ススキ属	200	-	-
コムギ連	100	-	-
イチゴツナギ亜科	400	<100	<100
不明	2,400	200	300
イネ科葉身機動細胞珪酸体			
イネ属	300	-	-
クマザサ属	300	-	-
タケ亜科	500	-	<100
ヨシ属	300	<100	-
シバ属	100	-	-
不明	1,900	300	300
合計			
イネ科葉部短細胞珪酸体	4,500	300	600
イネ科葉身機動細胞珪酸体	3,600	300	300
植物珪酸体含量	8,100	600	900
珪化組織片			
イネ属穎珪酸体	*	-	-
コムギ連穎珪酸体	*	-	-
イネ属短細胞列	*	-	-
イネ科起源(その他)			
棒状珪酸体	**	*	*
長細胞起源	*	-	-
毛細胞起源	**	*	*

注1)含量は、10の位で丸めている(100単位にする)

注2)合計は各分類群の丸めない数字を合計した後1に丸めている

<100:100個/g未満、-:未検出、*:含有、**:多い



乾土 1g あたりの個数で示す。●○は 100 個未満を定性的に示す。

図 1. 植物珪酸体含量と珪化組織片の産状

試料番号 1 (D1) では、植物珪酸体含量が他の試料よりも多く、8,100 個/g である。検出される分類群は、珪化組織片でも見られたイネ属やコムギ連、その他にクマザサ属やメダケ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科、シバ属などである。

試料番号 2 (III 15 グリッド 9 層) や 3 (II 13 グリッド 19 層) の植物珪酸体含量は 600 個/g 程度あるいは 900 個/g 程度である。タケ亜科やヨシ属などが僅かに認められるに過ぎない。なお、各試料からイネ科起源 (棒状珪酸体、長細胞起源、毛細胞起源) も検出されるものの、由来となった分類群を特定することは困難である。

4. 考察

D1 と III 15 グリッド 9 層から抽出した骨片は、哺乳綱の骨と判断できるが、種類や部位について詳細な検討を行うことができない。色調や変性の様子から被熱の影響がうかがえ、焼骨であると判断できる。狩猟や調理のために生じる傷および解体痕が見られなかったが、周辺で動物質の食糧資源などとして狩猟された後で破棄されたと考えられる。

また、種実、炭化材の検出状況を見ると、D1、III 15 グリッド 9 層では、炭化した種実が検出される。しかし、II 13 グリッド 19 層では、炭化物、炭化材、非炭化種実が確認される程度である。炭化種実では、落葉広葉樹で高木になる河畔林要素のオニグルミやトチノキ、山地～丘陵に生育するブナ科 (クリ?) が確認され、堅果類から成る組成を示した。これらは、当時の遺跡周辺に存在した落葉広葉樹林に生育していたと考えられる。それぞれの種類をみると、オニグルミは果実 (核) 内部の子葉が食用可能、ブナ科がクリである場合には同様に子葉が食用可能、トチノキはあく抜きを施すことで種子内部の子葉が食用可能となる。これらの堅果類は古くから利用され、遺跡出土例も多い (渡辺, 1975 など)。

今回の堅果類も、遺跡周辺の落葉樹林から持ち込まれ、利用された植物質食料と示唆される。また、食用にならない非可食部の破片のみであることから、可食部の子葉を取り出した後に廃棄された食料残滓と考えられる。また炭化していることから火を受けたとみなされ、可食部を取り出した後で燃料材として利用された可能性もある。なお、非炭化植物片と非炭化種実、保存状態が極めて良好であることから、後代の混入と判断されるため、考察より除外している。

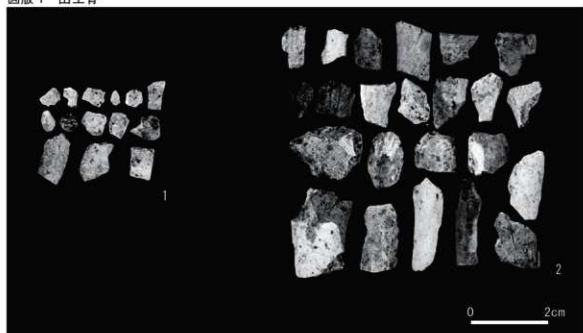
その他、草本質の植物質食料としては、D1で珪化組織片や植物珪酸体の産出したイネ属が挙げられる。初めの珪酸体や葉部の短細胞列が認められたことから、周辺で稲作が行われ、コメを収穫した後で得られる籾殻や稲藁が調査区内に持ち込まれていた可能性が考えられる。また検出されたコムギ連の珪酸体が栽培種に由来するものであれば、周辺での栽培も想定される。なお、他に検出された植物珪酸体の分類群から、クマザサ属やメダケ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亜科、シバ属などのイネ科草本類が生育していたと考えられる。なお、Ⅲ 15グリッド 9層やⅡ 13グリッド 19層では植物珪酸体含量が僅かであり、栽培植物やイネ科草本類について検討することが難しい。

今回の分析結果をみると、D1は包含層と大きく異なった傾向となり、可食植物や焼骨片などが確認されることから、人為的に食物残滓が破棄した廃棄坑のような役割を持っていた可能性がある。ただし、栽培ないし栽培の可能性のある植物が検出される点を考慮すると、後代の攪乱の影響、あるいは上位からの落ち込みなどの可能性もあり、その時代性に関しては検討を要する。また、包含層でみるとⅢ 15グリッド 9層とⅡ 13グリッド 19層で検出状況が異なる。このような違いは、当時の利用状況の違いなどを反映している可能性がある。

引用文献

- Bronk R C, 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon*, 51, 337-360.
- Hua Q, Barbetti M, Rakowski Z A, 2013, Atmospheric Radiocarbon for the Period 1950-2010, *Radiocarbon*, 55, 2059-2072.
- 石川茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.
- 近藤隼三, 2010, プラント・オパール図譜. 北海道大学出版会, 387p.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2010, 日本植物種子図鑑 (2010年改訂版), 東北大学出版会, 678p.
- パリス・サーヴェイ株式会社, 1993, 自然科学分析からみた人々の生活 (1), 慶應義塾藤沢校地理蔵文化財調査室編『湘南藤沢キャンパス内遺跡 第1巻 総論』, 慶應義塾, 347-370.
- Reimer PJ, Bard E, Bayliss A, Beck JW, Blackwell PG, Bronk Ramsey C, Buck CE, Cheng H, Edwards RL, Friedrich M, Grootes PM, Guilderson TP, Hafflidas H, Hajdas I, Hatté C, Heaton TJ, Hoffmann DL, Hogg AG, Hughen KA, Kaiser KF, Kromer B, Manning SW, Niu M, Reimer RW, Richards DA, Scott EM, Southon JR, Staff RA, Turney CSM, van der Plicht J., 2013, IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon*, 55, 1869-1887.
- 佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫編, 1989a, 日本の野生植物 木本Ⅰ, 平凡社, 321p.
- 佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫編, 1989b, 日本の野生植物 木本Ⅱ, 平凡社, 305p.
- Stuiver M & Polach A H, 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data, *Radiocarbon*, 19, 355-363.
- 鈴木庸夫・高橋 冬・安延尚文, 2018, 草木の種子と果実—形態や大きさが一目でわかる 734種 増補改訂—, ネイチャーウォッチングガイドブック, 誠文堂新光社, 303p.
- 谷城勝弘, 2007, カヤツリガサ科入門図鑑. 全国農村教育協会, 247p.
- 渡辺 誠, 1975, 縄文時代の植物食, 雄山閣出版, 187p.

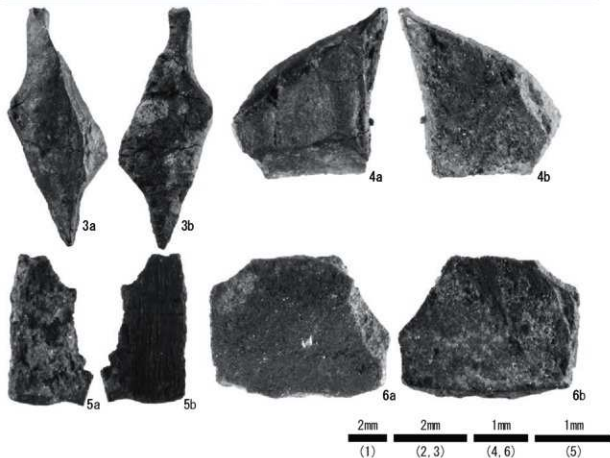
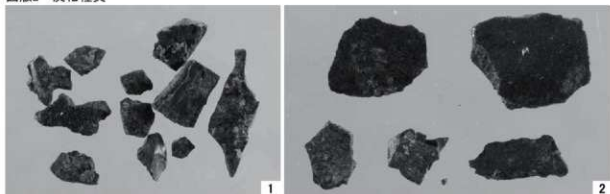
図版1 出土骨



1. 哺乳綱 焼骨片(D1:1)

2. 哺乳綱 焼骨片(Ⅲ15グリッド9層:2)

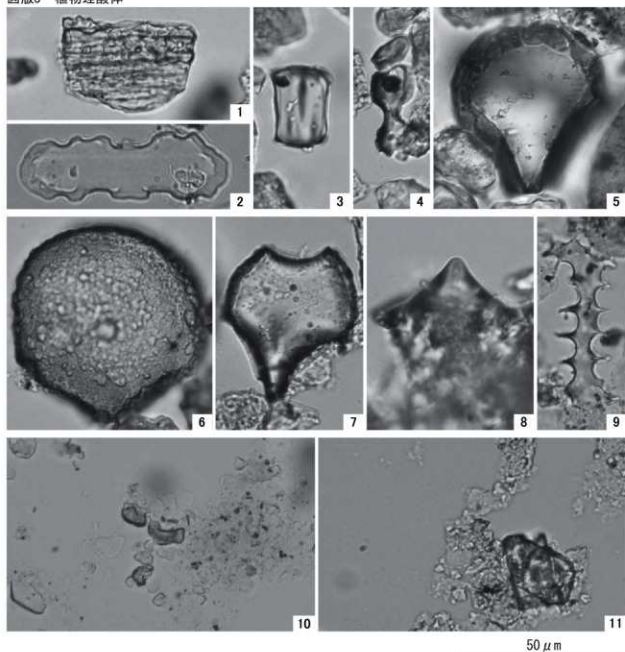
図版2 炭化種実



1. オニグルミ 核 (D1:1)
3. オニグルミ 核 (D1:1)
5. ブナ科(クリ?) 果実 (D1:1)

2. トチノキ 種子 (D1:1)
4. オニグルミ 核 (Ⅲ15グリッド9層:2)
6. トチノキ 種子 (D1:1)

図版3 植物珪酸体



- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 1. イネ属短細胞 (D1:1) | 2. コムギ連短細胞珪酸体 (D1:1) |
| 3. クマザサ属短細胞珪酸体 (D1:1) | 4. ススキ属短細胞珪酸体 (D1:1) |
| 5. イネ属機動細胞珪酸体 (D1:1) | 6. ヨシ属機動細胞珪酸体 (D1:1) |
| 7. シノバ属機動細胞珪酸体 (D1:1) | 8. イネ属穎珪酸体 (D1:1) |
| 9. コムギ連穎珪酸体 (D1:1) | 10. 状況 (鋳物粒子が散在) (Ⅱ13グリッド19層:3) |
| 11. 状況 (鋳物粒子が散在) (Ⅲ15グリッド9層:2) | |



調査区北側完掘状況（西から）



調査区南側完掘状況（西から）



調査区北側完掘状況（東から）



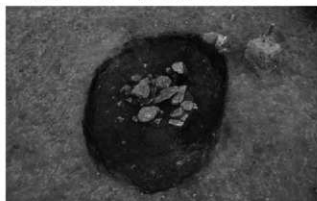
調査区南側 河川跡完掘状況（北から）



調査区南西部 15層上面検出状況(東から)



調査区南西部 21層上面検出状況(東から)



D1号土坑 礫検出状況(南から)



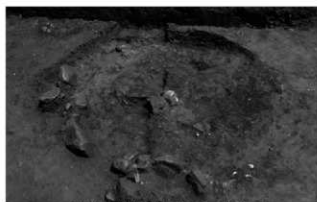
D1号土坑 完掘状況(南から)



D3号土坑 遺物出土状況(南から)



D3号土坑 完掘状況(南から)



D4号土坑 炭化物検出状況(南から)



D4号土坑 完掘状況(東から)



D5号土坑 完掘状況(南から)



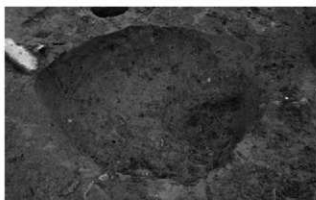
D6号土坑 完掘状況(東から)



D7号土坑 完掘状況(東から)



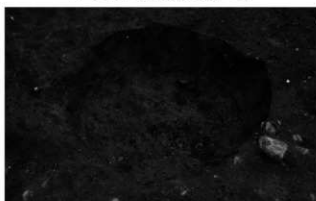
D8号土坑 土層断面(東から)



D9号土坑 完掘状況(東から)



P24 土層断面(東から)



P38 完掘状況(北から)



P39 土層断面(南から)



D10 号土坑 完掘状況 (西から)



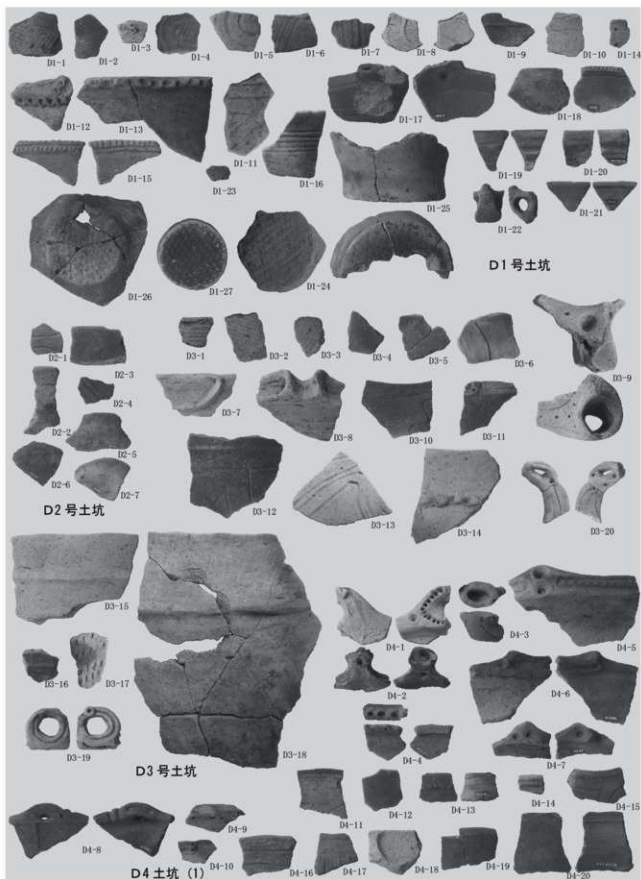
Ⅲ 20 グリッド土器出土状況 (北から)

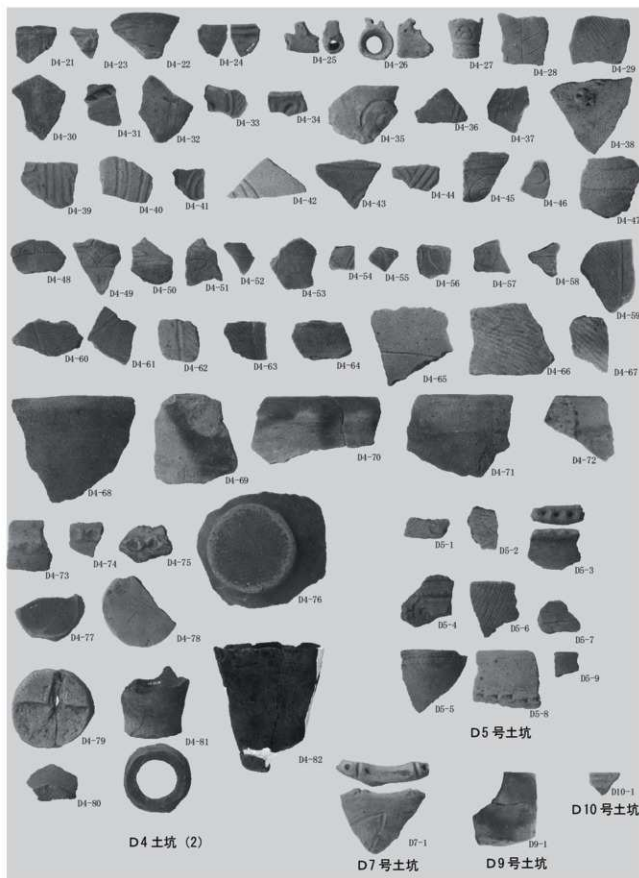


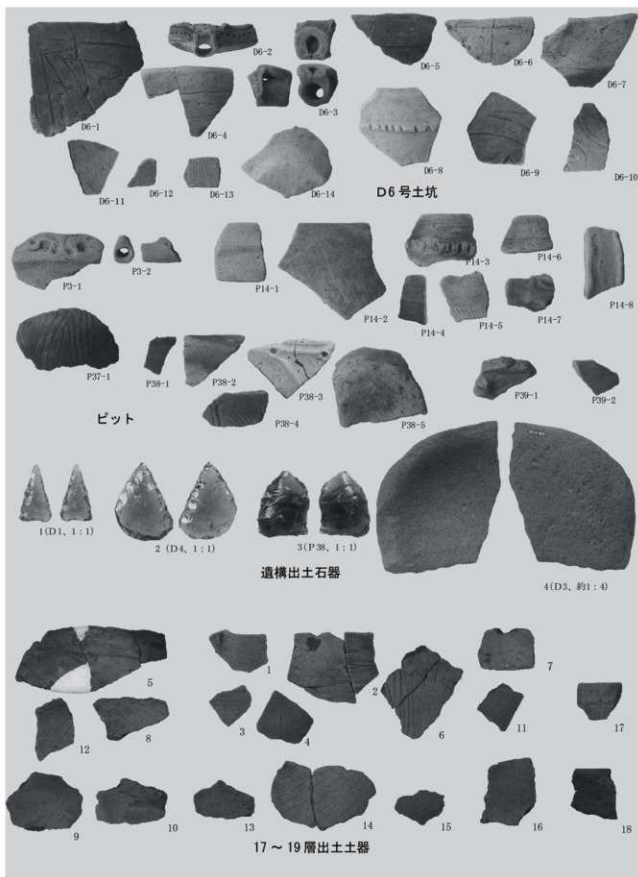
Ⅲ 9・Ⅲ 10 グリッド黒曜石出土状況 (東から)

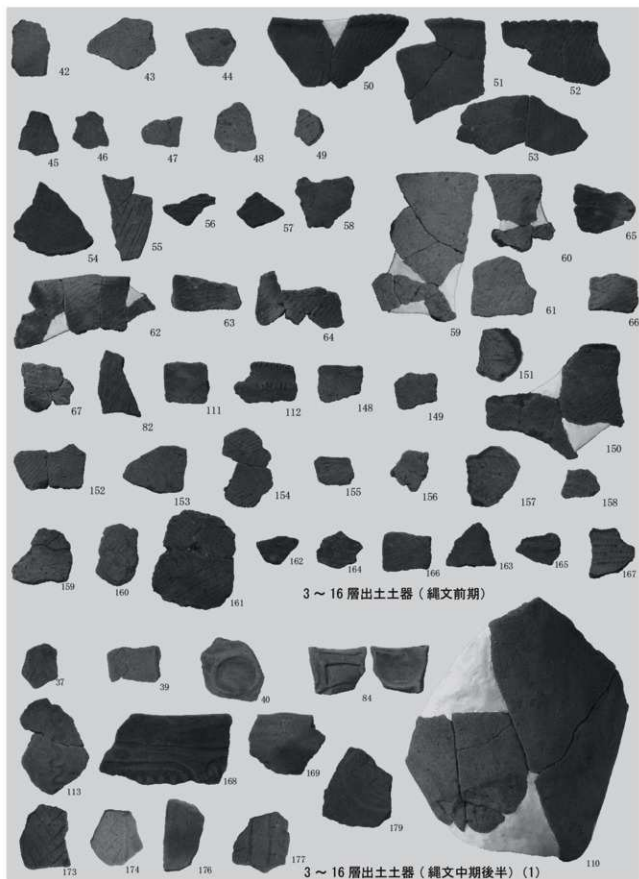


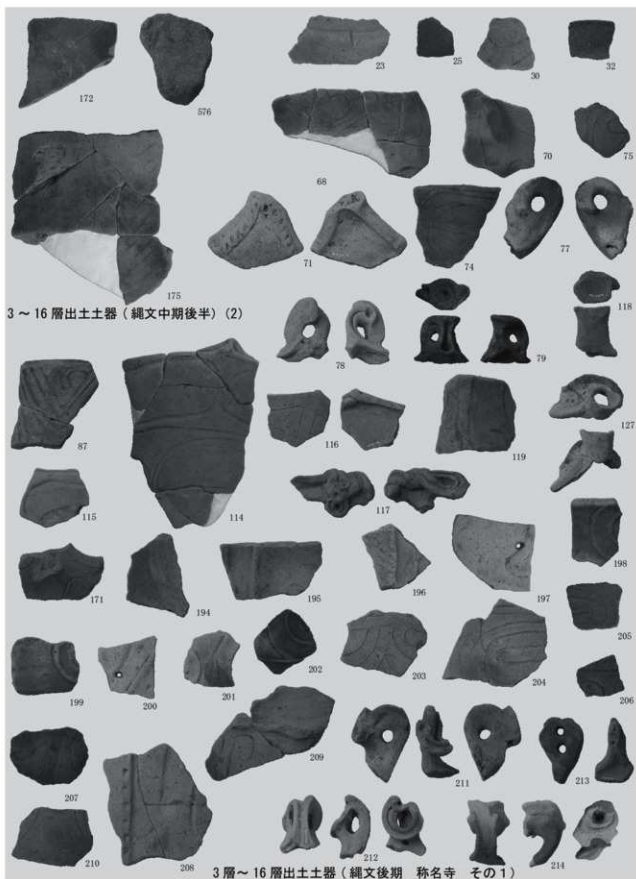
Ⅱ 17 グリッド石器 No. 124・125 出土状況 (東から)

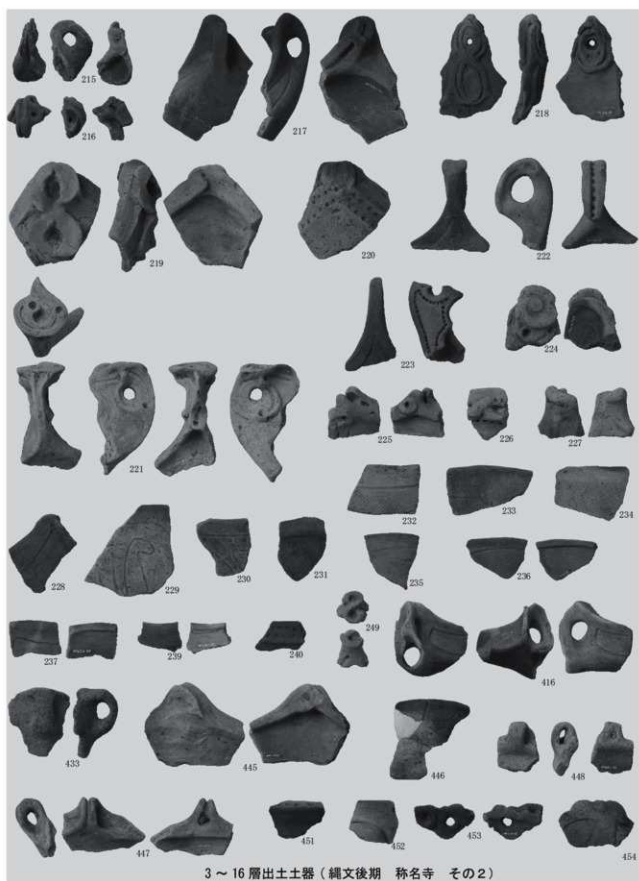


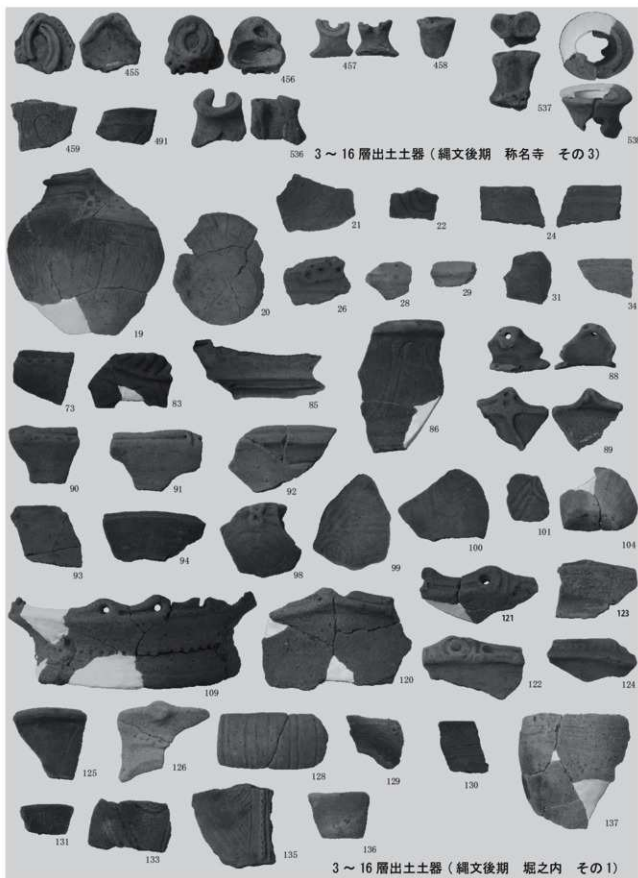


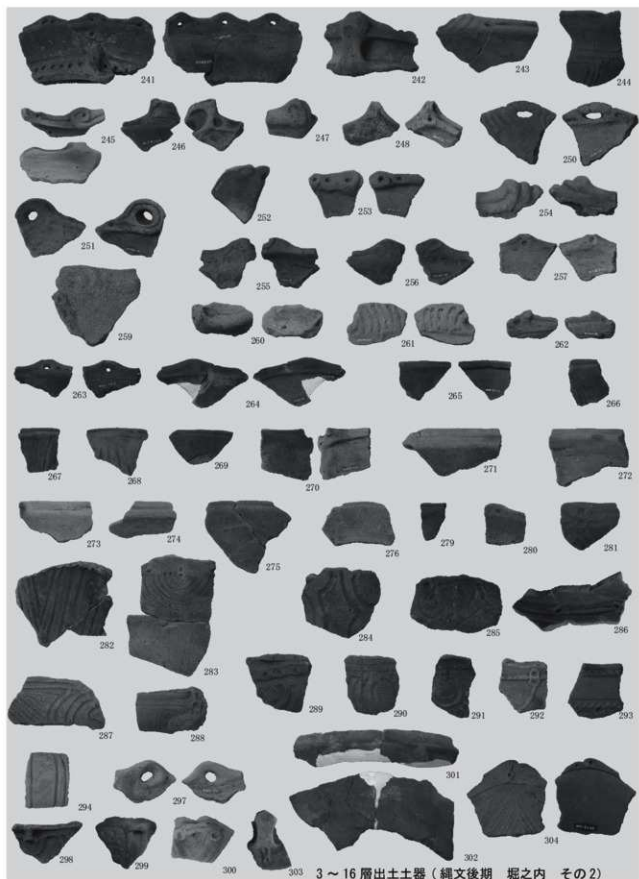






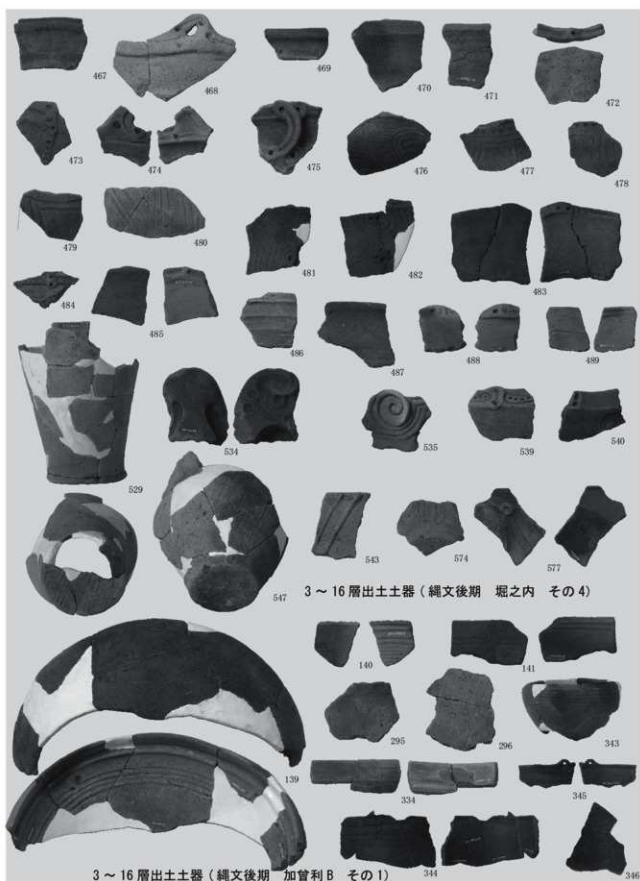


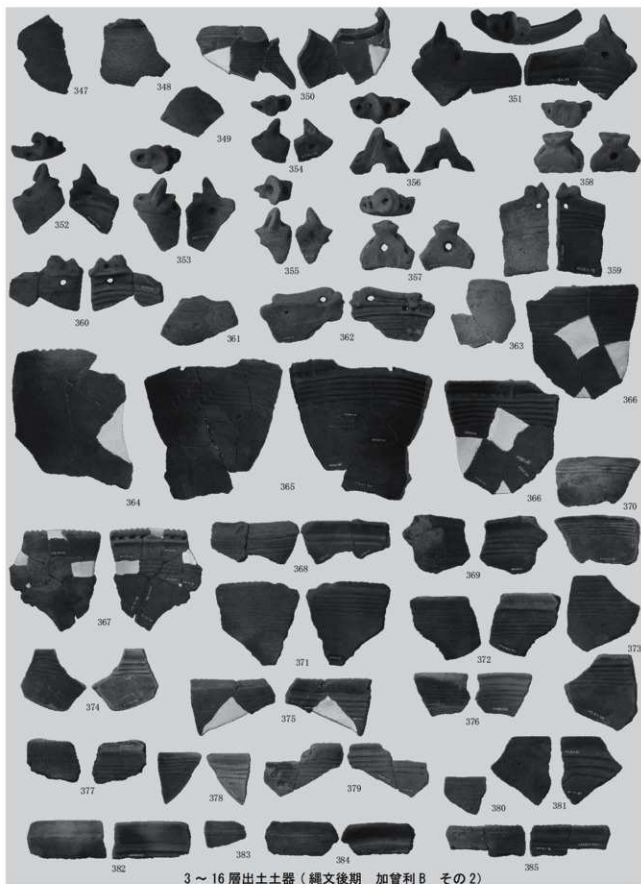


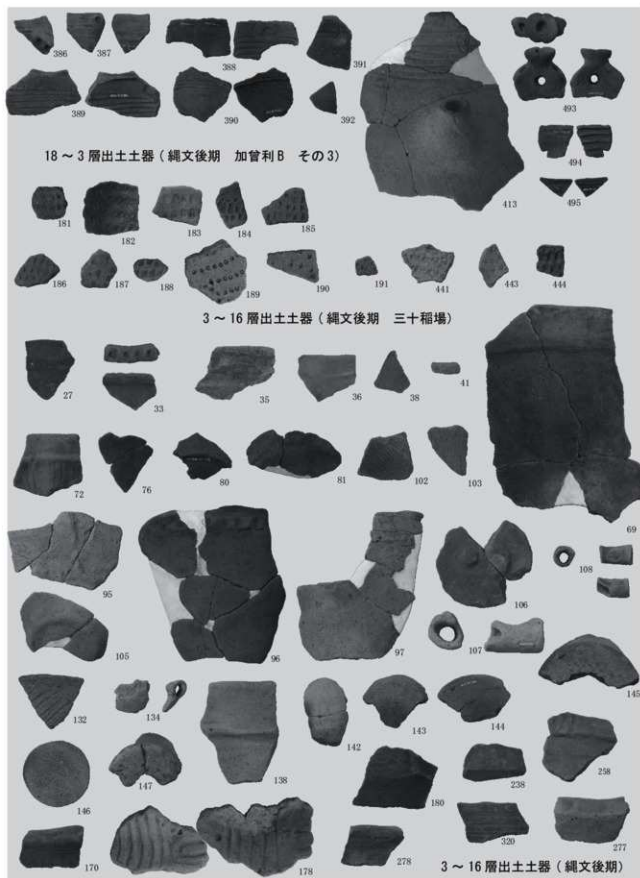




3 ~ 16 層出土土器 (縄文後期 堀之内 その3)



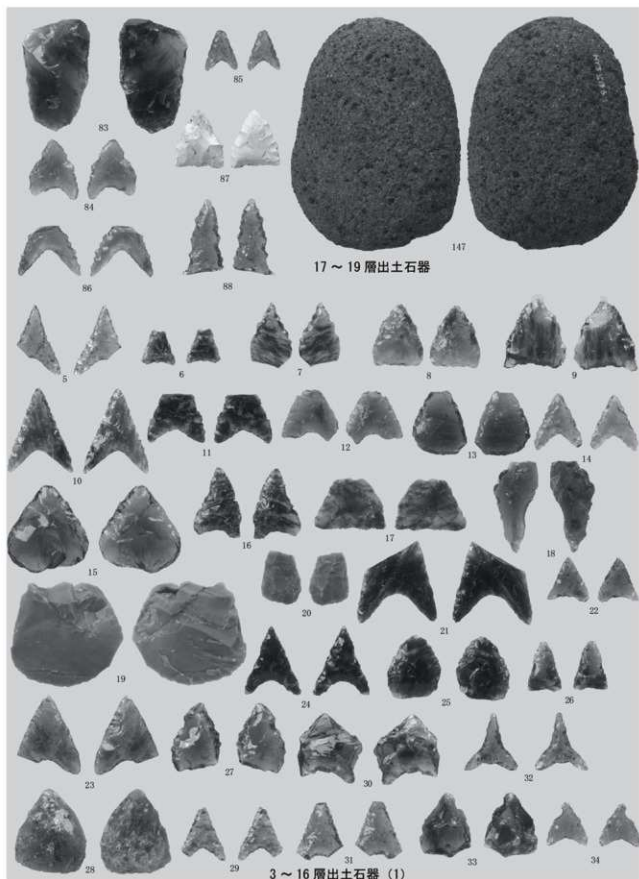


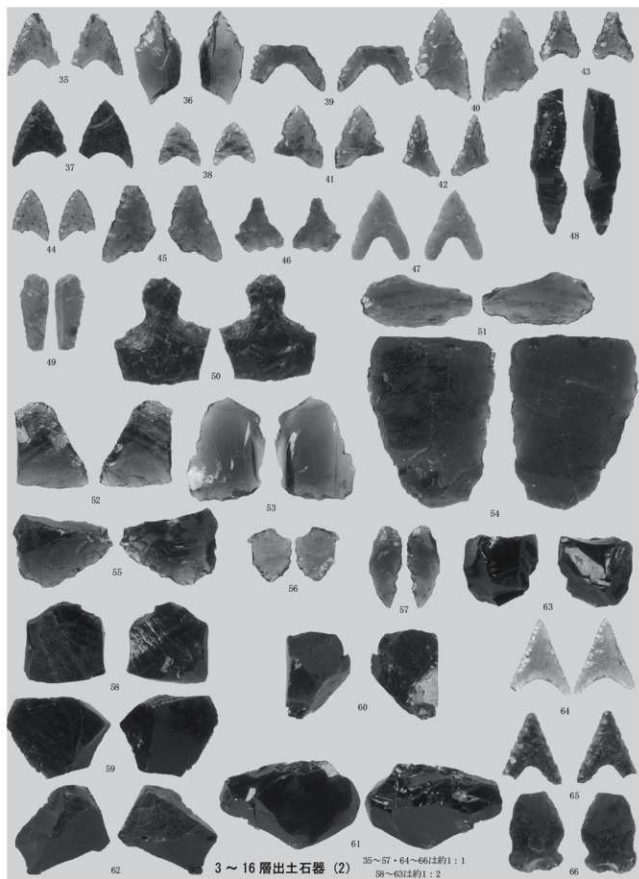


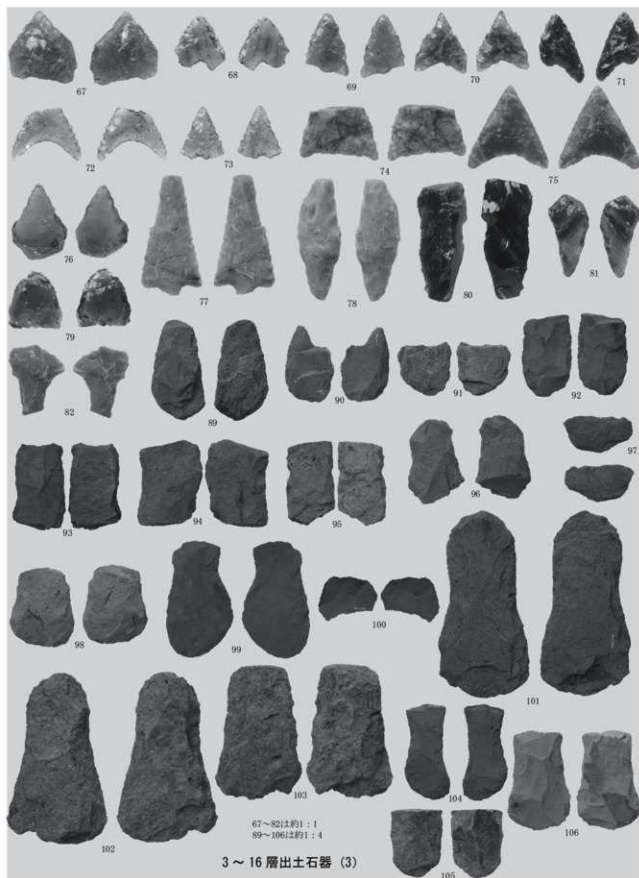


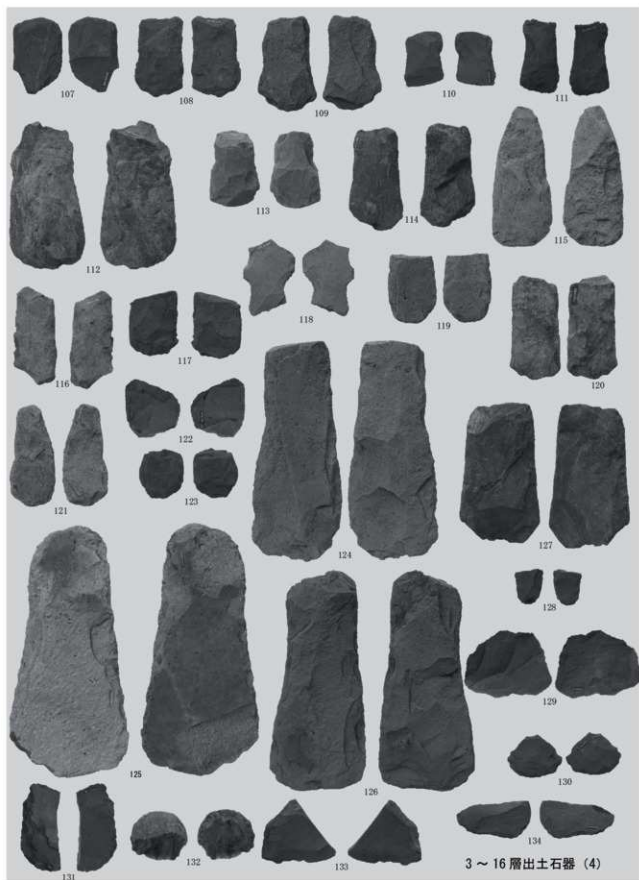


3 ~ 16 層出土土器 (縄文後期土器群・土偶・円盤状土製品)









3 ~ 16 層出土石器 (4)



3 ~ 16 層出土石器 (5)

参考文献

- 長野県埋蔵文化財センター 2001 『県単農道整備事業(ふるさと)大野田地区埋蔵文化財発掘調査報告書—浅科村内— 駒込遺跡』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書55
- 浅科村史編纂委員会 2005『浅科村史』浅科村史刊行会
- 望月町誌編纂委員会 1994 『望月町誌 第三巻 歴史編— 原始・古代 中世編』望月町誌刊行会
- 浅科村教育委員会 2001 『原遺跡』浅科村文化財調査報告第13集
- 浅科村教育委員会 2002 『海戸田A遺跡・保健センター建設事業にかかる発掘調査-』浅科村文化財調査報告第14集
- 浅科村教育委員会 2003 『兜山古墳試掘調査報告書』浅科村文化財調査報告第15集
- 望月町教育委員会 1983 『後沖遺跡- 蓼科山北麓における縄文中期初頭・4世紀玉つくり工房址の調査-』望月町文化財調査報告書第11集
- 望月町教育委員会 1984 『竹之城原遺跡 浄永坊遺跡 浦谷B遺跡- 緊急発掘調査報告書-』望月町文化財調査報告書第13集
- 望月町教育委員会 1984 『胡桃沢・瓜生坂A・宮久保A・布施山寺A・岩井遺跡- 緊急発掘調査報告書-』望月町文化財調査報告書第14集
- 望月町教育委員会 1986 『岩清水遺跡- 緊急発掘調査報告書-』望月町文化財調査報告書第16集
- 望月町教育委員会 1989 『平石遺跡- 緊急発掘調査報告書-』望月町文化財調査報告書第17集
- 望月町教育委員会 1991 『平石遺跡- 第2次緊急発掘調査報告書-』望月町文化財調査報告書第19集
- 望月町教育委員会 2005 『平石遺跡- 第3次緊急発掘調査報告書-』望月町文化財調査報告書第25集
- 佐久市教育委員会 1981 『舞台場』
- 佐久市教育委員会 1983 『中村』
- 佐久市教育委員会 1991 『立科F遺跡- ナイフ形石器文化成立期の集落研究-』佐久市埋蔵文化財調査報告書第5集
- 佐久市教育委員会 1994 『筒村遺跡B 山法師遺跡B』佐久市埋蔵文化財調査報告書第29集
- 佐久市教育委員会 2001 『榛名平・坪の内遺跡群 榛名平遺跡』第I分冊 旧石器・縄文編佐久市埋蔵文化財調査報告書第84集
- 佐久市教育委員会 2016 『薬師平遺跡I』佐久市埋蔵文化財調査報告書第236集
- 佐久市教育委員会 2013 『猫田遺跡群 井戸尻遺跡 熊の堂遺跡』佐久市埋蔵文化財調査報告書第203集

報告書抄録

ふりがな	やなぎさかいせきいち							
書名	柳坂遺跡 I							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第272集							
編著者名	久保 浩一郎							
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課 文化財事務所							
所在地	長野県佐久市中込 2913 Tel:0267-63-5321 Fax:0267-63-5322							
発行年月日	令和2年(2020年) 3月							
ふりがな	ふりがな	コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 (㎡)	調 査 原 因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
やなぎさかいせき 柳坂遺跡 I	さくしふせ 佐久市布施 3692外	20217	1091	36° 18′ 39″	138° 23′ 22″	20180711 ～ 20181107	730	道路 建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
柳坂遺跡 I	散布地	縄文時代 奈良・平安時代	土 坑 10基 ピ ッ ト 36基	縄文土器、須恵器、 円盤状土製品、土偶、 石織、石匙、石鏃、削器、刃器、 打製石斧、磨製石斧、 巖石、石皿、石棒				
要 約	佐久市西部の蓼科山麓、標高760m内外に展開する縄文時代後期を主体とする遺跡である。土坑やピットの遺構及び遺物包含層から、縄文時代前期から後期の土器・石器が出土した。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第272集

柳坂遺跡 I

令和2年(2020) 3月

編集・発行 佐久市教育委員会事務局

〒385-8501 長野県佐久市中込 3056

社会教育部 文化振興課文化財事務所

〒385-0051 長野県佐久市中込 2913

Tel:0267-63-5321

印刷所

キクハラインク株式会社